

View との連携

VMware Horizon 7 7.2



vmware®

最新の技術ドキュメントは、VMware の Web サイト (<https://docs.vmware.com/jp/>) でご確認ください。このドキュメントに関するご意見およびご感想は、docfeedback@vmware.com までお送りください。

VMware, Inc.
3401 Hillview Ave.
Palo Alto, CA 94304
www.vmware.com

ヴァイエルムウェア株式会社
105-0013 東京都港区浜松町 1-30-5
浜松町スクエア 13F
www.vmware.com/jp

Copyright © 2016 年～ 2017 年 VMware, Inc. All rights reserved. [著作権および商標情報](#)。

目次

View との連携 6

1 View の統合に関する概要 7

View のコンポーネント 7

View への統合インターフェイス 8

2 View とイベント データベースの連携 9

イベント データベースのテーブルとスキーマ 9

コネクション ブローカーのイベント 11

Horizon Agent のイベント 17

View Administrator イベント 18

イベント メッセージの属性 27

データベース クエリおよびビューのサンプル 28

3 View PowerCLI の使用 31

View PowerCLI の紹介 31

View PowerCLI がロードされた状態での PowerShell コンソールの開始 32

View PowerCLI コマンドレットのリモート システムからの使用 32

View PowerCLI のヘルプの表示 33

View PowerCLI コマンドレット エラーの原因の特定 33

同じタイプのオブジェクトのパイプ処理および指定 34

vCenter Server のパス名での文字のエスケープ 34

View Administrator、PowerCLI コマンドレット、および View コマンドライン インターフェイスの比較 35

View PowerCLI コマンドレット リファレンス 40

View PowerCLI コマンドレットのパラメータ 42

View PowerCLI コマンドレットの使用例 46

View 接続サーバ インスタンスの管理 46

View 内の vCenter Server インスタンスの管理 46

デスクトップ プールの管理 47

自動的にプロビジョニングされたデスクトップ プールの作成および更新 47

リンク クローン デスクトップ プールの作成および更新 48

手動でプロビジョニングされたデスクトップ プールの作成および更新 49

手動の管理対象外のデスクトップ プールの作成および更新 49

ユーザーおよびグループに関する情報の表示 50

デスクトップに対する資格の管理 50

リモート セッションの管理 50

仮想マシンの管理 51

物理マシンに関する情報の表示 51

仮想マシンの所有権の更新	52
イベント レポートの表示	52
グローバル設定の表示および更新	52
ライセンス キーの表示および追加	53
高度なタスクを実行する View PowerCLI の使用例	53
View 接続サーバが実行中かどうかの確認	53
自動プールおよびリンク クローン プールのサイズ変更	54
vSphere インベントリ オブジェクトへのパスの確認	56
vSphere データストア オブジェクトへのパスの確認	57
データストアの追加および削除	57
デスクトップ プールへの複数のネットワーク ラベルの割り当て	59
ネットワーク ラベル構成ファイルの形式	59
ネットワーク ラベル構成ファイルの例	60
NIC およびネットワーク ラベル情報の取得およびエクスポート	61
ネットワーク ラベル構成ファイルの確認および編集	63
複数のネットワーク ラベルを使用するデスクトップ プールのデプロイ	64
プールに対するネットワーク ラベル割り当ての表示	65
仮想マシンに対するネットワーク ラベル割り当ての表示	66
仮想マシンに対する vCenter Server のネットワーク ラベル割り当ての表示	67
ネットワーク ラベルの自動割り当ての無効化	68

4 LDAP データのカスタマイズ 69

LDAP 構成データの概要	69
LDAP 構成データの変更	70
LDAP 構成データのエクスポート	70
LDIF 構成ファイルでのデスクトップ プールの定義	70
vdmimport コマンドを使用した LDAP 構成データのインポート	73
LDIFDE コマンドを使用した LDAP 構成データのインポート	74

5 View と Microsoft SCOM の連携 76

SCOM との連携の設定	76
View 接続サーバ グループへの名前の割り当て	76
View 管理バック	77
SCOM サーバへの View 管理バックのインポート	77
View 接続サーバ ホストまたはセキュリティ サーバでのプロキシ エージェントの有効化	78
Operations Manager コンソール内での検出スクリプトの実行	78
View 接続サーバ およびセキュリティ サーバの管理対象オブジェクト	79
View のオブジェクト クラスおよび関係	79
Operations Manager コンソール内での View の監視	82
View で使用するビューおよびモニター	82
検出された管理対象 View オブジェクトの表示	84

- パフォーマンス情報の表示 84
- View 接続サーバ グループのアラートの表示 84
- アラートのクローズ 85
- View コンポーネント サービスの再起動 85
- 接続監視からのドメインの除外 85

6 WMI を使用した PColP セッション統計情報の確認 87

- PColP セッション統計情報の使用 87
- 一般的な PColP セッション統計情報 88
- PColP オーディオ統計情報 89
- PColP イメージング統計情報 90
- PColP ネットワーク統計情報 90
- PColP USB 統計情報 92
- PColP 統計情報を表示する PowerShell コマンドレットの使用例 93

7 セッション開始スクリプトを使用したデスクトップ ポリシーの設定 94

- セッション開始スクリプトの入力データの取得 94
- セッション開始スクリプト使用のベスト プラクティス 94
- セッション開始スクリプトを使用するための View デスクトップの準備 95
 - VMware View スクリプト ホスト サービスの有効化 96
 - セッション開始スクリプト用の Windows レジストリ エントリの追加 96
- セッション開始スクリプトのサンプル 98

View との連携

『View との連携』ドキュメントには、View™ ソフトウェアを Windows PowerShell、ビジネス インテリジェンスのレポート エンジン、Microsoft System Center Operations Manager (SCOM) などのサードパーティ製ソフトウェアと連携させる方法が記載されています。

対象読者

本書に記載されている情報は、View と連動するためにソフトウェアをカスタマイズまたは統合するすべての方を対象としています。本書の情報は、仮想マシン テクノロジーおよびデータセンター運用に精通した、経験の豊富な Windows または Linux システムの管理者向けに記載されています。

View の統合に関する概要

View を使用すると、システム管理者は、デスクトップをプロビジョニングし、これらのデスクトップへのユーザーアクセスを制御できます。クライアント ソフトウェアは、ユーザーを VMware vSphere™ で実行中の仮想マシン、またはネットワーク環境内で実行中の物理システムに接続します。さらに、View の管理者は、クライアント デバイスに対する View のデスクトップ セッションとアプリケーション セッションを提供するように、リモート デスクトップ サービス (RDS) ホストを構成できます。

この章には、次のトピックが含まれています。

- View のコンポーネント
- View への統合インターフェイス

View のコンポーネント

View を VMware vCenter Server と併用することで、VMware ESX® ホストまたは VMware ESXi™ ホスト上で稼動する仮想マシンからデスクトップを作成し、これらのデスクトップをエンド ユーザーにデプロイできます。View を RDS ホスト上にインストールし、デスクトップおよびアプリケーションをエンド ユーザーに展開することもできます。View は、ユーザーを認証および管理するために既存の Active Directory インフラストラクチャを利用します。

デスクトップまたはアプリケーションの作成後、権限を付与されたエンド ユーザーは、Web ベースのクライアント ソフトウェアまたはローカルにインストールされたクライアント ソフトウェアを使用して、中央の仮想マシン、バック エンドの物理システム、または RDS ホストに安全に接続できます。

View は次の主なコンポーネントから構成されます。

View 接続サーバ	クライアント接続のブローカとして機能するソフトウェア サービスであり、受信したユーザーの要求を認証した後、その要求を適切な仮想マシン、物理システム、または RDS ホストに送信します。
Horizon Agent	すべてのゲスト仮想マシン、物理システム、または RDS ホストにインストールされるソフトウェア サービスであり、それらが View によって管理されることを可能にします。Horizon Agent は接続の監視、仮想印刷、USB サポート、シングル サインオンなどの機能を提供します。
Horizon Client	View 接続サーバが通信するソフトウェア アプリケーションで、ユーザーが自分のデスクトップへのアクセスに使用します。

View Administrator

View 管理者が View 接続サーバ の構成、デスクトップおよびアプリケーション プールの展開、マシンの管理、ユーザー認証の制御、システム イベントの開始と確認、および分析作業の実行に使用する Web アプリケーションです。

注: View Administrator は、Horizon 7 では Horizon Administrator と呼ばれます。

vCenter Server

ネットワークで接続されている ESX/ESXi ホストの統合管理機能を提供するサーバです。vCenter Server インスタンスによって、データセンター内の仮想マシンを中央から構成、プロビジョニング、および管理できるようになります。

View Composer

vCenter Server インスタンス上にインストールされたソフトウェア サービスであり、View が中央で管理される 1 つの基本イメージから複数のリンク クローン デスクトップを迅速に展開できるようにします。

View への統合インターフェイス

View を外部アプリケーションと連携させるには、いくつかのインターフェイスを使用できます。

イベント データベース

イベントを Microsoft SQL Server や Oracle データベースに記録するように View を構成できます。このデータベースにアクセスして分析するには、ビジネス インテリジェンスのレポート エンジンを使用します。

View PowerCLI

PowerShell インターフェイスを使用すると、View コンポーネントでさまざまな管理タスクを実行できます。

**Lightweight Directory
Access Protocol (LDAP)**

LDAP 構成データは、View からエクスポートしたり、ここにインポートできます。View Administrator に直接アクセスしないでこの構成データを更新するスクリプトを作成できます。

**Microsoft System Center
Operations Manager
(SCOM)**

View コンポーネントの操作は、SCOM コンソールから監視できます。

**Windows Management
Instrumentation (WMI)**

PCoIP セッションのパフォーマンス統計情報を確認できます。

View とイベント データベースの連携

イベントを Microsoft SQL Server や Oracle データベースに記録するように View を構成できます。View は、エンドユーザーのアクション、管理者のアクション、システム障害やエラーを報告するアラート、統計サンプリングなどのイベントを記録します。

エンドユーザーのアクションには、デスクトップ セッションやアプリケーション セッションのログ記録や起動が含まれます。管理者のアクションには、資格の追加、およびデスクトップ プールやアプリケーション プールの作成が含まれます。統計サンプリングの一例として、過去 24 時間の最大ユーザー数の記録が挙げられます。

Crystal Reports、IBM Cognos、MicroStrategy 9、および Oracle Enterprise Performance Management System などのビジネス インテリジェンスのレポート エンジンを使用して、イベント データベースにアクセスして分析することもできます。

この章には、次のトピックが含まれています。

- イベント データベースのテーブルとスキーマ
- コネクション ブロカーのイベント
- Horizon Agent のイベント
- View Administrator イベント
- イベント メッセージの属性
- データベース クエリおよびビューのサンプル

イベント データベースのテーブルとスキーマ

View は、データベース テーブルを使用してイベント データベースを実装します。イベント データベースの先頭には、これらのテーブルの名前が、データベース設定時に定義したプリフィックスを使用して付加されます。

イベント データベースのテーブル

次の表は、イベント データベースを実装する View のデータベース テーブルを示しています。

表 2-1. イベント データベースのテーブル

テーブル名	説明
event	最近のイベントのメタデータと検索最適化データ。
event_data	最近のイベントのデータ値。

テーブル名	説明
event_data_historical	すべてのイベントのデータ値。
event_historical	すべてのイベントのメタデータと検索最適化データ。

View は、すべてのデータベース テーブルにイベントに関する詳細情報を記録します。イベント レコードの書き込み後、一定期間が経過すると、View は event テーブルと event_data テーブルからレコードを削除します。View Administrator を使用すると、データベースが event テーブルと event_data テーブルにレコードを記録する期間を構成できます。

重要: View では、event_historical テーブルと event_data_historical テーブルのサイズの上限がありません。そのため、これらのテーブルには、容量管理ポリシーを実装する必要があります。

一意のプライマリ キーである EventID は、View が event テーブルと event_historical テーブルに記録する各イベントを識別します。View は、各イベントのデータ値を event_data テーブルと event_data_historical テーブルに記録します。あるイベントの全情報を取得するには、event テーブルと event_data テーブル、または event_historical テーブルと event_data_historical テーブルを、EventID 列を基準にして結合します。

event テーブルと event_historical テーブルにある EventType 列、Severity 列、Time 列は、イベントのタイプ、重要度、発生時刻を示します。

イベント データベースの設定の詳細については、『View のインストール』のドキュメントを参照してください。

注: イベント データベースを実行していないときに、View 接続サーバ インスタンスを再起動すると、イベントが失われることがあります。この問題を回避するための解決策については、<http://kb.vmware.com/kb/1021461> を参照してください。

イベント データベースのスキーマ

次の表は、event データベース テーブルと event_historical データベース テーブルのスキーマを示しています。

表 2-2. event テーブルと event_historical テーブルのスキーマ

列名	Oracle データ タイプ	SQL Server データ タイプ	説明
Acknowledged	SMALLINT	tinyint	View がイベントを確認したかどうか。 ■ 0 = false ■ 1 = true
DesktopId	NVARCHAR2(512)	nvarchar(512)	関連プールのデスクトップ ID。
EventID	INTEGER	int	イベントの一意のプライマリ キー。
EventType	NVARCHAR2(512)	nvarchar(512)	メッセージ カタログの項目と対応するイベント名。BROKER_USERLOGGEDIN など。
FolderPath	NVARCHAR2(512)	nvarchar(512)	関連オブジェクトを格納するフォルダのフル パス。
GroupId	NVARCHAR2(512)	nvarchar(512)	Active Directory 内の関連グループの SID。
LUNId	NVARCHAR2(512)	nvarchar(512)	関連オブジェクトを格納する LUN の ID。
MachinelId	NVARCHAR2(512)	nvarchar(512)	関連する物理マシンまたは仮想マシンの ID。

列名	Oracle データ タイプ	SQL Server データ タイプ	説明
Module	NVARCHAR2(512)	nvarchar(512)	イベントの発生原因となった View コンポーネント。Admin、Broker、Tunnel、Framework、Client、Agent など。
ModuleAndEventText	NVARCHAR2(512)	nvarchar(512)	属性パラメータが代入された値を伴うイベントメッセージ。
Node	NVARCHAR2(512)	nvarchar(512)	仮想デバイス ノードの名前。
Severity	NVARCHAR2(512)	nvarchar(512)	重要度レベル。INFO、WARNING、ERROR、AUDIT_SUCCESS、AUDIT_FAIL など。
Source	NVARCHAR2(512)	nvarchar(512)	イベント ソースの ID。
ThinAppld	NVARCHAR2(512)	nvarchar(512)	関連する ThinApp™ オブジェクトの ID。
Time	TIMESTAMP	datetime	エポック時間（1970 年 1 月 1 日）から数えたイベント発生時刻。
UserDiskPathId	NVARCHAR2(512)	nvarchar(512)	ユーザー ディスクの ID。
UserSID	NVARCHAR2(512)	nvarchar(512)	Active Directory 内の関連ユーザーの SID。

次の表は、event_data データベース テーブルと event_data_historical データベース テーブルのスキーマを示しています。

表 2-3. event_data テーブルと event_data_historical テーブルのスキーマ

列名	Oracle データ タイプ	SQL Server データ タイプ	説明
BooleanValue	SMALLINT	tinyint	Boolean 属性の値。 ■ 0 = false ■ 1 = true
EventID	INTEGER	int	イベントの一意のプライマリ キー。
IntValue	INTEGER	int	整数属性の値。
Name	NVARCHAR2(512)	nvarchar(512)	属性名（例：UserDisplayName）。
StrValue	NVARCHAR2(512)	nvarchar(512)	文字列属性の値。他の種類の属性については、この列で文字列データ型として表します。
TimeValue	TIMESTAMP	datetime	日時属性の値。
Type	SMALLINT	tinyint	属性のデータ型。 ■ 0 = StrValue ■ 1 = IntValue ■ 2 = TimeValue ■ 3 = BooleanValue

コネクション ブローカーのイベント

コネクション ブローカーのイベントは、デスクトップおよびアプリケーションのセッション、ユーザー 認証エラー、プロビジョニング エラーなど、View 接続サーバに関連する情報を報告します。

BROKER_DAILY_MAX_DESKTOP_SESSIONS イベントは、過去 24 時間に同時実行したデスクトップ セッションの最大数を報告します。ユーザーが複数のデスクトップ セッションを同時に実行している場合、各デスクトップ セッションは個別にカウントされます。

BROKER_DAILY_MAX_APP_USERS イベントは、過去 24 時間に同時実行したアプリケーション ユーザーの最大数を報告します。ユーザーが複数のアプリケーションを同時に実行している場合、そのユーザーは一度だけカウントされます。サンプリングは 5 分ごとに実行されるため、存続期間の短いセッションはカウントに含まれない場合があります。

BROKER_VC_DISABLED イベントと BROKER_VC_ENABLED イベントは、View が vCenter Server インスタンスの追跡に使用する vCenter Server ドライバの状態を報告します。

BROKER_VC_STATUS_* イベントは、vCenter Server インスタンスの状態を報告します。

次の表は、View 接続サーバのすべてのイベント タイプです。

表 2-4. コネクション ブローカーのイベント

イベントのタイプ	Severity	ModuleAndEventText
BROKER_AGENT_OFFLINE	BROKER_AGENT_OFFLINE WARNING	マシン \${MachineName} で実行されているエージェントがクエリに応答しておらず、オフラインとして認識されています
BROKER_AGENT_ONLINE	WARNING	マシン \${MachineName} で実行されているエージェントが再度応答していますが、起動メッセージを送信しませんでした
BROKER_APPLICATION_LAUNCH_FAILURE	ERROR	ユーザー \${UserDisplayName} のプール \${PoolId} から開始できません：要求を処理しているときにブローカーでエラーが発生しました。サポートにお問い合わせください。
BROKER_APPLICATION_MISSING	WARNING	\${ApplicationExecutable} を含め少なくとも \${ApplicationMissingCount} 個のアプリケーションが、プール \${PoolId} の \${MachineName} にインストールされていません
BROKER_APPLICATION_NOT_ENTITLED	AUDIT_FAIL	ユーザー \${UserDisplayName} のプール \${PoolId} から開始できません：ユーザーはこのプールに対する資格がありません
BROKER_APPLICATION_PROTOCOL_NOT_SUPPORTED	AUDIT_FAIL	ユーザー \${UserDisplayName} のプール \${PoolId} から開始できません：要求されたプロトコル \${ProtocolId} はサポートされていません
BROKER_APPLICATION_REQUEST	INFO	ユーザー \${UserDisplayName} がアプリケーション \${ApplicationId} を要求しました
BROKER_APPLICATION_SESSION_REQUEST	INFO	ユーザー \${UserDisplayName} がプール \${PoolId} からアプリケーション セッションを要求しました
BROKER_DAILY_MAX_DESKTOP_SESSIONS	INFO	\${Time}：過去 24 時間に、デスクトップ セッションを同時実行した最大ユーザー数は \${UserCount} でした
BROKER_DAILY_MAX_APP_USERS	INFO	\${Time}：過去 24 時間に、アプリケーション セッションを同時実行した最大ユーザー数は \${UserCount} でした
BROKER_DESKTOP_LAUNCH_FAILURE	ERROR	ユーザー \${UserDisplayName} のプール \${DesktopId} から開始できません：要求を処理しているときにブローカーでエラーが発生しました。サポートにお問い合わせください。

イベントのタイプ	Severity	ModuleAndEventText
BROKER_DESKTOP_NOT_ENTITLED	AUDIT_FAIL	ユーザー \${UserDisplayName} のブール \${DesktopId} から開始できません：ユーザーはこのブールに対する資格がありません
BROKER_DESKTOP_PROTOCOL_NOT_SUPPORTED	AUDIT_FAIL	ユーザー \${UserDisplayName} のブール \${DesktopId} から開始できません：要求されたプロトコル \${ProtocolId} はサポートされていません
BROKER_DESKTOP_REQUEST	INFO	ユーザー \${UserDisplayName} がブール \${DesktopId} を要求しました
BROKER_EVENT_HANDLING_STARTED	INFO	ブローカー \${BrokerName} がイベントの処理を開始しました
BROKER_EVENT_HANDLING_STOPPED	INFO	\${BrokerName} がイベントの処理を停止しました
BROKER_MACHINE_ALLOCATED	INFO	ユーザー \${UserDisplayName} はブール \${DesktopId} を要求し、マシン \${MachineName} を割り当てました
BROKER_MACHINE_ASSIGNED_UNAVAILABLE	AUDIT_FAIL	ユーザー \${UserDisplayName} のブール \${DesktopId} から開始できません：割り当てられたマシン \${MachineName} が利用できません
BROKER_MACHINE_CANNOT_CONNECT	AUDIT_FAIL	ユーザー \${UserDisplayName} のブール \${DesktopId} から開始できません：\${ProtocolId} を使用してマシン \${MachineName} に接続できませんでした
BROKER_MACHINE_CONFIGURED_VIDEO_SETTINGS	INFO	ブール \${DesktopId} の仮想マシン \${MachineName} にビデオ設定が正常に構成されました
BROKER_MACHINE_NOT_READY	WARNING	ユーザー \${UserDisplayName} のブール \${DesktopId} から開始できません：マシン \${MachineName} は接続を受け入れる準備ができていません
BROKER_MACHINE_OPERATION_DELETED	INFO	マシン \${MachineName} が削除されています
BROKER_MACHINE_PROTOCOL_NOT_SUPPORTED	AUDIT_FAIL	ユーザー \${UserDisplayName} のブール \${DesktopId} から開始できません：マシン \${MachineName} はプロトコル \${ProtocolId} をサポートしていません
BROKER_MACHINE_PROTOCOL_UNAVAILABLE	AUDIT_FAIL	ユーザー \${UserDisplayName} のブール \${DesktopId} から開始できません：マシン \${MachineName} はプロトコル \${ProtocolId} を準備完了として報告しませんでした
BROKER_MACHINE_REJECTED_SESSION	WARNING	ユーザー \${UserDisplayName} のブール \${DesktopId} から開始できません：マシン \${MachineName} は開始セッション要求を拒否しました
BROKER_MACHINE_SESSION_TIMEDOUT	WARNING	ユーザー \${UserDisplayName} のセッションがタイムアウトしました
BROKER_MULTIPLE_DESKTOPS_FOR_KIOSK_USER	WARNING	ユーザー \${UserDisplayName} は複数のデスクトップ ブールに対する資格があります
BROKER_POOL_CANNOT_ASSIGN	AUDIT_FAIL	ユーザー \${UserDisplayName} のブール \${DesktopId} から開始できません：ユーザーを割り当てる利用可能なマシンがありません
BROKER_POOL_COMANAGER_REQUIRED	AUDIT_FAIL	ユーザー \${UserDisplayName} のブール \${DesktopId} から開始できません：プロトコル \${ProtocolId} で共同管理を利用できません

イベントのタイプ	Severity	ModuleAndEventText
BROKER_POOL_EMPTY	AUDIT_FAIL	ユーザー \${UserDisplayName} のブール \${DesktopId} から開始できません：デスクトップ プールが空です
BROKER_POOL_NO_MACHINE_ASSIGNED	AUDIT_FAIL	ユーザー \${UserDisplayName} のブール \${DesktopId} から開始できません：このユーザーに割り当てられているマシンがありません
BROKER_POOL_NO_RESPONSES	AUDIT_FAIL	ユーザー \${UserDisplayName} のブール \${DesktopId} から開始できません：デスクトップ プール内に応答可能なマシンがありません
BROKER_POOL_OVERLOADED	AUDIT_FAIL	ユーザー \${UserDisplayName} のブール \${DesktopId} から開始できません：応答のあったマシンはすべて現在使用中です
BROKER_POOL_POLICY_VIOLATION	AUDIT_FAIL	ユーザー \${UserDisplayName} のブール \${DesktopId} から開始できません：このデスクトップ プールではオンライン セッションが許可されていません
BROKER_POOL_PROTOCOL_NOT_SUPPORTED	AUDIT_FAIL	ユーザー \${UserDisplayName} のブール \${DesktopId} から開始できません：プロトコル \${ProtocolId} をサポートする利用可能なマシンがありませんでした
BROKER_POOL_PROTOCOL_UNAVAILABLE	AUDIT_FAIL	ユーザー \${UserDisplayName} のブール \${DesktopId} から開始できません：プロトコル \${ProtocolId} を準備完了として報告した利用可能なマシンがありませんでした
BROKER_POOL_TUNNEL_NOT_SUPPORTED	AUDIT_FAIL	ユーザー \${UserDisplayName} のブール \${DesktopId} から開始できません：プロトコル \${ProtocolId} でトンネリングがサポートされていません
BROKER_PROVISIONING_ERROR_CONFIG_CLEARED	INFO	以前に報告された構成の問題はブール \${DesktopId} に存在しなくなりました
BROKER_PROVISIONING_ERROR_CONFIG_SET	ERROR	構成の問題のため、ブール \${DesktopId} でプロビジョニング エラーが発生しました
BROKER_PROVISIONING_ERROR_DISK_CLEARED	INFO	以前に報告されたディスクの問題はブール \${DesktopId} に存在しなくなりました
BROKER_PROVISIONING_ERROR_DISK_LCReservation_CLEARED	INFO	以前に報告された使用可能な空きディスク容量がリンク クローン用に予約されていることによるエラーは、ブール \${DesktopId} に存在しなくなりました
BROKER_PROVISIONING_ERROR_DISK_LCReservation_SET	ERROR	使用可能な空きディスク容量がリンク クローン用に予約されているため、ブール \${DesktopId} でプロビジョニング エラーが発生しました
BROKER_PROVISIONING_ERROR_DISK_SET	WARNING	ディスクの問題のため、ブール \${DesktopId} でプロビジョニング エラーが発生しました
BROKER_PROVISIONING_ERROR_LICENCE_CLEARED	INFO	以前に報告されたライセンスの問題はブール \${DesktopId} に存在しなくなりました
BROKER_PROVISIONING_ERROR_LICENCE_SET	ERROR	ライセンスの問題のため、ブール \${DesktopId} でプロビジョニング エラーが発生しました
BROKER_PROVISIONING_ERROR_NETWORKING_CLEARED	INFO	以前に報告された Horizon Agent のネットワークの問題はブール \${DesktopId} に存在しなくなりました
BROKER_PROVISIONING_ERROR_NETWORKING_SET	ERROR	Horizon Agent のネットワークの問題のため、ブール \${DesktopId} でプロビジョニング エラーが発生しました

イベントのタイプ	Severity	ModuleAndEventText
BROKER_PROVISIONING_ERROR_RESOURCE_CLEARED	INFO	以前に報告されたリソースの問題はプール \${DesktopId} に存在しなくなりました
BROKER_PROVISIONING_ERROR_RESOURCE_SET	ERROR	リソースの問題のため、プール \${DesktopId} でプロビジョニングエラーが発生しました
BROKER_PROVISIONING_ERROR_TIMEOUT_CUSTOMIZATION_CLEARED	INFO	以前に報告されたカスタマイズ中のタイムアウトはプール \${DesktopId} に存在しなくなりました
BROKER_PROVISIONING_ERROR_TIMEOUT_CUSTOMIZATION_SET	ERROR	カスタマイズ中のタイムアウトのため、プール \${DesktopId} でプロビジョニングエラーが発生しました
BROKER_PROVISIONING_ERROR_VM_CLONING	ERROR	マシン \${MachineName} のプロビジョニングエラーが発生しました：マシンのクローン作成に失敗しました
BROKER_PROVISIONING_ERROR_VM_CUSTOMIZATION_ERROR	ERROR	マシン \${MachineName} のプロビジョニングエラーが発生しました：マシンのカスタマイズに失敗しました
BROKER_PROVISIONING_ERROR_VM_CUSTOMIZATION_NETWORKING	ERROR	マシン \${MachineName} のプロビジョニングエラーが発生しました：Horizon Agent と 接続サーバ とのネットワーク通信がないことによるカスタマイズエラー
BROKER_PROVISIONING_ERROR_VM_CUSTOMIZATION_TIMEOUT	ERROR	マシン \${MachineName} のプロビジョニングエラーが発生しました：カスタマイズ処理がタイムアウトしました
BROKER_PROVISIONING_SVI_ERROR_COMPOSE_AGENT_INIT_FAILED	ERROR	マシン \${MachineName} のプロビジョニングエラーが発生しました：View Composer エージェントの初期化に失敗しました
BROKER_PROVISIONING_SVI_ERROR_RECONFIG_FAILED	ERROR	マシン \${MachineName} のプロビジョニングエラーが発生しました：再構成の処理に失敗しました
BROKER_PROVISIONING_SVI_ERROR_REFIT_FAILED	ERROR	マシン \${MachineName} のプロビジョニングエラーが発生しました：再適合の処理 \${SVIOperation} が失敗しました
BROKER_PROVISIONING_SVI_ERROR_REMOVING_VM	ERROR	マシン \${MachineName} のプロビジョニングエラーが発生しました：マシンをインベントリから削除できません
BROKER_PROVISIONING_VERIFICATION_FAILED_USER_ASSIGNED	WARNING	マシン \${MachineName} のプロビジョニング検証に失敗しました：ユーザーはすでにプール \${DesktopId} のマシンに割り当てられています
BROKER_PROVISIONING_VERIFICATION_FAILED_USER_CANNOT_BE_ASSIGNED	WARNING	マシン \${MachineName} のプロビジョニング検証に失敗しました：プール \${DesktopId} がパーシステントでないため、ユーザーを割り当てることができません
BROKER_PROVISIONING_VERIFICATION_FAILED_VMNAME_IN_USE	WARNING	マシン \${MachineName} のプロビジョニング検証に失敗しました：マシンはすでに \${MachineName} という名前です。プール \${DesktopId} に存在します
BROKER_SECURITY_SERVER_ADD_FAILED	AUDIT_FAIL	セキュリティ サーバ \${SecurityServerId} を追加できませんでした
BROKER_SECURITY_SERVER_ADD_FAILED_PASSWORD_EXPIRED	AUDIT_FAIL	セキュリティ サーバ \${SecurityServerId} を追加できませんでした。ペアリング パスワードの有効期限が切れています
BROKER_SECURITY_SERVER_ADD_FAILED_PASSWORD_INCORRECT	AUDIT_FAIL	セキュリティ サーバ \${SecurityServerId} を追加できませんでした。ペアリング パスワードが正しくありません
BROKER_SECURITY_SERVER_ADD_FAILED_PASSWORD_NOT_SET	AUDIT_FAIL	セキュリティ サーバ \${SecurityServerId} を追加できませんでした。ペアリング パスワードが設定されていません

イベントのタイプ	Severity	ModuleAndEventText
BROKER_SECURITY_SERVER_ADDED	AUDIT_SUCCESS	セキュリティ サーバ \${SecurityServerId} が追加されました
BROKER_SVI_ARCHIVE_UDD_FAILED	AUDIT_FAIL	ユーザー データ ディスク \${UserDiskName} を場所 \${SVIPath} にアーカイブできませんでした
BROKER_SVI_ARCHIVE_UDD_SUCCEEDED	AUDIT_SUCCESS	ユーザー データ ディスク \${UserDiskName} を場所 \${SVIPath} にアーカイブしました
BROKER_SVI_ATTACH_UDD_FAILED	AUDIT_FAIL	ユーザー データ ディスク \${UserDiskName} を仮想マシン \${SVIVMID} に接続できませんでした
BROKER_SVI_ATTACH_UDD_SUCCEEDED	AUDIT_SUCCESS	ユーザー データ ディスク \${UserDiskName} を仮想マシン \${SVIVMID} に接続しました
BROKER_SVI_DETACH_UDD_FAILED	AUDIT_FAIL	ユーザー データ ディスク \${UserDiskName} を仮想マシン \${SVIVMID} から切り離せませんでした
BROKER_SVI_DETACH_UDD_SUCCEEDED	AUDIT_SUCCESS	ユーザー データ ディスク \${UserDiskName} を仮想マシン \${SVIVMID} から切り離しました
BROKER_USER_AUTHFAILED_ACCOUNT_DISABLED	AUDIT_FAIL	アカウントが無効になっているため、ユーザー \${UserDisplayName} は認証に失敗しました
BROKER_USER_AUTHFAILED_ACCOUNT_EXPIRED	AUDIT_FAIL	アカウントの有効期限が切れているため、ユーザー \${UserDisplayName} は認証に失敗しました
BROKER_USER_AUTHFAILED_ACCOUNT_LOCKED_OUT	AUDIT_FAIL	アカウントがロックアウトされているため、ユーザー \${UserDisplayName} は認証に失敗しました
BROKER_USER_AUTHFAILED_ACCOUNT_RESTRICTION	AUDIT_FAIL	アカウント制限のため、ユーザー \${UserDisplayName} は認証に失敗しました
BROKER_USER_AUTHFAILED_BAD_USER_PASSWORD	AUDIT_FAIL	不正なユーザー名またはパスワードのため、ユーザー \${UserDisplayName} は認証に失敗しました
BROKER_USER_AUTHFAILED_GENERAL	AUDIT_FAIL	ユーザー \${UserDisplayName} が認証に失敗しました
BROKER_USER_AUTHFAILED_NO_LOGON_SERVERS	AUDIT_FAIL	ログオン サーバがないため、ユーザー \${UserDisplayName} は認証に失敗しました
BROKER_USER_AUTHFAILED_PASSWORD_EXPIRED	AUDIT_FAIL	パスワードの有効期限が切れているため、ユーザー \${UserDisplayName} は認証に失敗しました
BROKER_USER_AUTHFAILED_PASSWORD_MUST_CHANGE	AUDIT_FAIL	パスワードを変更する必要があるため、ユーザー \${UserDisplayName} は認証に失敗しました
BROKER_USER_AUTHFAILED_SECUREID_ACCESS_DENIED	AUDIT_FAIL	ユーザー \${UserDisplayName} の SecurID アクセスが拒否されました
BROKER_USER_AUTHFAILED_SECUREID_NEWPIN_REJECTED	AUDIT_FAIL	新しいピンが拒否されたため、ユーザー \${UserDisplayName} の SecurID アクセスが拒否されました
BROKER_USER_AUTHFAILED_SECUREID_WRONG_NEXTTOKEN	AUDIT_FAIL	入力された次のトークンが誤っているため、ユーザー \${UserDisplayName} の SecurID アクセスが拒否されました
BROKER_USER_AUTHFAILED_SECUREID_WRONG_STATE	AUDIT_FAIL	状態が正しくないため、ユーザー \${UserDisplayName} の SecurID アクセスが拒否されました
BROKER_USER_AUTHFAILED_TIME_RESTRICTION	AUDIT_FAIL	時間制限のため、ユーザー \${UserDisplayName} は認証に失敗しました
BROKER_USER_NOT_AUTHORIZED	AUDIT_FAIL	ユーザー \${UserDisplayName} は認証されましたが、操作を実行する権限がありません

イベントのタイプ	Severity	ModuleAndEventText
BROKER_USER_NOT_ENTITLED	AUDIT_FAIL	ユーザー \${UserDisplayName} は認証されましたが、プールに対する資格がありません
BROKER_USERCHANGEDPASSWORD	AUDIT_SUCCESS	\${UserDisplayName} のパスワードがユーザーによって変更されました
BROKER_USERLOGGEDIN	AUDIT_SUCCESS	ユーザー \${UserDisplayName} がログインしました
BROKER_USERLOGGEDOUT	AUDIT_SUCCESS	ユーザー \${UserDisplayName} がログアウトしました
BROKER_VC_DISABLED	INFO	アドレス \${VCAddress} の vCenter は一時的に無効になっています
BROKER_VC_ENABLED	INFO	アドレス \${VCAddress} の vCenter が有効になっています
BROKER_VC_STATUS_CHANGED_CANNOT_LOGIN	WARNING	アドレス \${VCAddress} の vCenter にログインできません
BROKER_VC_STATUS_CHANGED_DOWN	INFO	アドレス \${VCAddress} の vCenter がダウンしています
BROKER_VC_STATUS_CHANGED_INVALID_CREDENTIALS	WARNING	アドレス \${VCAddress} の vCenter に無効な認証情報があります
BROKER_VC_STATUS_CHANGED_NOT_YET_CONNECTED	INFO	アドレス \${VCAddress} の vCenter にまだ接続していません
BROKER_VC_STATUS_CHANGED_RECONNECTING	INFO	アドレス \${VCAddress} の vCenter に再接続しています
BROKER_VC_STATUS_CHANGED_UNKNOWN	WARNING	アドレス \${VCAddress} の vCenter のステータスが不明です
BROKER_VC_STATUS_CHANGED_UP	INFO	アドレス \${VCAddress} の vCenter が起動しています

Horizon Agent のイベント

View Agent のイベントは、Horizon Agent に関連する情報を報告します。たとえば、特定のマシンに対してログインまたは接続切断を行ったユーザー、Horizon Agent が特定のマシンでシャットダウンしたかどうか、Horizon Agent が特定のマシンから View 接続サーバに起動メッセージを送信したかどうかなどです。

表 2-5. Horizon Agent のイベント

イベントのタイプ	重要度	ModuleAndEventText
AGENT_CONNECTED	INFO	ユーザー \${UserDisplayName} がマシン \${MachineName} の新しいセッションにログインしました
AGENT_DISCONNECTED	INFO	ユーザー \${UserDisplayName} がマシン \${MachineName} から切断しました
AGENT_ENDED	INFO	ユーザー \${UserDisplayName} がマシン \${MachineName} をログオフしました
AGENT_PENDING	INFO	マシン \${MachineName} で実行中のエージェントがユーザー \${UserDisplayName} に割り当てられたセッションを受け付けました。
AGENT_PENDING_EXPIRED	WARNING	マシン \${MachineName} のユーザー \${UserDisplayName} の保留中セッションが失効しました
AGENT_RECONFIGURED	INFO	マシン \${MachineName} が正常に再構成されました

イベントのタイプ	重要度	ModuleAndEventText
AGENT_RECONNECTED	INFO	ユーザー \${UserDisplayName} がマシン \${MachineName} に再接続しました
AGENT_RESUME	INFO	マシン \${MachineName} のエージェントからレジューム メッセージが送信されました
AGENT_SHUTDOWN	INFO	マシン \${MachineName} で実行中のエージェントがシャットダウンしたため、このマシンは利用できなくなります
AGENT_STARTUP	INFO	マシン \${MachineName} で実行中のエージェントが接続サーバに接続し、スタートアップ メッセージを送信しました。
AGENT_SUSPEND	INFO	マシン \${MachineName} のエージェントからサスペンド メッセージが送信されました

View Administrator イベント

View Administrator イベントでは、ユーザーが View Administrator で開始したアクションに関する情報がレポートされます。

表 2-6. View Administrator イベント

EventType	重要度	ModuleAndEventText
ADMIN_ADD_DESKTOP_ENTITLEMENT	AUDIT_SUCCESS	\${EntitlementDisplay} は \$ {UserDisplayName} によってプール \$ {DesktopId} に対する資格が割り当てられました
ADMIN_ADD_LICENSE	AUDIT_SUCCESS	\${UserDisplayName} がライセンスを追加しました
ADMIN_ADD_LICENSE_FAILED	AUDIT_FAIL	\${UserDisplayName} がライセンスを追加できませんでした
ADMIN_ADD_PM	AUDIT_SUCCESS	\${UserDisplayName} が物理マシン \$ {MachineName} をプール \${DesktopId} に追加しました
ADMIN_ADD_PM_FAILED	AUDIT_FAIL	\${UserDisplayName} が物理マシン \$ {MachineName} をプール \${DesktopId} に追加できませんでした
ADMIN_ADD_THINAPP_ENTITLEMENT	AUDIT_SUCCESS	アプリケーション \${ThinAppDisplayName} が \${UserDisplayName} によってデスクトップ \${MachineName} に割り当てられました
ADMIN_ADD_THINAPP_ENTITLEMENT_FAILED	AUDIT_FAIL	\${UserDisplayName} がアプリケーションの 資格を追加できませんでした
ADMIN_ADD_THINAPP_POOL_ENTITLEMENT	AUDIT_SUCCESS	アプリケーション \${ThinAppDisplayName} が \${UserDisplayName} によってプール \$ {DesktopId} に割り当てられました
ADMIN_ADMINISTRATOR_REMOVE_FAILED	AUDIT_FAIL	\${UserDisplayName} が管理者 \$ {AdminPermissionEntity} のすべての権限を 削除できませんでした

EventType	重要度	ModuleAndEventText
ADMIN_ADMINISTRATOR_REMOVED	AUDIT_SUCCESS	\${UserDisplayName} が管理者 \${AdminPermissionEntity} のすべての権限を削除しました
ADMIN_CONNECTION_BROKER_UPDATE_FAILED	AUDIT_FAIL	\${UserDisplayName} がコネクション ブローカー \${BrokerId} を更新できませんでした
ADMIN_CONNECTION_BROKER_UPDATED	AUDIT_SUCCESS	\${UserDisplayName} がコネクション ブローカー \${BrokerId} を更新しました : (<\${AttrChangeType} : \${AttrName} = \${AttrValue})
ADMIN_CONNECTION_SERVER_BACKUP_FAILED	AUDIT_FAIL	\${UserDisplayName} がコネクション ブローカー \${BrokerId} のバックアップを開始できませんでした
ADMIN_CONNECTION_SERVER_BACKUP_INITIATED	AUDIT_SUCCESS	\${UserDisplayName} がコネクション ブローカー \${BrokerId} のバックアップを開始しました
ADMIN_CONNECTION_SERVER_DISABLE_FAILED	AUDIT_FAIL	\${UserDisplayName} がコネクション ブローカー \${BrokerId} を無効にできませんでした
ADMIN_CONNECTION_SERVER_DISABLED	AUDIT_SUCCESS	\${UserDisplayName} がコネクション ブローカー \${BrokerId} を無効にしています
ADMIN_CONNECTION_SERVER_ENABLE_FAILED	AUDIT_FAIL	\${UserDisplayName} がコネクション ブローカー \${BrokerId} を有効にできませんでした
ADMIN_CONNECTION_SERVER_ENABLED	AUDIT_SUCCESS	\${UserDisplayName} がコネクション ブローカー \${BrokerId} を有効にしています
ADMIN_DATABASE_CONFIGURATION_ADD_FAILED	AUDIT_FAIL	\${UserDisplayName} がデータベース構成を追加できませんでした
ADMIN_DATABASE_CONFIGURATION_ADDED	AUDIT_SUCCESS	\${UserDisplayName} がデータベース構成を追加しました
ADMIN_DATABASE_CONFIGURATION_DELETE_FAILED	AUDIT_FAIL	\${UserDisplayName} がデータベース構成を削除できませんでした
ADMIN_DATABASE_CONFIGURATION_DELETE_FAILED	AUDIT_SUCCESS	\${UserDisplayName} がデータベース構成を削除しました
ADMIN_DATABASE_CONFIGURATION_UPDATE_FAILED	AUDIT_FAIL	\${UserDisplayName} がデータベース構成を更新できませんでした
ADMIN_DATABASE_CONFIGURATION_UPDATED	AUDIT_SUCCESS	\${UserDisplayName} がデータベース構成を更新しました
ADMIN_DEFAULT_DESKTOPPOOL_ASSIGN	AUDIT_SUCCESS	\${UserDisplayName} がデフォルト デスクトップのプール \${DesktopId} を \${UserName} に割り当てました
ADMIN_DEFAULT_DESKTOPPOOL_ASSIGN_FAILED	AUDIT_FAIL	\${UserDisplayName} がデフォルト デスクトップのプール \${DesktopId} を \${UserName} に割り当てることができませんでした
ADMIN_DEFAULT_DESKTOPPOOL_UNASSIGN	AUDIT_SUCCESS	\${UserDisplayName} が \${UserName} へのデフォルト デスクトップのプールの割り当てを削除しました

EventType	重要度	ModuleAndEventText
ADMIN_DEFAULT_DESKTOPPOOL_UNASSIGN_FAILED	AUDIT_FAIL	\${UserDisplayName} が \${UserName} へのデフォルト デスクトップのプールの割り当てを削除できませんでした
ADMIN_DESKTOP_ADDED	AUDIT_SUCCESS	\${UserDisplayName} がプール \${DesktopId} を追加しました
ADMIN_DESKTOP_ASSIGN	AUDIT_SUCCESS	\${UserDisplayName} がデスクトップ \${MachineName} を \${UserName} に割り当てました
ADMIN_DESKTOP_ASSIGN_FAILED	AUDIT_FAIL	\${UserDisplayName} がデスクトップ \${MachineName} を \${UserName} に割り当てることができませんでした
ADMIN_DESKTOP_EDITED	AUDIT_SUCCESS	\${UserDisplayName} がプール \${DesktopId} を編集しました (\$AttrChangeType: \${AttrName} = \${AttrValue})
ADMIN_DESKTOP_MAINTENANCE_MODE_UPDATE_FAILED	AUDIT_FAIL	\${UserDisplayName} がデスクトップ \${MachineName} の \${MaintenanceMode} メンテナンス モードに更新できませんでした
ADMIN_DESKTOP_MAINTENANCE_MODE_UPDATED	AUDIT_SUCCESS	\${UserDisplayName} がデスクトップ \${MachineName} を \${MaintenanceMode} メンテナンス モードに更新しました
ADMIN_DESKTOP_UNASSIGN	AUDIT_SUCCESS	\${UserDisplayName} がデスクトップ \${MachineName} の割り当てを削除しました
ADMIN_DESKTOP_UNASSIGN_FAILED	AUDIT_FAIL	\${UserDisplayName} がデスクトップ \${MachineName} の割り当てを削除できませんでした
ADMIN_ENABLE_DESKTOP_FAILED	AUDIT_FAIL	\${UserDisplayName} がプール \${DesktopId} を \${EnableStatus} に設定できませんでした
ADMIN_ENABLE_DESKTOP_SUCCEEDED	AUDIT_SUCCESS	\${UserDisplayName} がプール \${DesktopId} を \${EnableStatus} に設定しました
ADMIN_ENABLED_DESKTOP_PROVISION_FAILED	AUDIT_FAIL	\${UserDisplayName} がプール \${DesktopId} のプロビジョニングを \${EnableStatus} に設定できませんでした
ADMIN_ENABLED_DESKTOP_PROVISION_SUCCEEDED	AUDIT_SUCCESS	\${UserDisplayName} がプール \${DesktopId} のプロビジョニングを \${EnableStatus} に設定しました
ADMIN_EVENT_CONFIGURATION_UPDATE_FAILED	AUDIT_FAIL	\${UserDisplayName} がイベント構成を更新できませんでした
ADMIN_EVENT_CONFIGURATION_UPDATED	AUDIT_SUCCESS	\${UserDisplayName} がグローバル構成を更新しました
ADMIN_FOLDER_ADD_FAILED	AUDIT_FAIL	\${UserDisplayName} がフォルダ \${AdminFolderName} を追加できませんでした
ADMIN_FOLDER_ADDED	AUDIT_SUCCESS	\${UserDisplayName} がフォルダ \${AdminFolderName} を追加しました

EventType	重要度	ModuleAndEventText
ADMIN_FOLDER_CHANGE_FAILED	AUDIT_FAIL	\${UserDisplayName} がオブジェクト \$ {ObjectID} (type=\${ObjectType}) をフォル ダ \${AdminFolderName} に変更できません でした
ADMIN_FOLDER_CHANGED	AUDIT_SUCCESS	\${UserDisplayName} がオブジェクト \$ {ObjectID} (type=\${ObjectType}) をフォル ダ \${AdminFolderName} に変更しました
ADMIN_FOLDER_DELETE_FAILED	AUDIT_FAIL	\${UserDisplayName} がフォルダ \$ {AdminFolderName} を削除できませんでし た
ADMIN_FOLDER_DELETED	AUDIT_SUCCESS	\${UserDisplayName} がフォルダ \$ {AdminFolderName} を削除しました
ADMIN_GLOBAL_CONFIGURATION_UPDATE_FAILED	AUDIT_FAIL	\${UserDisplayName} がグローバル構成を更 新できませんでした
ADMIN_GLOBAL_CONFIGURATION_UPDATED	AUDIT_SUCCESS	\${UserDisplayName} がグローバル構成を更 新しました (\${AttrChangeType} : \$ {AttrName} = \${AttrValue})
ADMIN_GLOBAL_POLICY_UPDATE_FAILED	AUDIT_FAIL	\${UserDisplayName} がグローバル ポリシー を更新できませんでした
ADMIN_GLOBAL_POLICY_UPDATED	AUDIT_SUCCESS	\${UserDisplayName} がグローバル ポリシー を更新しました (\${AttrChangeType} : \$ {AttrName} = \${AttrValue})
ADMIN_PERFMON_CONFIGURATION_UPDATE_FAILED	AUDIT_FAIL	\${UserDisplayName} がパフォーマンス監視 構成を更新できませんでした
ADMIN_PERFMON_CONFIGURATION_UPDATED	AUDIT_SUCCESS	\${UserDisplayName} がパフォーマンス監視 構成を更新しました
ADMIN_PERMISSION_ADD_FAILED	AUDIT_FAIL	\${UserDisplayName} がフォルダ \$ {AdminFolderName} のロール \$ {AdminRoleName} で \$ {AdminPermissionEntity} に権限を追加でき ませんでした
ADMIN_PERMISSION_ADDED	AUDIT_SUCCESS	\${UserDisplayName} がフォルダ \$ {AdminFolderName} のロール \$ {AdminRoleName} で \$ {AdminPermissionEntity} に権限を追加しま した
ADMIN_PERMISSION_REMOVE_FAILED	AUDIT_FAIL	\${UserDisplayName} がフォルダ \$ {AdminFolderName} のロール \$ {AdminRoleName} で \$ {AdminPermissionEntity} への権限を削除で きませんでした
ADMIN_PERMISSION_REMOVED	AUDIT_SUCCESS	\${UserDisplayName} がフォルダ \$ {AdminFolderName} のロール \$ {AdminRoleName} で \$ {AdminPermissionEntity} への権限を削除し ました

EventType	重要度	ModuleAndEventText
ADMIN_POOL_POLICY_UPDATE_FAILED	AUDIT_FAIL	\${UserDisplayName} がプール \${DesktopId} のポリシーを更新できませんでした
ADMIN_POOL_POLICY_UPDATED	AUDIT_SUCCESS	\${UserDisplayName} がプール \${DesktopId} のポリシーを更新しました (\${AttrChangeType} : \${AttrName} = \${AttrValue})
ADMIN_REMOVE_DESKTOP_ENTITLEMENT	AUDIT_SUCCESS	\${EntitlementDisplay} は \${UserDisplayName} によってプール \${DesktopId} に対する資格が取り消されました。
ADMIN_REMOVE_DESKTOP_FAILED	AUDIT_FAIL	\${UserDisplayName} がプール \${DesktopId} を削除できませんでした
ADMIN_REMOVE_DESKTOP_SUCCEEDED	AUDIT_SUCCESS	\${UserDisplayName} がプール \${DesktopId} を削除しました
ADMIN_REMOVE_THINAPP_ENTITLEMENT	AUDIT_SUCCESS	アプリケーション \${ThinAppDisplayName} のデスクトップ \${MachineName} への割り当てが \${UserDisplayName} によって解除されました
ADMIN_REMOVE_THINAPP_ENTITLEMENT_FAILED	AUDIT_FAIL	\${UserDisplayName} がアプリケーションの資格を削除できませんでした
ADMIN_REMOVE_THINAPP_POOL_ENTITLEMENT	AUDIT_SUCCESS	アプリケーション \${ThinAppDisplayName} が \${UserDisplayName} によってプール \${DesktopId} への割り当てが解除されました
ADMIN_RESET_THINAPP_STATE	AUDIT_SUCCESS	デスクトップ \${DesktopDisplayName} のアプリケーション \${ThinAppDisplayName} の状態は、\${UserDisplayName} によってリセットされました
ADMIN_RESET_THINAPP_STATE_FAILED	AUDIT_FAIL	\${UserDisplayName} が \${ThinAppDisplayName} のアプリケーション状態をリセットできませんでした
ADMIN_ROLE_ADD_FAILED	AUDIT_FAIL	\${UserDisplayName} が権限 \${AdminPrivilegeName} のあるロール \${AdminRoleName} を追加できませんでした
ADMIN_ROLE_ADDED	AUDIT_SUCCESS	\${UserDisplayName} が権限 \${AdminPrivilegeName} のあるロール \${AdminRoleName} を追加しました
ADMIN_ROLE_PRIV_UPDATE_FAILED	AUDIT_FAIL	\${UserDisplayName} がロール \${AdminRoleName} を権限 \${AdminPrivilegeName} に更新できませんでした
ADMIN_ROLE_PRIV_UPDATED	AUDIT_SUCCESS	\${UserDisplayName} がロール \${AdminRoleName} を権限 \${AdminPrivilegeName} に更新しました
ADMIN_ROLE_REMOVE_FAILED	AUDIT_FAIL	\${UserDisplayName} がロール \${AdminRoleName} を削除できませんでした

EventType	重要度	ModuleAndEventText
ADMIN_ROLE_REMOVED	AUDIT_SUCCESS	\${UserDisplayName} がロール \$ {AdminRoleName} を削除しました
ADMIN_ROLE_RENAME_FAILED	AUDIT_FAIL	\${UserDisplayName} がロール \$ {AdminRoleName} の名前を \$ {AdminRoleNewName} に変更できませんでした
ADMIN_ROLE_RENAMED	AUDIT_SUCCESS	\${UserDisplayName} がロール \$ {AdminRoleName} の名前を \$ {AdminRoleNewName} に変更しました
ADMIN_SECURITY_SERVER_ADD_FAILED	AUDIT_FAIL	\${UserDisplayName} がセキュリティ サーバ \${SecurityServerId} を追加できませんでした
ADMIN_SECURITY_SERVER_ADDED	AUDIT_SUCCESS	\${UserDisplayName} がセキュリティ サーバ \${SecurityServerId} を追加しました
ADMIN_SECURITY_SERVER_EDIT_FAILED	AUDIT_FAIL	\${UserDisplayName} がセキュリティ サーバ \${SecurityServerId} を編集できませんでした
ADMIN_SECURITY_SERVER_EDITED	AUDIT_SUCCESS	\${UserDisplayName} がセキュリティ サーバ \${SecurityServerId} を編集しました (\$ {AttrChangeType} : \${AttrName} = \$ {AttrValue})
ADMIN_SECURITY_SERVER_REMOVE_FAILED	AUDIT_FAIL	\${UserDisplayName} がセキュリティ サーバ \${SecurityServerId} を削除できませんでした
ADMIN_SECURITY_SERVER_REMOVED	AUDIT_SUCCESS	\${UserDisplayName} がセキュリティ サーバ \${SecurityServerId} を削除しました
ADMIN_SESSION_SENDMSG	AUDIT_SUCCESS	\${UserDisplayName} がメッセージ (\$ {SessionMessage}) をセッション (ユーザー \$ {UserName}、デスクトップ \$ {MachineName}) に送信しました
ADMIN_SESSION_SENDMSG_FAILED	AUDIT_FAIL	\${UserDisplayName} がメッセージ (\$ {SessionMessage}) をセッション \${ObjectId} に送信できませんでした
ADMIN_SVI_ADD_DEPLOYMENT_GROUP_FAILED	AUDIT_FAIL	\${SVIParentVM} の導入グループを追加でき ませんでした : \${SVISnapshot}
ADMIN_SVI_ADD_DEPLOYMENT_GROUP_SUCCEEDED	AUDIT_SUCCESS	\${SVIParentVM} の導入グループ \$ {SVIDeploymentGroupId} が追加されまし た : \${SVISnapshot}
ADMIN_SVI_ADD_UDD_FAILED	AUDIT_FAIL	ユーザー データ ディスク \${UserDiskName} を追加できませんでした
ADMIN_SVI_ADD_UDD_SUCCEEDED	AUDIT_SUCCESS	ユーザー データ ディスク \${UserDiskName} を追加しました
ADMIN_SVI_ADMIN_ADDED	AUDIT_SUCCESS	\${UserDisplayName} が SVI QuickPrep ドメ イン \${SVIAdminFqdn} (\${SVIAdminName}) を追加しました
ADMIN_SVI_ADMIN_REMOVED	AUDIT_SUCCESS	\${UserDisplayName} が SVI QuickPrep ドメ イン (id=\${SVIAdminID}) を削除しました

EventType	重要度	ModuleAndEventText
ADMIN_SVI_ADMIN_UPDATED	AUDIT_SUCCESS	\${UserDisplayName} が SVI QuickPrep ドメイン \${SVIAdminFqdn} (\${SVIAdminName}) を更新しました
ADMIN_SVI_ATTACH_UDD_FAILED	AUDIT_FAIL	仮想マシン \${SVIVMID} へのユーザー データ ディスク \${UserDiskName} の接続を要求できませんでした
ADMIN_SVI_ATTACH_UDD_SUCCEEDED	AUDIT_SUCCESS	仮想マシン \${SVIVMID} へのユーザー データ ディスク \${UserDiskName} の接続を要求しました
ADMIN_SVI_DELETE_UDD_FAILED	AUDIT_FAIL	ユーザー データ ディスク \${UserDiskName} を削除できませんでした
ADMIN_SVI_DELETE_UDD_SUCCEEDED	AUDIT_SUCCESS	ユーザー データ ディスク \${UserDiskName} を削除しました
ADMIN_SVI_DETACH_UDD_FAILED	AUDIT_FAIL	仮想マシン \${SVIVMID} からのユーザー データ ディスク \${UserDiskName} の切り離しを要求できませんでした
ADMIN_SVI_DETACH_UDD_SUCCEEDED	AUDIT_SUCCESS	仮想マシン \${SVIVMID} からのユーザー データ ディスク \${UserDiskName} の切り離しを要求しました
ADMIN_SVI_REBALANCE_VM_FAILED	AUDIT_FAIL	仮想マシン \${SVIVMID} を再調整できませんでした
ADMIN_SVI_REBALANCE_VM_SUCCEEDED	AUDIT_SUCCESS	仮想マシン \${SVIVMID} を再調整しました
ADMIN_SVI_REFRESH_VM_FAILED	AUDIT_FAIL	仮想マシン \${SVIVMID} を更新できませんでした
ADMIN_SVI_REFRESH_VM_SUCCEEDED	AUDIT_SUCCESS	仮想マシン \${SVIVMID} を更新しました
ADMIN_SVI_RESYNC_VM_FAILED	AUDIT_FAIL	導入グループ \${SVIDeploymentGroupId} に対して仮想マシン \${SVIVMID} を再同期できませんでした
ADMIN_SVI_RESYNC_VM_SUCCEEDED	AUDIT_SUCCESS	導入グループ \${SVIDeploymentGroupId} に対して仮想マシン \${SVIVMID} を再同期しました
ADMIN_SVI_UPDATE_POOL_DEPLOYMENT_GROUP_FAILED	AUDIT_FAIL	導入グループ \${SVIDeploymentGroupId} に対してプール \${DesktopId} を更新できませんでした
ADMIN_SVI_UPDATE_POOL_DEPLOYMENT_GROUP_SUCCEEDED	AUDIT_SUCCESS	導入グループ \${SVIDeploymentGroupId} に対してプール \${DesktopId} を更新しました
ADMIN_SVI_UPDATE_UDD_FAILED	AUDIT_FAIL	ユーザー データ ディスク \${UserDiskName} を更新できませんでした
ADMIN_SVI_UPDATE_UDD_SUCCEEDED	AUDIT_SUCCESS	ユーザー データ ディスク \${UserDiskName} プールを \${DesktopId} に、ユーザーを \${UserName} に設定しました
ADMIN_THINAPP_ADD_FAILED	AUDIT_FAIL	\${UserDisplayName} がアプリケーション \${ThinAppDisplayName} を追加できませんでした

EventType	重要度	ModuleAndEventText
ADMIN_THINAPP_ADDED	AUDIT_SUCCESS	\${UserDisplayName} がアプリケーション \$ {ThinAppDisplayName} を追加しました
ADMIN_THINAPP_DESKTOP_AVAILABLE	AUDIT_SUCCESS	アプリケーション \$ {ThinAppDisplayName} はデスクトップ \$ {DesktopDisplayName} で利用できるようになりました
ADMIN_THINAPP_DESKTOP_REMOVED	AUDIT_SUCCESS	アプリケーション \$ {ThinAppDisplayName} がデスクトップ \$ {DesktopDisplayName} から削除されました
ADMIN_THINAPP_EDITED	AUDIT_SUCCESS	\${UserDisplayName} がアプリケーション \$ {ThinAppDisplayName} を編集しました
ADMIN_THINAPP_FAILED_DESKTOP_DELIVERY	AUDIT_FAIL	アプリケーション \$ {ThinAppDisplayName} をデスクトップ \$ {DesktopDisplayName} に提供できませんでした
ADMIN_THINAPP_FAILED_DESKTOP_REMOVAL	AUDIT_FAIL	アプリケーション \$ {ThinAppDisplayName} をデスクトップ \$ {DesktopDisplayName} から削除できませんでした
ADMIN_THINAPP_GROUP_ADD_FAILED	AUDIT_FAIL	\${UserDisplayName} がアプリケーション テンプレート \$ {ThinAppGroupName} を追加できませんでした
ADMIN_THINAPP_GROUP_ADDED	AUDIT_SUCCESS	\${UserDisplayName} がアプリケーション \$ {ThinAppGroupApplications} でアプリケーション テンプレート \$ {ThinAppGroupName} を追加しました
ADMIN_THINAPP_GROUP_EDIT_FAILED	AUDIT_FAIL	\${UserDisplayName} は、アプリケーション テンプレート \$ {ThinAppGroupName} を編集できませんでした
ADMIN_THINAPP_GROUP_EDITED	AUDIT_SUCCESS	\${UserDisplayName} がアプリケーション \$ {ThinAppGroupApplications} を使用して、アプリケーション テンプレート \$ {ThinAppGroupName} を編集しました
ADMIN_THINAPP_GROUP_REMOVE_FAILED	AUDIT_FAIL	\${UserDisplayName} は、アプリケーション テンプレート \$ {ThinAppGroupName} を削除できませんでした
ADMIN_THINAPP_GROUP_REMOVED	AUDIT_SUCCESS	\${UserDisplayName} がアプリケーション テンプレート \$ {ThinAppGroupName} を削除しました
ADMIN_THINAPP_REMOVE_FAILED	AUDIT_FAIL	\${UserDisplayName} がアプリケーション \$ {ThinAppDisplayName} を削除できませんでした
ADMIN_THINAPP_REMOVED	AUDIT_SUCCESS	\${UserDisplayName} がアプリケーション \$ {ThinAppDisplayName} を削除しました
ADMIN_THINAPP_REPO_ADD_FAILED	AUDIT_FAIL	\${UserDisplayName} がリポジトリ \$ {ThinAppRepositoryName}、パス \$ {ThinAppRepositoryPath} を追加できませんでした

EventType	重要度	ModuleAndEventText
ADMIN_THINAPP_REPO_ADDED	AUDIT_SUCCESS	\${UserDisplayName} がリポジトリ \$ {ThinAppRepositoryName}、パス \$ {ThinAppRepositoryPath} を追加しました
ADMIN_THINAPP_REPO_EDIT_FAILED	AUDIT_FAIL	\${UserDisplayName} がリポジトリ \$ {ThinAppRepositoryName}、パス \$ {ThinAppRepositoryPath} を編集できません でした
ADMIN_THINAPP_REPO_EDITED	AUDIT_SUCCESS	\${UserDisplayName} がリポジトリ \$ {ThinAppRepositoryName}、パス \$ {ThinAppRepositoryPath} を編集しました
ADMIN_THINAPP_REPO_REMOVED	AUDIT_SUCCESS	\${UserDisplayName} がリポジトリ \$ {ThinAppRepositoryName} を削除しました
ADMIN_UNREGISTER_PM	AUDIT_SUCCESS	\${UserDisplayName} が物理マシン \$ {MachineName} の登録を解除しました
ADMIN_UNREGISTER_PM_FAILED	AUDIT_FAIL	\${UserDisplayName} が物理マシン \$ {MachineName} の登録を解除できませんで した
ADMIN_USER_INFO_UPDATE_FAILED	AUDIT_FAIL	\${UserDisplayName} が AD サーバで \$ {UserName} のユーザー情報を更新できません でした
ADMIN_USER_INFO_UPDATED	AUDIT_SUCCESS	\${UserDisplayName} が AD サーバで \$ {UserName} のユーザー情報を更新しました
ADMIN_USER_POLICY_DELETE_FAILED	AUDIT_FAIL	\${UserDisplayName} がユーザー \$ {UserName} のプール \${DesktopId} 上書きポ リシーを削除できませんでした
ADMIN_USER_POLICY_DELETED	AUDIT_SUCCESS	\${UserDisplayName} がユーザー \$ {UserName} のプール \${DesktopId} 上書きポ リシーを削除しました (\${AttrChangeType} : \${AttrName} = \${AttrValue})
ADMIN_USER_POLICY_UPDATE_FAILED	AUDIT_FAIL	\${UserDisplayName} がユーザー \$ {UserName} のプール \${DesktopId} のポリシ ーを更新できませんでした
ADMIN_USER_POLICY_UPDATED	AUDIT_SUCCESS	\${UserDisplayName} がユーザー \$ {UserName} のプール \${DesktopId} のポリシ ーを更新しました (\${AttrChangeType} : \$ {AttrName} = \${AttrValue})
ADMIN_USERLOGGEDIN	AUDIT_SUCCESS	ユーザー \${UserDisplayName} が View Administrator にログインしました
ADMIN_USERLOGGEDOUT	AUDIT_SUCCESS	ユーザー \${UserDisplayName} が View Administrator からログアウトしました
ADMIN_VC_ADD_FAILED	AUDIT_FAIL	\${UserDisplayName} が VC サーバ \$ {VCAddress} を追加できませんでした
ADMIN_VC_ADDED	AUDIT_SUCCESS	\${UserDisplayName} が VC サーバ \$ {VCAddress} を追加しました

EventType	重要度	ModuleAndEventText
ADMIN_VC_EDITED	AUDIT_SUCCESS	\${UserDisplayName} が VC サーバ \$ {VCAddress}を編集しました (\$ {AttrChangeType} : \${AttrName} = \$ {AttrValue})
ADMIN_VC_LICINV_ALARM_DISABLED	AUDIT_SUCCESS	すべてのホストにデスクトップ ライセンスがあ るため、VC サーバ \${VCAddress} のライセンス インベントリ監視のアラームが無効になりまし た
ADMIN_VC_REMOVE_FAILED	AUDIT_FAIL	\${UserDisplayName} が VC サーバ \$ {VCAddress} を削除できませんでした
ADMIN_VC_REMOVED	AUDIT_SUCCESS	\${UserDisplayName} が VC サーバ \$ {VCAddress} を削除しました

イベント メッセージの属性

ModuleAndEventText メッセージは特定の属性を使用します。属性のデータ タイプを確認するには、event_data テーブルまたは event_data_historical テーブルのタイプ列の値を調べます。

表 2-7. ModuleAndEventText メッセージで使用される属性

属性名	説明
AdminFolderName	権限付きのアクセスを必要とするフォルダの名前。
AdminPermissionEntity	権限付きのアクセスを必要とするオブジェクトの名前。
AdminPrivilegeName	管理権限の名前。
AdminRoleName	管理ロールの名前。
AdminRoleNewName	管理ロールの新しい名前。
AttrChangeType	汎用属性に適用された変更の種類。
AttrName	汎用属性の名前。
AttrValue	汎用属性の値。
BrokerId	View 接続サーバ インスタンスの ID。
BrokerName	View 接続サーバ インスタンスの名前。
DesktopDisplayName	デスクトップ プールの表示名。
DesktopId	デスクトップ プールの ID。
EntitlementDisplay	デスクトップに対する資格の表示名。
MachinelId	物理マシンまたは仮想マシンの名前。
MachineName	物理マシンまたは仮想マシンの名前。
MaintenanceMode	メンテナンス モードの状態。
ObjectID	インベントリ オブジェクトの ID。
ObjectType	インベントリ オブジェクトのタイプ。
PolicyDisplayName	ポリシーの表示名。

属性名	説明
PolicyObject	ポリシー オブジェクトの ID。
PolicyValue	ポリシー オブジェクトの値。
ProtocolId	表示プロトコルの ID。
SecurityServerId	セキュリティ サーバの ID。
SVIAdminFqdn	QuickPrep ドメインの完全修飾ドメイン名 (FQDN)。
SVIAdminID	QuickPrep ドメインの ID。
SVIAdminName	QuickPrep ドメインの名前。
SVIDeploymentGroupId	View Composer 導入グループの ID。
SVIOperation	View Composer 操作の名前。
SVIParentVM	View Composer での親仮想マシン。
SVIPath	View Composer でのオブジェクトのパス。
SVISnapshot	View Composer でのスナップショット。
SVIVMID	View Composer での仮想マシンの ID。
ThinAppDisplayName	ThinApp オブジェクトの表示名。
ThinAppId	ThinApp オブジェクトの ID。
ThinAppRepositoryName	ThinApp リポジトリの名前。
ThinAppRepositoryPath	ThinApp リポジトリのパス。
Time	日時の値。
UserCount	過去 24 時間のデスクトップ ユーザーの最大数。
UserDiskName	ユーザー データ ディスクの名前。
UserDisplayName	DOMAIN\username 形式で表すユーザー名。
UserName	Active Directory のユーザー名。
VCAAddress	vCenter Server の URL。

データベース クエリおよびビューのサンプル

クエリを使用して event_historical データベースに問い合わせ、エラー イベント、警告イベント、および特定の最近のイベントを表示できます。

注: 自分のイベント データベース用に、次の例の dbo.VE_ prefix を該当するプリフィックスに置き換えます。

エラー イベントの一覧表示

次のクエリでは、event_historical テーブルからのすべてのエラー イベントが表示されます。

```
CREATE VIEW error_events AS
(
  SELECT ev.EventID, ev.Time, ev.Module, ev.EventType, ev.ModuleAndEventText
  FROM dbo.VE_event_historical AS ev
```

```
WHERE ev.Severity = 'ERROR'
);
```

警告イベントの一覧表示

次のクエリでは、event_historical テーブルからのすべての警告イベントが表示されます。

```
CREATE VIEW warning_events AS
(
  SELECT ev.EventID, ev.Time, ev.Module, ev.EventType, ev.ModuleAndEventText
  FROM dbo.VE_event_historical AS ev
  WHERE ev.Severity = 'WARNING'
);
```

最近のイベントの一覧表示

次のクエリでは、MYDOM ドメイン内のユーザー fred に関連付けられたすべての最近のイベントが一覧表示されます。

```
CREATE VIEW user_fred_events AS
(
  SELECT ev.EventID, ev.Time, ev.Module, ev.EventType, ev.Severity, ev.Acknowledged
  FROM dbo.VE_event_historical AS ev,
       dbo.VE_event_data_historical AS ed
  WHERE ev.EventID = ed.EventID AND ed.Name = 'UserDisplayName' AND ed.StrValue =
        'MYDOM\fred'
);
```

次のクエリでは、マシン上のエージェントがシャットダウンされるすべての最近のイベントが一覧表示されます。

```
CREATE VIEW agent_shutdown_events AS
(
  SELECT ev.EventID, ev.Time, ed.StrValue
  FROM dbo.VE_event_historical AS ev,
       dbo.VE_event_data_historical AS ed
  WHERE ev.EventID = ed.EventID AND ev.EventType = 'AGENT_SHUTDOWN' AND
        ed.Name = 'MachineName'
);
```

次のクエリでは、デスクトップ プールが空であったために、デスクトップの開始に失敗したすべての最近のイベントが一覧表示されます。

```
CREATE VIEW desktop_launch_failure_events AS
(
  SELECT ev.EventID, ev.Time, ed1.StrValue, ed2.StrValue
  FROM dbo.VE_event_historical AS ev,
       dbo.VE_event_data_historical AS ed1,
       dbo.VE_event_data_historical AS ed2
  WHERE ev.EventID = ed1.EventID AND ev.EventID = ed2.EventID AND
        ev.EventType = 'BROKER_POOL_EMPTY' AND
        ed1.Name = 'UserDisplayName' AND ed2.Name = 'DesktopId'
);
```

次のクエリでは、管理者がデスクトップ プールを削除したすべての最近のイベントが一覧表示されます。

```
CREATE VIEW desktop_pool_removed_events AS
(
  SELECT ev.EventID, ev.Time, ed1.StrValue, ed2.StrValue
    FROM dbo.VE_event_historical AS ev,
         dbo.VE_event_data_historical AS ed1,
         dbo.VE_event_data_historical AS ed2
   WHERE ev.EventID = ed1.EventID AND ev.EventID = ed2.EventID AND
         ev.EventType = 'ADMIN_DESKTOP_REMOVED' AND
         ed1.Name = 'UserDisplayName' AND ed2.Name = 'DesktopId'
);
```

次のクエリでは、管理者が ThinApp リポジトリを追加したすべての最近のイベントが一覧表示されます。

```
CREATE VIEW thinapp_repository_added_events AS
(
  SELECT ev.EventID, ev.Time, ed1.StrValue, ed2.StrValue, ed3.StrValue
    FROM dbo.VE_event_historical AS ev,
         dbo.VE_event_data_historical AS ed1,
         dbo.VE_event_data_historical AS ed2,
         dbo.VE_event_data_historical AS ed3
   WHERE ev.EventID = ed1.EventID AND ev.EventID = ed2.EventID AND ev.EventID = ed3.EventID
   AND
         ev.EventType = 'ADMIN_THINAPP_REPO_ADDED' AND
         ed1.Name = 'UserDisplayName' AND ed2.Name = 'ThinAppRepositoryName' AND
         ed3.Name = 'ThinAppRepositoryPath'
);
```

View PowerCLI の使用

Horizon 7 バージョン 7.0.3 以降、View PowerCLI は廃止されます。

以前のバージョンの Horizon 7 では、簡単に使える View への PowerShell インターフェイスとして View PowerCLI を使用でき、View コンポーネントに対する各種管理タスクの実行のために View PowerCLI コマンドレットを使用できます。

Horizon 7 バージョン 7.0.3 では、Horizon PowerCLI コマンドレットを VMware PowerCLI と一緒に使用できます。Horizon PowerCLI コマンドレットを使用して、Horizon コンポーネントに対する各種管理タスクを実行できます。

Horizon PowerCLI コマンドレットの詳細については、『VMware PowerCLI Cmdlets Reference』を参照してください。

高度な関数およびスクリプトを作成して Horizon PowerCLI と一緒に使用するための API 仕様の詳細については、[VMware Developer Center](#) の View API リファレンスを参照してください。

独自の Horizon PowerCLI スクリプトを作成するために使用できるサンプル スクリプトの詳細については、[GitHub の Horizon PowerCLI コミュニティ](#)を参照してください。

この章には、次のトピックが含まれています。

- [View PowerCLI の紹介](#)
- [View Administrator、PowerCLI コマンドレット、および View コマンドライン インターフェイスの比較](#)
- [View PowerCLI コマンドレット リファレンス](#)
- [View PowerCLI コマンドレットのパラメータ](#)
- [View PowerCLI コマンドレットの使用例](#)
- [高度なタスクを実行する View PowerCLI の使用例](#)
- [デスクトップ プールへの複数のネットワーク ラベルの割り当て](#)

View PowerCLI の紹介

PowerShell は、Microsoft Windows 向けに設計されたコマンド ラインおよびスクリプト作成環境です。PowerShell では .NET オブジェクト モデルが使用され、管理機能と自動化機能が管理者に提供されます。PowerShell の cmdlet（コマンドレット）というコマンドを実行して PowerShell の作業を行います。View PowerCLI コマンドレットのコマンドライン構文は、一般の PowerShell 構文と同じです。

View PowerCLI コマンドレットは、C:\Program Files\VMware\VMware View\Server\bin ディレクトリにインストールされている PowershellServiceCmdlets.dll ファイルで定義されます。

PowershellServiceCmdlets.dll ファイルは、VMware.View.Broker スナップインの構成要素です。

View PowerCLI コマンドレット スクリプト構成ファイルである InitViewCmdlets.ps1 は、コマンドレット エイリアスの定義、環境の構成、および起動時の動作設定を行うため、編集および拡張できます。

InitViewCmdlets.ps1 は、View のインストール ディレクトリ内の Extras フォルダにあります。

View PowerCLI コマンドレットは、vSphere PowerCLI コマンドレットと組み合わせて使用できます。vSphere PowerCLI コマンドレットは、VMware vSphere への管理インターフェイスを提供します。View 接続サーバ インスタンスに vSphere PowerCLI がインストールされると、View PowerCLI の起動時に vSphere PowerCLI コマンドレットがロードされます。

仮想マシンと vCenter Server インスタンスへの参照は View PowerCLI の ID で行えますが、これらのエンティティをオブジェクトとして渡すことはできません。リソース プールやフォルダなどのその他の vSphere オブジェクトについては、フルパスを指定する必要があります。View PowerCLI コマンドレットを使用すると、View 内での vCenter Server インスタンスの構成を調べることができます。

PowerShell の使用法に関する一般情報については、Microsoft のドキュメントを参照してください。

View PowerCLI がロードされた状態での PowerShell コンソールの開始

View PowerCLI コマンドレットは、View 接続サーバ ホスト上で直接実行できます。

前提条件

View 接続サーバ ホストに次のソフトウェアがインストールされていることを確認します。

- View 4.5 以降
- Microsoft .NET Framework
- Windows PowerShell 1.0

手順

- 1 構成データを変更するための十分な権限を持つロール内のユーザーとして、View 接続サーバ インスタンスにログインします。

たとえば、管理者ロールは構成データを変更できます。読み取り専用ロールは構成データを更新できません。

- 2 [スタート] - [すべてのプログラム] - [VMware] - [View PowerCLI] の順に選択します。

次のステップ

スクリプトの実行が無効なためにスクリプト構成ファイルをロードできないことを示すエラー メッセージを受信した場合、PowerShell Set-ExecutionPolicy Unrestricted コマンドを入力し、PowerShell コンソールを再起動します。

View PowerCLI コマンドレットのリモート システムからの使用

PowerShell のリモート機能を使用して、リモート システムから View PowerCLI コマンドレットにアクセスできます。

手順

- 1 リモート システムで、テキスト エディタを使用して C:\Windows\System32\WindowsPowerShells\v1.0\Profile.ps1 ファイルを開きます。
- 2 `add-pssnapin vm*` 行を Profile.ps1 ファイルに追加します。
- 3 変更を保存します。

リモート システムで、PowerShell プロファイルへの View PowerCLI スナップインが追加されます。

次のステップ

View PowerCLI 操作を保護するためには、その他の PowerShell 操作をリモートで行う場合と同じ予防措置を講じます。

View PowerCLI のヘルプの表示

View PowerCLI のヘルプは、PowerShell コンソールでコマンドを入力することで表示できます。

手順

- 1 View 接続サーバ インスタンスで、[スタート] - [すべてのプログラム] - [VMware] - [View PowerCLI] を選択します。
- 2 View PowerCLI のヘルプを表示します。

オプション	アクション
すべての View PowerCLI コマンドレットを一覧表示する	Get-Command コマンドレットを実行します。 例: <code>Get-Command -PSSnapin VMware.View.Broker more</code>
特定のコマンドレットのヘルプを表示する	Get-Help にコマンドレット名を追加して入力します。 例: <code>Get-Help Add-ViewVC more</code>
特定のコマンドレットの詳細なヘルプを表示する	Get-Help にコマンドレット名と <code>-full</code> パラメータを追加して入力します。 例: <code>Get-Help Add-ViewVC -full more</code> または、Get-Help の <code>help</code> エイリアスを使用します。 例: <code>Add-ViewVC -full more</code>

View PowerCLI コマンドレット エラーの原因の特定

View PowerCLI コマンドレットはすべてのエラーを、コマンドレットの実行は停止するがパイプラインは終了しない無限エラーとして処理します。エラーの原因を特定するには、`$error` 自動変数を調べます。

PowerShell による無限エラーの処理方法と、シェル内でのエラー表示方法を制御するには、標準の PowerShell `$ErrorActionPreference` と `$ErrorView` 自動変数を設定します。

同じタイプのオブジェクトのパイプ処理および指定

オブジェクトをコマンドレットにパイプで渡し、同じタイプのオブジェクトをそのコマンドレットに対して指定しようとする場合、コマンドレットは次のエラーにより失敗します。

```
The input object cannot be bound to any parameters for the command either because the command does not take pipeline input or the input and its properties do not match any of the parameters that take pipeline input.
```

たとえば、次のコマンドレットの使用方法ではこのエラーが発生します。

```
Get-Pool -pool_id Pool1 | Update-ManualPool -pool_id Pool2 -displayName "Manual Pool 2"
```

vCenter Server のパス名での文字のエスケープ

特定の特殊文字を持つエンティティ名を含む vCenter Server フォルダへのパスを指定する場合は、その特殊文字をエスケープする必要があります。

表 3-1. 特殊文字のエスケープ シーケンス

特殊文字	エスケープ シーケンス
%	%25
/	%2f
\	%5c

パス名自体に含まれるスラッシュはエスケープしないでください。たとえば、フォルダ パス /datacenter_01/vm/img%-12 は /datacenter_01/vm/img%25-12 と表します。

特定のコマンドレットとパラメータでは、エンティティ名にエスケープ シーケンスが必要です。

表 3-2. エスケープ シーケンスが必要なコマンドレット パラメータ

コマンドレット	エスケープ シーケンスが必要なパラメータ
Add-AutomaticLinkedClonePool	-datastoreSpecs
Update-AutomaticLinkedClonePool	-parentVMPATH -resourcePoolPath -vmfolderPath
Add-AutomaticPool	-datastorePaths
Update-AutomaticPool	-resourcePoolPath -templatePath -vmfolderPath
Send-LinkedCloneRecompose	-parentVMPATH

View Administrator、PowerCLI コマンドレット、および View コマンドライン インターフェイスの比較

View Administrator、View PowerCLI コマンドレット、vdmadmin、vdmutil、lmvutil を使用して、View オブジェクトに対する管理操作を実行できます。すべてのインターフェイスで、すべての管理操作を行えるわけではありません。

表 3-3. View Administrator、PowerCLI コマンドレット、および View コマンドライン インターフェイスの操作

オブジェクト	操作	View Administrator	View PowerCLI	vdmadmin	vdmutil または lmvutil
アプリケーション プール	追加	X			
	削除	X			
	更新	X			
	ユーザーに資格の付与	X			
	資格を削除	X			
Cloud Pod アーキテクチャ	Cloud Pod アーキテクチャ構成の表示	X			X
	ポッド フェデレーションの健全性の表示	X			
	グローバル資格の一覧表示	X			X
	グローバル資格内のプールの一覧表示 (デスクトップまたはアプリケーション)	X			X
	グローバル資格のユーザーまたはグループの一覧表示	X			X
	ユーザーの有効なホーム サイトの一覧表示	X			X
	デスクトップ プールの専用割り当ての一覧表示	X			X
	Cloud Pod アーキテクチャ トポロジ内のポッドまたはサイトの一覧表示	X			X
デスクトップ プール	ポッド フェデレーション内のデスクトップ セッションおよびアプリケーション セッションの表示	X			X
	追加	X	X		
	専用の割り当て			X	
	ThinApp の割り当て	X			
	無効化	X	X		
	有効化	X	X		
	ユーザーに資格の付与	X	X		

オブジェクト	操作	View Administrator	View PowerCLI	vdadmin	vdmutil または lmvutil
	情報の取得	X	X		
	資格のないポリシーの取得	X		X	
	資格のないユーザーの取得	X		X	
	削除	X	X		
	割り当ての削除			X	
	資格を削除	X	X		
	制限付き資格	X			
	ポリシーの設定	X	X		
	更新	X	X		
	ネットワーク ラベルの割り当て		X		
	ネットワーク ラベル構成の取得		X		
ドメイン フィルタ	情報の取得			X	
	フィルタの削除			X	
	フィルタの設定			X	
イベント	リストの取得	X	X	X	
	レポートの取得		X	X	
ファーム	追加	X			
	無効化	X			
	有効化	X			
	情報の取得	X			
	削除	X			
	更新	X			
フォルダ	追加	X			
	情報の取得	X			
	移動	X			
	削除	X			
グローバル資格（デスクトップまたはアプリケーション）	追加	X			X
	更新	X			X
	削除	X			X
	プールの追加	X			X
	プールの削除	X			X
	ユーザーまたはグループの追加	X			X
	ユーザーまたはグループの削除	X			X

オブジェクト	操作	View Administrator	View PowerCLI	vdmadmin	vdmutil または lmvutil
ホーム サイト	ユーザーまたはグループへのホーム サイトの割り当て	X			X
	削除	X			X
	ホーム サイト割り当ての変更	X			X
	ホーム サイト上書きの作成	X			X
	ホーム サイト上書きの変更	X			X
	ホーム サイト上書きの削除	X			X
	ユーザーの有効なホーム サイトの一 覧表示	X			X
インスタント クローン デス クトップ	イメージをプッシュ	X			
	リカバリ	X			
インスタント クローン ドメ イン管理	追加	X			
	情報の取得	X			
	削除	X			
	更新	X			
キオスク モード	クライアント アカウントの追加			X	
	認証の無効化			X	
	認証の有効化			X	
	情報の取得			X	
	デフォルトの取得			X	
	クライアント アカウントの削除			X	
	デフォルトの設定			X	
リンク クローン デスクトッ プ	再調整	X	X		
	再構成	X	X		
	再作成	X			
	更新	X	X		
	リストア	X			
	ストレージ オーバーコミットの設定	X	X		
	ネットワーク ラベル構成の取得		X		
リンク クローン ファーム	再構成	X			
	ストレージ オーバーコミットの設定	X			
権限	追加	X			
	情報の取得	X			

オブジェクト	操作	View Administrator	View PowerCLI	vdadmin	vdmutil または lmvutil
	削除	X			
パーシステント ユーザー データ ディスク	接続	X			
	削除	X			
	切り離す	X			
	情報の取得	X	X		
	Replace (置き換える)	X			
Horizon Agent がインストールされた物理コンピュータ	情報の取得	X	X	X	
ポッド	初期化	X			X
	初期化解除	X			X
	参加	X			X
	離脱	X			X
	更新	X			X
リモート セッション	切断	X	X		
	情報の取得	X	X		
	ログアウト	X	X		
ロール	追加	X			
	変更	X			
	削除	X			
RDS ホスト	情報の取得	X	X		
SAML 認証子	追加	X			
	情報の取得	X			
	削除	X			
	更新	X			
サイト	追加	X			X
	更新	X			X
	削除	X			X
	ポッドのサイトへの割り当て	X			X
	ポッドのサイトからの削除	X			X
ユーザー	ポリシーの構成	X			
	管理者の作成	X			
	情報の取得	X	X	X	
	管理者の削除	X			

オブジェクト	操作	View Administrator	View PowerCLI	vdmadmin	vdmutil または lmvutil
	FSP の更新			X	
vCenter Server インスタンス	追加	X	X		
	情報の取得	X	X		
	削除	X	X		
	更新	X	X		
Horizon Agent	DCT バンドルの作成			X	
	ログ ファイルのコピーの取得			X	
	ログ ファイルのリストの取得			X	
	ログ レベルの取得			X	
	ステータスの取得			X	
	バージョンの取得			X	
	IP アドレスの上書き			X	
	ログ レベルの設定			X	
View Composer ドメイン	情報の取得		X		
View 接続サーバ インスタンス	構成のバックアップ	X			
	情報の取得	X	X		
	グループからの削除			X	
	構成のリストア	X			
	更新	X	X		
View 接続サーバ グループ	グループの GUID の設定			X	
	グループの名前の設定			X	
View グローバル設定	情報の取得	X	X		
	更新	X	X		
View サービス健全性モニター	情報の取得	X	X	X	
Horizon Agent がインストールされた仮想マシン	情報の取得	X	X	X	
	所有権の削除	X	X		
	リセット	X	X		
	所有権の更新	X	X		
VMware Horizon ライセンス	情報の取得	X	X		
	ライセンスの設定	X	X		

View PowerCLI コマンドレット リファレンス

View PowerCLI コマンドレットは、View 接続サーバ インスタンス上で View を管理するために使用できます。

次の表に、使用可能なすべての View PowerCLI コマンドレットを View オブジェクト別に示します。コマンドレットの構文については、`Get-Help` コマンドレットを使用します。詳細については、[View PowerCLI のヘルプの表示](#)を参照してください。

表 3-4. View PowerCLI コマンドレット

オブジェクト	コマンドレット	説明
デスクトップ プール	<code>Get-Pool</code>	デスクトップ プールに関する情報を返します。
	<code>Remove-Pool</code>	デスクトップ プールを削除します。
	<code>Add-PoolEntitlement</code>	ユーザーに対するデスクトップ プール資格を作成します。
	<code>Get-PoolEntitlement</code>	デスクトップ プールを使用する資格を付与されたユーザーに関する情報を返します。
	<code>Remove-PoolEntitlement</code>	ユーザーからデスクトップ プール資格を削除します。
リンク クローン デスクトップ プール	<code>Add-AutomaticLinkedClonePool</code>	自動的にプロビジョニングされたリンク クローン デスクトップ プールを追加します。
	<code>Update-AutomaticLinkedClonePool</code>	自動的にプロビジョニングされたリンク クローン デスクトップ プールを更新します。
	<code>Send-LinkedCloneRebalance</code>	使用可能な論理ドライブ間でリンク クローン デスクトップを再調整します。
	<code>Send-LinkedCloneRecompose</code>	リンク クローン デスクトップを親仮想マシンのスナップショットから再構成します。
	<code>Send-LinkedCloneRefresh</code>	リンク クローン デスクトップのオペレーティング システム ディスクを元の状態とサイズに更新します。
完全クローン デスクトップ プール	<code>Export-NetworkLabelSpecForLinkedClone</code>	リンク クローン デスクトップ プールの展開先とする指定のクラスタ内のすべてのホスト上の共有ネットワーク ラベルを一覧表示します。この出力は、構成ファイルにエクスポートされます。
	<code>Export-NetworkLabelSpecForFullClone</code>	完全クローン デスクトップ プールの展開先とする指定のクラスタ内のすべてのホスト上の共有ネットワーク ラベルを一覧表示します。この出力は、構成ファイルにエクスポートされます。
自動仮想マシン デスクトップ プール	<code>Add-AutomaticPool</code>	自動的にプロビジョニングされた完全な仮想マシン デスクトップ プールを追加します。
	<code>Update-AutomaticPool</code>	自動的にプロビジョニングされた完全な仮想マシン デスクトップ プールを更新します。
手動デスクトップ プール	<code>Add-ManualPool</code>	管理対象デスクトップの手動でプロビジョニングされたプールを追加します。
	<code>Update-ManualPool</code>	管理対象のデスクトップの手動でプロビジョニングされたプールを更新します。

オブジェクト	コマンドレット	説明
	Add-ManualUnmanagedPool	管理対象外のデスクトップの手動でプロビジョニングされたプールを追加します。
	Update-ManualUnmanagedPool	管理対象外のデスクトップの手動でプロビジョニングされたプールを更新します。
View Composer ドメイン	Get-ComposerDomain	View Composer に関する情報を返します。
View 接続サーバ インスタンス	Get-ConnectionBroker	View 接続サーバ インスタンスおよびセキュリティ サーバ インスタンスに関する情報を返します。
	Update-ConnectionBroker	View 接続サーバ インスタンスまたはセキュリティ サーバ インスタンスの構成を更新します。
VMware Horizon ライセンス	Get-License	View 接続サーバ インスタンス上の View ライセンスを返します。
	Set-License	View 接続サーバ インスタンス上の View ライセンスを設定します。
物理マシン	Get-DesktopPhysicalMachine	管理対象外のデスクトップ プールと一緒に使用できる物理マシンのリストを返します。
仮想マシン	Get-DesktopVM	仮想マシンに関する情報を返します。
	Send-VMReset	仮想マシンをリセットします。
イベント	Get-EventReport	指定したビューのイベント レポートを返します。
	Get-EventReportList	Get-EventReport コマンドレットと一緒に使用できるビューを返します。
View グローバル設定	Get-GlobalSetting	View 環境に関するグローバル構成情報を返します。
	Update-GlobalSetting	View 環境に関するグローバル構成情報を更新します。
View サービス健全性モニター	Get-Monitor	View サービスの健全性モニターのリストを返します。
パーシステント ユーザー データ ディスク	Get-ProfileDisk	パーシステント ユーザー データ ディスクに関する情報を返します。
リモート セッション	Get-RemoteSession	アクティブなリモート セッションに関する情報を返します。
	Send-SessionDisconnect	アクティブなリモート セッションを切断します。
	Send-SessionLogoff	アクティブなリモート セッションからログアウトします。
ユーザー	Get-User	ユーザーに関する情報を返します。
	Remove-UserOwnership	仮想マシンの所有権を削除します。
	Update-UserOwnership	ユーザー (SID として指定) を仮想マシンに割り当てます。このコマンドレットは、ユーザーの物理マシンへの割り当てはサポートしていません。
vCenter Server インスタンス	Add-ViewVC	vCenter Server インスタンスを View に追加します。
	Get-ViewVC	vCenter Server インスタンスに関する情報を返します。

オブジェクト	コマンドレット	説明
	Remove-ViewVC	vCenter Server インスタンスを View から削除します。
	Update-ViewVC	View 内の vCenter Server インスタンスの構成を更新します。

View PowerCLI コマンドレットのパラメータ

一部の View PowerCLI コマンドレットでは、パラメータを使用して設定を行うことが可能です。たとえば、`-flashQuality` パラメータを使用して、Adobe Flash コンテンツの品質で許容される最高レベルを指定できます。

デフォルトの表示プロトコルのパラメータ

`-defaultProtocol` パラメータには、デスクトップ プールのデフォルトの表示プロトコルを指定します。

表 3-5. `-defaultProtocol` パラメータ設定

設定	説明
PCoIP	デフォルトの表示プロトコルを PCoIP に設定します。
RDP	デフォルト表示プロトコルを Microsoft RDP に設定します。

削除ポリシーのパラメータ

`-deletePolicy` パラメータには、自動的にプロビジョニングされたフローティング プールおよびリンク クローン デスクトップ プールの削除ポリシーを指定します。

表 3-6. `-deletePolicy` パラメータ設定

設定	説明
Default	ユーザーのログアウト時にマシンを削除しません。
DeleteOnUse	ユーザーのログアウト時にマシンを削除します。
RefreshOnUse	ユーザーのログアウト時にマシンを更新します。
注: この設定はリンク クローン デスクトップ プールのみ適用されます。	

Flash 品質のパラメータ

`-flashQuality` パラメータには、Adobe Flash コンテンツで許容される品質の最高レベルを指定します。この値は Web ページの設定よりも優先されます。Web ページの Adobe Flash の品質が、コマンドレットで指定したパラメータより高い場合、コマンドレットで指定した値がクライアントの最大値となります。Adobe Flash コンテンツの品質を下げると、コンテンツが使用する帯域幅が減少します。

表 3-7. -flashQuality パラメータ設定

設定	説明
HIGH	低、中、高品質の Flash コンテンツが許容されます。
LOW	低品質の Flash コンテンツのみが許容されます。
MEDIUM	低、中品質の Flash コンテンツが許容されます。
NO_CONTROL	Web ページの設定によって Flash コンテンツの品質が決定されます。

Flash スロットルのパラメータ

-flashThrottling パラメータには、Adobe Flash が画面上の情報を更新する頻度を指定します。Adobe Flash のスロットルの更新間隔を増やすと、フレーム レートが低下します。この低下によって、Adobe Flash コンテンツが使用する帯域幅が減少しますが、Adobe Flash でドロップするフレームが発生する可能性があります。

表 3-8. -flashThrottling パラメータ設定

設定	説明
AGGRESSIVE	Flash の更新間隔を 2500 ミリ秒に設定します。この設定では、ドロップするフレームの数が最も多くなります。オーディオ伝送速度に影響はありません。
CONSERVATIVE	Flash の更新間隔を 100 ミリ秒に設定します。この設定では、ドロップするフレームの数が最も少なくなります。オーディオ伝送速度に影響はありません。
DISABLED	スロットルを無効にします。タイマー間隔は変更されません。
MODERATE	Flash の更新間隔を 500 ミリ秒に設定します。オーディオ伝送速度に影響はありません。

LDAP バックアップ頻度のパラメータ

-ldapBackupFrequency パラメータには、View 接続サーバ インスタンスの LDAP バックアップ頻度を指定します。

表 3-9. -ldapBackupFrequency パラメータ設定

設定	説明
Every12Hour	LDAP データベースを 12 時間に 1 回バックアップします。
Every2Day	LDAP データベースを 2 日に 1 回バックアップします。
Every2Week	LDAP データベースを 2 週間に 1 回バックアップします。
Every6Hour	LDAP データベースを 6 時間に 1 回バックアップします。
EveryDay	LDAP データベースを 1 日に 1 回バックアップします。
EveryHour	LDAP データベースを 1 時間に 1 回バックアップします。
EveryWeek	LDAP データベースを 1 週間に 1 回バックアップします。
Never	LDAP データベースのバックアップを無効にします。

プールタイプのパラメータ

-poolType パラメータにはデスクトップ プール タイプを指定します。

表 3-10. -poolType パラメータ設定

設定	説明
IndividualUnmanaged	各プールに管理対象外のマシンを 1 台格納します。
IndividualVC	プールに、vCenter Server インスタンスが管理および構成する個別のマシンを格納します。
Manual	プールに、vCenter Server インスタンスが管理および構成する、手動で構成する流動（読み取り専用）マシンを格納します。
ManualUnmanagedNonPersistent	プールに、vCenter Server インスタンスの管理対象でない、手動で構成する流動（読み取り専用）マシンを格納します。
ManualUnmanagedPersistent	プールに、vCenter Server インスタンスの管理対象でない、手動で構成する専用（パーシステント）マシンを格納します。
ManualVCPersistent	プールに、vCenter Server インスタンスの管理対象である、手動で構成する専用（パーシステント）マシンを格納します。
NonPersistent	(AutomaticPool) プールに、vCenter Server インスタンスがプロビジョニング、管理、および構成する、自動的に構成される流動（読み取り専用）マシンを格納します。
OnRequestSviNonPersistent	(AutomaticPool) プールに、vCenter Server インスタンスおよび View Composer が要求時にプロビジョニング、管理、および構成する流動（読み取り専用）マシンを格納します。
OnRequestSviPersistent	(AutomaticPool) プールに、vCenter Server インスタンスおよび View Composer が要求時にプロビジョニング、管理、および構成する専用（パーシステント）マシンを格納します。
OnRequestVcNonPersistent	(AutomaticPool) プールに、vCenter Server インスタンスが要求時にプロビジョニング、管理、および構成する流動（読み取り専用）マシンを格納します。
OnRequestVcPersistent	(AutomaticPool) プールに、vCenter Server インスタンスが要求時にプロビジョニング、管理、および構成する専用（パーシステント）マシンを格納します。
Persistent	(AutomaticPool) プールに、vCenter Server インスタンスがプロビジョニング、管理、および構成する、自動的に構成される専用（パーシステント）マシンを格納します。
SVINonPersistent	(AutomaticPool) プールに、vCenter Server インスタンスおよび View Composer がプロビジョニング、管理、および構成する流動（読み取り専用）マシンを格納します。
SVIPersistent	(AutomaticPool) プールに、vCenter Server インスタンスおよび View Composer がプロビジョニング、管理、および構成する専用（パーシステント）マシンを格納します。

電源ポリシー パラメータ

-powerPolicy パラメータには、デスクトップ プールの電源ポリシーを指定します。

表 3-11. -powerPolicy 設定

設定	説明
AlwaysOn	マシンの使用者がいないときでも、マシンがパワーオン状態のままになるように構成します。マシンをシャットダウンした場合、マシンはすぐに再起動されます。
RemainOn	マシンのパワーオフ時に要求があると、マシンは起動されます。マシンをシャットダウンするまでは、マシンはパワーオン状態のままになります。
PowerOff	マシンの使用者がいないときに、マシンをシャットダウンします。
Suspend	マシンの使用者がいないときに、マシンをサスペンドします。

更新ポリシー タイプ パラメータ

-refreshPolicyType パラメータには、自動的にプロビジョニングされた専用プールおよびリンク クローン デスクトップ プールの OS ディスクの更新ポリシーを指定します。

表 3-12. -refreshPolicyType 設定

設定	説明
Always	ユーザーのログオフ時に OS ディスクを更新します。
Conditional	ユーザーのログオフ時に OS ディスクを更新しますが、特定の条件を満たした場合にのみ実施します。-refreshpolicyDays パラメータおよび -refreshPolicyUsage パラメータには、更新間隔を日数またはディスクの許容される最大サイズの割合で指定します。
Never	ユーザーのログオフ時に OS ディスクを更新しません。

スマート カード設定パラメータ

-smartCardSetting パラメータには、スマート カードの認証ポリシー設定を指定します。この設定は Update-ConnectionBroker に適用され、-UseSSLClient \$true を Update-GlobalSetting と一緒に指定しない限り効力はありません。

表 3-13. -smartCardSetting パラメータ設定

設定	説明
NotAllowed	スマート カード認証を無効にします。
Optional	ユーザーがスマート カード認証またはパスワード認証を使用して VView 接続サーバー インスタンスに接続することを許可します。スマート カード認証が失敗した場合、ユーザーはパスワードを入力する必要があります。
Required	ユーザーが View 接続サーバー インスタンスに接続するときにスマート カード認証の使用を要求します。スマート カード認証は、Windows パスワード認証のみを置き換えます。SecureID が有効になっている場合は、ユーザーは SecureID とスマート カード認証の両方による認証を求められます。

View Composer タスク パラメータ

-composerTask パラメータには、仮想マシン上での View Composer メンテナンス タスクを指定します。

表 3-14. -composerTask パラメータ設定

設定	説明
attachUdd	パーシステント ディスクを接続します。
detachUdd	パーシステント ディスクを切り離します。
mkChkPoint	チェックポイント スナップショットを作成します。
rebalance	リンク クローン マシンを再調整します。
replaceUdd	パーシステント ディスクの接続を置換します。
resync	リンク クローン マシンを再構成します。

View PowerCLI コマンドレットの使用例

View PowerCLI コマンドレットを使用すると、View Administrator を使用する代わりに、コマンドラインまたはスクリプトから View の管理タスクを実行できます。

View 接続サーバ インスタンスの管理

View PowerCLI コマンドレットは、View 接続サーバの管理タスクの実行に使用できます。

表 3-15. View 接続サーバの管理の共通タスクの例

タスク	View PowerCLI コマンドレット構文の例
特定の View 接続サーバ インスタンス用の設定を取得する	<code>Get-ConnectionBroker -broker_id CONNSVR1</code>
特定の View 接続サーバ インスタンス用の設定を更新する	<code>Update-ConnectionBroker -broker_id CONNSVR1 -directConnect \$false -secureIdEnabled \$true -ldapBackupFrequency EveryWeek</code>
特定の View 接続サーバ インスタンス用のセキュア PCoIP 接続を構成する	<code>Update-ConnectionBroker -broker_id CS-VSG -directPCoIP \$FALSE</code>
特定の View 接続サーバ インスタンス用の PCoIP 外部 URL を設定する	<code>Update-ConnectionBroker -broker_id CS-VSG -externalPCoIPURL 10.18.133.34:4172</code>
特定のセキュリティ サーバ用の PCoIP 外部 URL を設定する	<code>Update-ConnectionBroker -broker_id SECSVR-03 -externalPCoIPURL 10.116.32.136:4172</code>

View 内の vCenter Server インスタンスの管理

View PowerCLI コマンドレットは、View 内の vCenter Server 管理タスクの実行に使用できます。

表 3-16. View での vCenter Server 管理の共通タスクの例

タスク	View PowerCLI コマンドレット構文の例
vCenter Server インスタンスを View 構成に追加する	<code>Add-ViewWC -serverName vc01.mydom.int -username Administrator -password clydenw -createRampFactor 5 -deleteRampFactor 5</code>
View 内の特定の vCenter Server インスタンスに関する情報を取得する	<code>Get-ViewWC -serverName vc01.mydom.int</code>

タスク	View PowerCLI コマンドレット構文の例
特定の DNS ドメイン内のすべての vCenter Server インスタンスに関する情報を取得する	<code>Get-ViewVC -serverName *.mycorp.com</code>
特定の vCenter Server インスタンスのランプ要素値を変更する	<code>Get-ViewVC -serverName svr11.mycorp.com Update-ViewVC -createRampFactor 5 -deleteRampFactor 10</code>
特定の DNS ドメイン内のすべての vCenter Server インスタンスのランプ要素値の作成を変更する	<code>Get-ViewVC -serverName *.mycorp.com Update-ViewVC -createRampFactor 5</code>
View 構成から vCenter Server インスタンスを削除する	<code>Get-ViewVC -serverName vc02.mydom.int Remove-ViewVC</code>

デスクトップ プールの管理

View PowerCLI コマンドレットは、デスクトップ プールの管理タスクの実行に使用できます。

表 3-17. デスクトップ プール管理の共通タスクの例

タスク	View PowerCLI コマンドレット構文の例
特定の表示名を持つデスクトップ プールに関する情報を取得する	<code>Get-Pool -displayName "My Pool 1"</code>
特定のプリフィックスが付いた表示名を持つすべてのデスクトップ プールに関する情報を取得する	<code>Get-Pool -pool_id mypool-*</code>
PCoIP 表示プロトコルを使用するように構成されたすべてのデスクトップ プールに関する情報を取得する	<code>Get-Pool -protocol PCOIP</code>
すべての個別の管理対象外のデスクトップ プールに関する情報を取得する	<code>Get-Pool -poolType IndividualUnmanaged</code>
特定のプール ID を持つデスクトップ プールを削除する	<code>Remove-Pool -pool_id dtpool-10</code>
特定のプール ID を持つデスクトップ プールを削除し、アクティブ セッションがある場合は終了するが、イメージはディスクから削除しない	<code>Remove-Pool -pool_id dtpool-12 -TerminateSession \$true -DeleteFromDisk \$false</code>
特定の表示名を持つデスクトップ プールを削除し、そのイメージをディスクから削除する	<code>Get-Pool -displayName "My Pool 1" Remove-Pool -DeleteFromDisk \$true</code>

自動的にプロビジョニングされたデスクトップ プールの作成および更新

`Get-ViewVC` コマンドレットと `Update-AutomaticPool` コマンドレットは、自動的にプロビジョニングされたデスクトップ プールの作成および更新に使用できます。

次の例では、`Get-ViewVC` コマンドレットを使用して、自動的にプロビジョニングされたデスクトップ プール `auto1` を追加します。デスクトップ プールは、`vc.mydom.int` という vCenter Server インスタンスによって管理されます。

```
Get-ViewVC -serverName vc.mydom.int | Add-AutomaticPool -pool_id auto1 -displayName "ADP1"
-namePrefix "adp1-{n:fixed=4}" -vmFolderPath /AutoConfig/vm
```

```
-resourcePoolPath /AutoConfig/host/Resources -templatePath /AutoConfig/vm/ADP_template
-dataStorePaths /host/datastore_1/lun10 -customizationSpecName "Windows 7 Variation 3"
-minimumCount 4 -maximumCount 10
```

-minimumCount パラメータと -maximumCount パラメータを同じ値に設定すると、すべてのデスクトップを事前にプロビジョニングできます。

次の例では、Update-AutomaticPool コマンドレットを使用して、自動的にプロビジョニングされたデスクトップ プール auto1 の設定を更新します。

```
Update-AutomaticPool -pool_id auto1 -displayName "Automatic Desktop Pool 1"
-isProvisioningEnabled $false -dataStorePaths /host/datastore_1/lun10;/host/datastore_1/lun12
```

-datastorePaths パラメータで指定されたデータストアは以前の設定より優先されるため、既存のデータストアを引き続き使用する場合は、そのデータストアをデスクトップ プールのパラメータで指定する必要があります。

リンク クローン デスクトップ プールの作成および更新

Get-ViewVC コマンドレットと Get-DesktopVM コマンドレットは、リンク クローン デスクトップ プールの作成および更新に使用できます。

次の例では、Get-ViewVC コマンドレットを使用して、リンク クローン デスクトップ プール lcdpool_1 を追加します。プールは、vc.mydom.int という vCenter Server インスタンスにある View Composer によって管理されます。

```
Get-ViewVC -serverName vc.mydom.int | Get-ComposerDomain -domain VCDOM |
Add-AutomaticLinkedClonePool -pool_id lcdpool_1 -displayName "LCD Pool 1"
-namePrefix "lcp1-{n}-dt" -parentVMPATH /AutoPoolVMs/parent
-parentSnapshotPath /AutoPoolSnapshots/parent1_snapshot -vmFolderPath /AutoConfig/VM_folder
-resourcePoolPath /AutoConfig/host/Resources
-datastoreSpecs [Aggressive,os,data]/host/datastore_1/lun04;/host/datastore_2/lun16
-dataDiskLetter "D" -dataDiskSize 100 -minimumCount 4 -maximumCount 10
```

-minimumCount パラメータと -maximumCount パラメータを同じ値に設定すると、すべてのデスクトップを事前にプロビジョニングできます。パーシステント データ ディスクを指定する場合は、ドライブに大文字を使用します。親仮想マシンにすでに存在するドライブ文字 (A、B、C など)、またはネットワーク マウントされたドライブで使用されているドライブ文字は使用しないでください。

次の例では、Get-ViewVC コマンドレットを使用して、リンク クローン デスクトップ プール lcdpool_1 の設定を更新します。

```
Get-ViewVC -serverName vc.mydom.int | Get-ComposerDomain -domain VCDOM |
Update-AutomaticLinkedClonePool -pool_id lcdpool_1 -datastoreSpecs
[Conservative,os,data]/host/datastore_1/lun04;/host/datastore_2/lun16;/host/datastore_2/lun22
-minimumCount 4 -maximumCount 20 -headroomCount 2 -powerPolicy Suspend -defaultProtocol PCOIP
-isUserResetAllowed $true
```

-datastoreSpecs パラメータで指定されたデータストアは以前の設定より優先されるため、既存のデータストアを引き続き使用する場合は、そのデータストアをプールのパラメータで指定する必要があります。

Get-DesktopVM コマンドレットは、再調整、更新、再構成操作の実行に使用できます。

表 3-18. 再調整、更新、および再構成操作の例

タスク	View PowerCLI コマンドレット構文の例
リンク クローン デスクトップ プール内の使用可能なデスクトップにあるデスクトップを再調整する	<code>Get-DesktopVM -pool_id lcdpool_2 Send-LinkedCloneRebalance -schedule 2011-05-10:01:00:00 -forceLogoff \$false -stopOnError \$true</code>
各リンク クローン デスクトップのオペレーティング システム ディスクを、元の状態とサイズをリストアすることとで更新する	<code>Get-DesktopVM -pool_id lcdpool_2 Send-LinkedCloneRefresh -schedule "May 12 2011 01:15" -forceLogoff \$true -stopOnError \$true</code>
すべてのリンク クローン デスクトップを親仮想マシンのスナップショットから再構成する	<code>Get-DesktopVM -pool_id lcdpool_2 Send-LinkedCloneRecompose -schedule ((Get-Date).AddHours(8)) -parentVMPath /AutoPoolVMs/parent2 -parentSnapshotPath /AutoPoolSnapshots/parent2_snapshot -forceLogoff \$true -stopOnError \$true</code>

手動でプロビジョニングされたデスクトップ プールの作成および更新

Add-ManualPool コマンドレット、Get-ViewVC コマンドレット、および Update-ManualPool コマンドレットは、手動でプロビジョニングされたデスクトップ プールの作成および更新に使用できます。

次の例では、Add-ManualPool コマンドレットは、myVM という名前の仮想マシンを含む、手動でプロビジョニングされたデスクトップ プール manPool を作成します。

```
Add-ManualPool -pool_id manPool -id (Get-VM -name "myVM").id -isUserResetAllowed $true
```

次の例では、Get-ViewVC コマンドレットは、vc.mydom.int という名前の vCenter Server インスタンスが管理するデスクトップから、手動でプロビジョニングされたデスクトップ プール man1 を作成します。

```
Get-ViewVC -serverName vc.mydom.int | Get-DesktopVM -poolType Manual | Add-ManualPool -pool_id man1 -isUserResetAllowed $false
```

次の例では、Update-ManualPool コマンドレットは、手動でプロビジョニングされたデスクトップ プール man1 の構成を更新します。

```
Update-ManualPool -pool_id man1 -displayName "Manual Desktop 1" -isUserResetAllowed $true
```

注: Get-VM コマンドレットを使用するには、vSphere PowerCLI をインストールする必要があります。

手動の管理対象外のデスクトップ プールの作成および更新

Add-ManualUnmanagedPool コマンドレットと Update-ManualUnmanagedPool コマンドレットは、手動の管理対象外のデスクトップ プールの作成および更新に使用できます。

次の例では、Add-ManualUnmanagedPool コマンドレットを使用して、pm01 および pm02 という名前の物理マシンを含む管理対象外のデスクトップ プール unman1 を作成します。

```
Add-ManualUnmanagedPool -pool_id unman1 -pm_id_list pm01;pm02 -isUserResetAllowed $true
```

次の例は、Update-ManualUnmanagedPool コマンドレットを使用して、管理対象外のデスクトップ プール unman1 の構成を更新します。

```
Update-ManualUnmanagedPool -pool_id unman1 -displayName "Unmanaged Desktop 1"
-isUserResetAllowed $false
```

ユーザーおよびグループに関する情報の表示

Get-User コマンドレットは、Active Directory のユーザーおよびグループに関する情報の表示に使用できます。

次の例では、Get-User コマンドレットを使用して、ドメイン mydom のすべてのユーザーに関する情報を表示します。

```
Get-User -domain "mydom"
```

次の例では、Get-User コマンドレットを使用して、ドメイン mydom のユーザー fred に関する情報を表示します。ユーザーのグループに関する情報は除外されます。

```
Get-User -name "fred" -domain "mydom" -includeGroup $false
```

デスクトップに対する資格の管理

View PowerCLI コマンドレットはデスクトップに対する資格の管理に使用できます。

表 3-19. デスクトップに対する資格の管理の共通タスクの例

タスク	View PowerCLI コマンドレット構文の例
特定のドメイン内のユーザーに、特定のデスクトップ プールに対する資格を付与する	Get-User -name "mydom\fred" Add-PoolEntitlement -pool_id dtop-12
すべてのデスクトップ プールに対する資格をユーザーに付与する	Get-Pool Add-PoolEntitlement -sid (Get-User -name "usr1").sid
特定のデスクトップ プールを使用する資格を付与されたすべてのユーザーに関する情報を取得する	Get-PoolEntitlement -pool_id dtop-1
特定のプリフィックスが付いた ID を持つデスクトップ プールを使用する資格を付与されたすべてのユーザーに関する情報を取得する	Get-Pool -pool_id dtpool-* Get-PoolEntitlement
特定のデスクトップ プールを使用するための資格を削除する	Get-PoolEntitlement -pool_id dtpool-11 Remove-PoolEntitlement
すべての資格を削除する	Get-PoolEntitlement Remove-PoolEntitlement -forceRemove \$true
注: -forceRemove パラメータを指定しない場合、このコマンドを使用して、削除される資格に関する情報を取得できます。	

リモート セッションの管理

View PowerCLI コマンドレットはリモート セッションの管理に使用できます。

表 3-20. リモート セッションの管理の共通タスクの例

タスク	View PowerCLI コマンドレット構文の例
特定のドメイン ユーザーのアクティブなすべてのリモート セッションを一覧表示する	<code>Get-RemoteSession -username mydom\fred</code>
特定のドメイン ユーザーのアクティブなすべてのセッションを切断する	<code>Get-RemoteSession -username mydom\fred Send-SessionDisconnect</code>
特定のドメイン ユーザーのアクティブなすべてのリモート セッションをログオフする	<code>Get-RemoteSession -username mydom\fred Send-SessionLogoff</code>
RDP 表示プロトコルを使用する、アクティブなすべてのリモート セッションをログオフする	<code>Get-RemoteSession -protocol RDP Send-SessionLogoff</code>

仮想マシンの管理

View PowerCLI コマンドレットは仮想マシンの管理に使用できます。Horizon Agent が仮想マシン内で実行されている必要があります。

表 3-21. 仮想マシンの管理の共通タスクの例

タスク	View PowerCLI コマンドレット構文の例
特定のデスクトップ プールの仮想マシンに関する情報を取得する	<code>Get-DesktopVM -pool_id dtpool-3</code>
特定の vCenter Server インスタンス上で構成された仮想マシンに関する情報を取得する	<code>Get-DesktopVM -vc_id (Get-ViewVC -serverName vc03.local.int).vc_id</code>
特定のデスクトップ プールをプロビジョニングする、同じ vCenter Server インスタンスが管理する仮想マシンに関する情報を取得する	<code>Get-ViewVC -pool_id dtpool-1 Get-DesktopVM</code>
特定の vCenter Server インスタンスが管理する、すべての仮想マシンに関する情報を取得する	<code>Get-ViewVC -serverName vc01.mydom.int Get-DesktopVM</code>
特定の仮想マシンのアクティブなすべてのパーシステント ユーザー データ ディスクを一覧表示する	<code>Get-ProfileDisk -VMname vm01</code>
特定のデスクトップ プールのすべての仮想マシンをリセットする	<code>Get-Pool -pool_id dtpool-05 Get-DesktopVM Send-VMReset</code>
特定の表示名を持つデスクトップ プールの仮想マシンをリセットする	<code>Get-Pool -displayName dtp1 Get-DesktopVM Send-VMReset</code>

物理マシンに関する情報の表示

`Get-DesktopPhysicalMachine` コマンドレットは、物理マシンに関する情報の表示に使用できます。

この例では、`Get-DesktopPhysicalMachine` コマンドレットを使用して、特定の IP アドレスを持つ物理マシンに関する情報を表示します。

```
Get-DesktopPhysicalMachine -hostname myhost01
```

仮想マシンの所有権の更新

Update-UserOwnership コマンドレットおよび Remove-UserOwnership コマンドレットは、仮想マシンの所有権の更新に使用できます。

この例では、Update-UserOwnership コマンドレットは、user1 というユーザーに対して vm04 という仮想マシンの所有権を更新します。

```
Update-UserOwnership -machine_id (Get-DesktopVM -Name "vm04").machine_id
-sid (Get-User -name usr1).sid
```

この例では、Remove-UserOwnership コマンドレットは、vm22 という仮想マシンの所有権を削除します。

```
Remove-UserOwnership -machine_id (Get-DesktopVM -Name "vm22").machine_id
```

イベント レポートの表示

View PowerCLI コマンドレットは、イベント レポートの表示に使用できます。

表 3-22. イベント レポートの共通タスクの例

タスク	View PowerCLI コマンドレット構文の例
使用可能なすべてのイベント レポート ビューを一覧表示する	Get-EventReportList
指定した日より後に発生したすべての構成変更イベントを表示する	Get-EventReport -viewName config_changes -startDate (Get-Date -Year 2011 -Month 5 -Day 20 -Hour 0 -Minute 0 -Second 0)
指定した 2 つの日付の間に発生したすべてのユーザー イベントを表示する	Get-EventReport -viewName user_events -startDate (Get-Date -Year 2011 -Month 12 -Day 1 -Hour 0 -Minute 0 -Second 0) -endDate (Get-Date -Year 2011 -Month 12 -Day 2 -Hour 0 -Minute 0 -Second 0)
過去 24 時間以内に発生したすべてのユーザー イベントを表示する	Get-EventReport -viewName user_events -startDate ((Get-Date).AddDays(-1))
今年発生したすべてのユーザー イベントを表示する	Get-EventReport -viewName user_events -startDate (Get-Date -Day 01 -Month 01 -Hour 0 -Minute 0 -Second 0)

グローバル設定の表示および更新

View PowerCLI コマンドレットは、View のグローバル設定の表示および更新に使用できます。

表 3-23. グローバル設定の管理の共通タスクの例

タスク	View PowerCLI コマンドレット構文の例
グローバル設定を表示する	Get-GlobalSetting
セッション タイムアウトの設定を更新する	Update-GlobalSetting -SessionTimeout 1800

タスク	View PowerCLI コマンドレット構文の例
強制ログアウトの警告メッセージと遅延期間を更新する	<code>Update-GlobalSetting -DisplayLogoffWarning \$true -ForcedLogoffAfter \$logoutdelay -ForcedLogoffMessage "Forced log out will occur in \$logoutdelay minutes"</code>
クライアントに SSL 接続を要求し、ログイン前メッセージを設定する	<code>Update-GlobalSetting -UseSSLClient \$true -PreLoginMessage "Insert disclaimer and other notices here."</code>

ライセンス キーの表示および追加

Get-License コマンドレットと Set-License コマンドレットは、View のライセンス キーの表示および追加に使用できます。

この例では、Get-License コマンドレットを使用して、インストール済みのライセンス キーを表示します。

```
Get-License
```

この例では、Set-License コマンドレットを使用して、ライセンス キーを追加します。

```
Set-License -key "08A25-0212B-0212C-4D42E"
```

高度なタスクを実行する View PowerCLI の使用例

View PowerCLI コマンドレットと vSphere PowerCLI コマンドレットを組み合わせると、プールのサイズ変更や、デスクトップ プールへのデータストアの追加などの複雑な操作を実行する PowerShell 関数を作成できます。

View 接続サーバが実行中かどうかの確認

次の PowerShell 関数は、View 接続サーバ サービスが実行中かどうか、実行中でない場合はサービスを開始するかどうかを確認します。

```
# WaitForViewStartup
# Parameters
# $ClearError If $true, clear the $error object on completion.
# $StartBroker If $true, start the service if it is not running.

function WaitForViewStartup
{ param ($ClearError = $true, $StartBroker = $true)
  $service = Get-Service wsbroker
  if($service -and (Get-Service wstomcat)){
    $started = $false
    if($service.Status -eq "Stopped"){
      if($StartBroker){ # Start the broker if it is not running.
        Write-Warning "Connection Broker service is stopped, attempting to start."
        $errCountBefore = $error.Count
        Start-Service wsbroker
        $errCountAfter = $error.Count
        if($errCountAfter -gt $errCountBefore){
          break
        }
      }
    }
  }
}
```

```

    } else {
        Write-Error "Connection Broker service is stopped."
        break
    }
}
while(!$started){ # Loop until service has completed starting up.
    Write-Warning "Waiting for View Connection Server to start."
    $errCountBefore = $error.Count
    $output = Get-GlobalSetting -ErrorAction SilentlyContinue
    $errCountAfter = $error.Count
    $started = $true
    if($errCountAfter -gt $errCountBefore){
        $err = $error[0].ToString()
        if($err.Contains("NoQueueHandler")){
            $started = $false
            Start-Sleep -s 1
        } else {
            if($ClearError){
                $error.Clear()
            }
            Write-Error $err
            break
        }
    }
    if($ClearError){
        $error.Clear()
    }
}
} else {
    Write-Error "The View Connection Server services could not be found. Is the Connection
        Server installed?"
}
}

```

自動プールおよびリンク クローン プールのサイズ変更

次の PowerShell 関数によって、すべてのデスクトップ プールの現在の使用方法が判断され、最大容量にあるすべての自動プロビジョニング デスクトップ プールまたはリンク クローン デスクトップ プールのサイズが変更されます。

```

# PollAllPoolsUsage
# Parameters
# $increment Amount by which to increase a pool that is at maximum capacity (default = 5).

function PollAllPoolsUsage
{ param ($increment)

    if(-not $increment){
        $increment = 5
    }
    # Retrieve all pool objects and check each one individually
    $pools = Get-Pool
    foreach ($pool in $pools){
        PollPoolUsage $pool $increment
    }
}

```

```

}
# PollPoolUsage
# Parameters
# $Pool Pool object that represents the pool to be checked.
# $increment Amount by which to increase pool that is at maximum capacity.

function PollPoolUsage
{ param ($Pool, $increment)
    # Get a list of remote sessions for the pool (errors are suppressed)
    $remotes = Get-RemoteSession -pool_id $Pool.pool_id -ErrorAction SilentlyContinue
    # Count the remote sessions.
    $remotecount = 0
    if($remotes){
        $remotecount = ([Object[]]($remotes)).Count
    }

    # Determine the maximum number of desktops configured for a pool.
    $maxdesktops = 0
    if($Pool.deliveryModel -eq "Provisioned"){
        $maxdesktops = $Pool.maximumCount
    } else {
        $maxdesktops = $Pool.machineDNs.split(";").Count
    }

    # Output the usage statistics for a pool.
    Write-Output ("==== " + $Pool.pool_id + " ====")
    Write-Output ("Remote session count: " + $remotecount)
    Write-Output ("Maximum desktops: " + $maxdesktops)
    # If a pool is using all its desktops, increase its maximum size
    # or output a warning if it cannot be resized.
    if($maxdesktops -eq $remotecount){
        if($Pool.deliveryModel -eq "Provisioned"){ # Pool type can be resized
            $newmaximum = [int]$Pool.maximumCount + [int]$increment
            if($Pool.desktopSource -eq "VC"){ # Resize an automatic pool
                Update-AutomaticPool -pool_id $Pool.pool_id -maximumCount $newmaximum
            } elseif ($Pool.desktopSource -eq "SVI"){ # Resize a linked-clone pool
                Update-AutomaticLinkedClonePool -pool_id $Pool.pool_id -maximumCount $newmaximum
            }

            Write-Output ("Pool " + $Pool.pool_id + " is using 100% of its desktops. Maximum VMs
                increased to " + $newmaximum)
        } else { # Pool type cannot be resized
            Write-Output ("Pool " + $Pool.pool_id + " is using 100% of its desktops. Consider
                increasing its capacity.")
        }
    }
}
}

```

vSphere インベントリ オブジェクトへのパスの確認

次の PowerShell 関数は、vSphere PowerCLI を使用して、vSphere インベントリ オブジェクトのフル パスを返します。

```
# VVGetInventoryPath
# Parameters
# $InvObject Inventory object in vSphere PowerCLI.
#
# Examples
# VVGetInventoryPath (Get-VM -name myVM)
# VVGetInventoryPath (Get-ResourcePool | Select -first 1)

function VVGetPath($InvObject){
    if($InvObject){

        $ObjectType = $InvObject.GetType().Name
        $ObjectBaseType = $InvObject.GetType().BaseType.Name
        if($ObjectType.Contains("DatastoreImpl")){
            Write-Error "Use the VVGetDataStorePath function to determine datastore paths."
            break
        }
        if(-not ($ObjectBaseType.Contains("InventoryItemImpl") -or
            $ObjectBaseType.Contains("FolderImpl") -or
            $ObjectBaseType.Contains("DatacenterImpl") -or
            $ObjectBaseType.Contains("VMHostImpl") ) ){
            Write-Error ("The provided object is not an expected vSphere object type. Object type
                is " + $ObjectType)
            break
        }
    }

    $path = ""
    # Recursively move up through the inventory hierarchy by parent or folder.
    if($InvObject.ParentId){
        $path = VVGetPath(Get-Inventory -Id $InvObject.ParentId)
    } elseif ($InvObject.FolderId){
        $path = VVGetPath(Get-Folder -Id $InvObject.FolderId)
    }

    # Build the path, omitting the "Datacenters" folder at the root.
    if(-not $InvObject.isChildTypeDatacenter){ # Add object to the path.
        $path = $path + "/" + $InvObject.Name
    }
    $path
}
}
```


vSphere データストア オブジェクトへのパスの確認

次の PowerShell 関数は、vSphere PowerCLI を使用して、リソース プールによって指定されたクラスタ内のデータストアへのフル パスを返します。

```
# VVGetDatastorePath
# Parameters
#     $Datastore Datastore object in vSphere PowerCLI.
#     $ResourcePool Resource pool in cluster.
#
#Example
#           VVGetDatastorePath (Get-Datastore "datastore1") (Get-ResourcePool "Resources")

function VVGetDatastorePath($Datastore,$ResourcePool){
    if($Datastore -and $ResourcePool){

        $dsType = $Datastore.GetType().Name
        $rpType = $ResourcePool.GetType().Name
        if(-not ($dsType.Contains("Datastore"))) ){
            Write-Error "The Datastore provided is not a Datastore object."
            break
        }
        if(-not ($rpType.Contains("ResourcePool"))) ){
            Write-Error "The Resource Pool provided is not a ResourcePool object."
            break
        }

        $ClusterPath = VVGetPath(Get-Inventory -Id $ResourcePool.ParentId)
        $path = $ClusterPath + "/" + $Datastore.Name
        $path
    }
}
```

データストアの追加および削除

データストアを追加および削除する PowerShell 関数を定義できます。

次の例に示す PowerShell 関数は、自動プールのデータストアを追加および削除します。

```
# AddDatastoreToAutomaticPool
# Parameters
#     $Pool Pool ID of pool to be updated.
#     $Datastore Full path to datastore to be added.

function AddDatastoreToAutomaticPool
{ param ($Pool, $Datastore)
    $PoolSettings = (Get-Pool -pool_id $Pool)
    $datastores = $PoolSettings.datastorePaths + ";$Datastore"
    Update-AutomaticPool -pool_id $Pool -datastorePaths $datastores
}
Define a PowerShell function to remove a datastore from an automatic pool.

# RemoveDatastoreFromAutomaticPool
# Parameters
```

```
# $Pool Pool ID of pool to be updated.
# $Datastore Full path to datastore to be removed.

function RemoveDatastoreFromAutomaticPool
{ param ($Pool, $Datastore)
    $PoolSettings = (Get-Pool -pool_id $Pool)
    $currentdatastores = $PoolSettings.datastorePaths

    $datastores = ""
    foreach ($path in $currentdatastores.split(";")){
        if(-not ($path -eq $Datastore)){
            $datastores = $datastores + "$path;"
        }
    }
    Update-AutomaticPool -pool_id $Pool -datastorePaths $datastores
}
```

次の例に示す PowerShell 関数は、リンク クローン プールのデータストアを追加および削除します。

```
# AddDatastoreToLinkedClonePool
# Parameters
# $Pool Pool ID of pool to be updated.
# $Datastore Full path to datastore to be added.

function AddDatastoreToLinkedClonePool
{ param ($Pool, $Datastore)
    $PoolSettings = (Get-Pool -pool_id $Pool)
    $datastores = $PoolSettings.datastoreSpecs + ";$Datastore"
    Update-AutomaticLinkedClonePool -pool_id $Pool -datastoreSpecs $datastores
}
```

Define a PowerShell function to remove a datastore from a linked-clone pool.

```
# RemoveDatastoreFromLinkedClonePool
# Parameters
# $Pool Pool ID of pool to be updated.
# $Datastore Full path to datastore to be removed.

function RemoveDatastoreFromLinkedClonePool
{ param ($Pool, $Datastore)
    $PoolSettings = (Get-Pool -pool_id $Pool)
    $currentdatastores = $PoolSettings.datastoreSpecs

    $datastores = ""
    foreach ($spec in $currentdatastores.split(";")){
        $path = $spec.split("[1]")[1]
        $pathToRemove = $Datastore.split("[1]")[1]
        if(-not $pathToRemove){
            $pathToRemove = $Datastore
        }
        if(-not ($path -eq $pathToRemove)){
            $datastores = $datastores + "$spec;"
        }
    }
}
```

```
Update-AutomaticLinkedClonePool -pool_id $Pool -datastoreSpecs $datastores
}
```

デスクトップ プールへの複数のネットワーク ラベルの割り当て

View 5.2 以降のリリースでは、自動化された完全クローン デスクトップ プールとリンク クローン デスクトップ プールを構成して複数のネットワーク ラベルを使用できます。この機能により、プール内の仮想マシンに割り当てることができる IP アドレスの数が増えるため、多数のデスクトップを含むプールを簡単に作成できます。View PowerCLI コマンドレットを使用すると、vCenter Server リソース プール（ここで、自動化された完全クローンまたはリンク クローン デスクトップ プールがデプロイされる）で使用可能なネットワーク ラベルを割り当てることができます。

デフォルトでは、デスクトップ プール内の仮想マシンは、ネットワーク インターフェイス カード (NIC) とそれに関連付けられたネットワーク ラベルを親仮想マシンまたはテンプレートから継承します。一部の親仮想マシンまたはテンプレートには、複数の NIC およびそれに関連付けられたネットワーク ラベルがある場合があります。通常、ネットワーク ラベルで定義される VLAN のサブネット マスクには、限定的な範囲の使用可能な IP アドレスがあります。たとえば、あるサブネット マスクには、デスクトップ仮想マシンに割り当てることができる IP アドレスが最大 254 個あります。

View は、全デスクトップ プール内の仮想マシンにネットワーク ラベルを分散します。View は、デスクトップをプロビジョニングするときに、ネットワーク ラベルをアルファベット順に割り当てます。最初のネットワーク ラベルを使用する IP アドレスで最大数の仮想マシンがプロビジョニングされると、View は次の 2 番目のラベルの割り当てを始め、このように処理が続きます。

複数のネットワーク ラベルを使用するようにデスクトップ プールを構成するには、vCenter Server の ESXi クラスター用に定義されたラベルからネットワーク ラベルを選択し、そのラベルを親仮想マシンまたはテンプレートから継承した NIC に関連付け、各ネットワーク ラベルから仮想マシンに割り当てることができる IP アドレスの最大数を指定し、その情報をネットワーク ラベル構成ファイルに保存します。ネットワーク ラベル構成ファイルは、デスクトップ プールの作成に使用する View PowerCLI コマンドレットで指定します。

ネットワーク ラベル構成ファイルの形式

自動化される完全クローンおよびリンク クローン デスクトップ プールを構成して、複数のネットワーク ラベルを使用するには、ネットワーク ラベル構成ファイルを使用できます。ネットワーク ラベル構成ファイルには、ネットワーク ラベルが割り当てられるかどうかを制御するフラグと、NIC、ネットワーク ラベル、ネットワーク ラベル属性を定義するセクションが格納されます。

有効にされたフラグ

このフラグは、デフォルトで `enabled=true` に設定されます。フラグが `true` に設定されたままにすると、View はネットワーク ラベルをそのプールに割り当てることができます。

NIC セクションのパラメータ定義

このセクションには、vCenter Server 内でテンプレートに定義された NIC または親仮想マシンのスナップショットが一覧表示されます。このセクションを編集しないでください。

ネットワーク セクションのパラメータ定義

このセクションには、クラスタ内の ESXi ホスト用に vCenter Server インスタンスに定義されたネットワーク ラベルが一覧表示されます。ネットワーク ラベルはアルファベット順に表示されます。クラスタが標準ネットワーク ラベルと分散仮想スイッチ ネットワーク ラベルを使用している場合、プールに対して 1 つのタイプのラベルのみを使用します。このセクションを編集しないでください。

ネットワーク ラベル属性定義セクション

このセクションには、各 NIC と関連付けられたネットワーク ラベルが一覧表示されます。ネットワーク ラベルはコメントアウトされており、割り当ては機能しません。該当するネットワーク ラベルからコメント（### 記号）を削除し、それらがデスクトップ プールに割り当てられるようにする必要があります。

maxvm パラメータによって、ネットワーク ラベルから仮想マシンに対して実行できる IP アドレス割り当ての最大数が定義されます。maxvm パラメータの値は、Export-NetworkLabelSpecForLinkedClone コマンドレットまたは Export-NetworkLabelSpecForFullClone コマンドレット内の -maxVMsPerNetworkLabel パラメータによって生成されます。この値は、構成ファイル内で手動で編集できます。

ベスト プラクティスとして、ネットワーク ラベルを複数のデスクトップ プールに割り当てないでください。ネットワーク ラベルの最大数は、NIC ごと、プールごとの基準でのみ受け付けられます。たとえば、maxvm が 244 の network06 を使用するように pool1 で NIC1 を構成し、maxvm が 244 の同じネットワーク ラベル network06 を使用するように pool2 で NIC1 を構成する場合、network06 には実際に割り当て可能な IP アドレス領域が最低 488 個のアドレス分ある必要があり、そうでないと、ネットワーク ラベルからの IP アドレス割り当てが定員を超える可能性があります。

親仮想マシンまたはテンプレートに 2 つの NIC がある場合、Export-NetworkLabelSpecForLinkedClone コマンドレットまたは Export-NetworkLabelSpecForFullClone コマンドレットが検出した各ネットワーク ラベルは両方の NIC と関連付けられます。1 つの NIC 用の割り当て機能は、2 番目の NIC 用の同じネットワーク ラベルから行われた割り当てを認識しないため、IP アドレス割り当てが定員を超える可能性があることが警告メッセージに示されます。各 NIC は、その NIC 自体のネットワーク ラベル割り当てのみを認識します。

ネットワーク ラベル構成ファイルの例

次の例は、一般的なネットワーク ラベル構成ファイルを示しています。

```
#Network Label Configuration Spec
#WARNING! Setting enabled flag to false will
#turn off the automatic network label assignment
#for newly provisioned desktops.
enabled=true

#Parameter Definition for NIC
nic1=Network adapter 1
nic2=Network adapter 2

#Parameter Definition for Network
network01=dv_2k_2004
network02=dv_2kclient_2164
network03=dv_2kdt1_2084
network04=dv_2kInfra_1924
network05=dv_vMotion
```

```

network06=desktop-auto01-230
network07=desktop-auto02-240
network08=desktop-auto03-250
network09=desktop-auto04-260
network10=desktop-auto05-270

#Network Label Attribute Definition
#Expected format:
#<nic_param>.<network_param>.maxvm=<max vm for network label>

#WARNING! Multiple NICs:(nic1,nic2) detected against network01,
#total port count against network01: 488.
#IP address might be over-subscribed.
#WARNING! Multiple NICs:(nic1,nic2) detected against network02,
#total port count against network02: 488.
#IP address might be over-subscribed.
...
...
#WARNING! Multiple NICs:(nic1,nic2) detected against network02,
#total port count against network10: 488.
#IP address might be over-subscribed.

####nic1.network01.maxvm=244
####nic1.network02.maxvm=244
####nic1.network03.maxvm=244
####nic1.network04.maxvm=244
####nic1.network05.maxvm=244
####nic1.network06.maxvm=244
####nic1.network07.maxvm=244
####nic1.network08.maxvm=244
####nic1.network09.maxvm=244
####nic1.network10.maxvm=244
####nic2.network01.maxvm=244
####nic2.network02.maxvm=244
####nic2.network03.maxvm=244
####nic2.network04.maxvm=244
####nic2.network05.maxvm=244
####nic2.network06.maxvm=244
####nic2.network07.maxvm=244
####nic2.network08.maxvm=244
####nic2.network09.maxvm=244
####nic2.network10.maxvm=244

```

NIC およびネットワーク ラベル情報の取得およびエクスポート

複数のネットワーク ラベルを 1 つのプールに割り当てるには、その前に NIC およびネットワーク ラベル情報を取得し、その情報をネットワーク ラベル構成ファイルにエクスポートする必要があります。

完全クローン プールの場合、その完全クローン プールの作成に使用するテンプレート上に構成する NIC に関する情報を取得します。リンク クローン プールの場合、そのリンク クローン プールの作成に使用する親仮想マシン上に構成する NIC に関する情報を取得します。デスクトップ プールの導入先とするクラスタ内の ESXi ホストで構成された使用可能なネットワーク ラベル構成から、ネットワーク ラベル情報を取得します。

NIC およびネットワーク ラベル情報をネットワーク ラベル構成ファイルにエクスポートする場合、各ネットワーク ラベルからの IP アドレスを使用してプロビジョニングできる仮想マシンの最大数を設定します。オーバーヘッドのため、特定の数の仮想マシンを許可する必要があります。たとえば、1 つのネットワーク ラベル VLAN が、仮想マシンに対して最大 254 個の IP アドレスの割り当てを許可する場合、最大数は 244 に設定するのが適しています。

前提条件

View PowerCLI の使用方法について理解しておきます。 [View PowerCLI の紹介](#)を参照してください。

手順

- ◆ 1 つの完全クローン プールを作成するために NIC およびネットワーク ラベル情報を取得してエクスポートするには、Export-NetworkLabelSpecForFullClone コマンドレットを使用します。

例：

```
Export-NetworkLabelSpecForFullClone -vc_id id -clusterPath "cluster-path"
-TemplatePath "template-path" -maxVMsPerNetworkLabel nn
-networkLabelConfigFile "config-file-path"
```

- ◆ 1 つのリンク クローン プールを作成するために NIC およびネットワーク ラベル情報を取得してエクスポートするには、Export-NetworkLabelSpecForLinkedClone コマンドレットを使用します。

例：

```
Export-NetworkLabelSpecForLinkedClone -vc_id id -clusterPath "cluster-path"
-parentVMPath "parent-vm-path" -parentSnapshotPath "snapshot-path"
-maxVMsPerNetworkLabel nn -networkLabelConfigFile "config-file-path"
```

ネットワーク ラベル コマンドレットは、指定したクラスタ内のすべての ESXi ホスト用に vCenter Server 内で構成されたネットワーク ラベルを取得し、各ネットワーク ラベルからの IP アドレスを使用してプロビジョニングできる仮想マシンの最大数を設定し、NIC およびネットワーク ラベルのリストをネットワーク ラベル構成ファイルにエクスポートします。

例：NIC およびネットワーク ラベル情報の取得

この例では、Export-NetworkLabelSpecForLinkedClone コマンドレットは、Win7 親仮想マシンおよび Snapshot1 から NIC を取得し、ネットワーク ラベル情報を Cluster1 から取得します。各ネットワーク ラベルからの IP アドレスを使用して、最大 244 台の仮想マシンをプロビジョニングできます。この情報は、C:/label.txt という名前のネットワーク ラベル構成ファイルにエクスポートされます。

```
Export-NetworkLabelSpecForLinkedClone -vc_id 1a2b3c4d-5e6f
-clusterPath "/myresourcepool/host/Cluster1/"
-parentVMPath "/myresourcepool/vm/Win7-Parent" -parentSnapshotPath "/snapshot1"
-maxVMsPerNetworkLabel 244 -networkLabelConfigFile "C:/label.txt"
```

次のステップ

ネットワーク ラベル構成ファイルを確認および編集します。 [ネットワーク ラベル構成ファイルの確認および編集](#)を参照してください。

ネットワーク ラベル構成ファイルの確認および編集

ネットワーク ラベル構成ファイルの生成後、このファイルの内容を確認し、プールに割り当てる NIC とネットワーク ラベルのペアを指定するようにこのファイルを編集する必要があります。

前提条件

- ネットワーク ラベル構成ファイルを生成します。[NIC およびネットワーク ラベル情報の取得およびエクスポート](#)を参照してください。
- ネットワーク ラベル構成ファイルの形式について理解しておきます。[ネットワーク ラベル構成ファイルの形式](#)を参照してください。

手順

- 1 テキスト エディタで、ネットワーク ラベル構成ファイルを開きます。
- 2 プールに割り当てる各 NIC とネットワーク ラベルのペアについて、コメント（### 記号）を削除します。
- 3 各ネットワーク ラベルが 1 つの NIC のみに割り当てられることを確認します。
- 4 1 つのタイプのネットワーク ラベルのみが、プールに使用されることを確認します。
1 つの NIC は、標準ネットワーク スイッチまたは分散仮想ネットワーク スイッチを使用して構成できます。
- 5 変更を保存します。

例： ネットワーク ラベル構成ファイルの編集

この例では、network06 と network07 が nic1（ネットワーク アダプタ 1）に割り当てられており、network08 と network09 が nic2（ネットワーク アダプタ 2）に割り当てられています。network01 から network05 はコメントアウトされたままで使用されません。この構成では、最大 488 台の仮想マシンのプールをサポートできます。

```
#Network Label Configuration Spec
...

#Network Label Attribute Definition
#Expected format:
#<nic_param>.<network_param>.maxvm=<max vm for network label>
...

####nic1.network01.maxvm=244
####nic1.network02.maxvm=244
####nic1.network03.maxvm=244
####nic1.network04.maxvm=244
####nic1.network05.maxvm=244
nic1.network06.maxvm=244
nic1.network07.maxvm=244
####nic1.network08.maxvm=244
####nic1.network09.maxvm=244
####nic1.network10.maxvm=244
####nic2.network01.maxvm=244
####nic2.network02.maxvm=244
####nic2.network03.maxvm=244
####nic2.network04.maxvm=244
```

```
####nic2.network05.maxvm=244
####nic2.network06.maxvm=244
####nic2.network07.maxvm=244
nic2.network08.maxvm=244
nic2.network09.maxvm=244
####nic2.network10.maxvm=244
```

次のステップ

複数のネットワーク ラベルを使用できるデスクトップ プールを作成します。[複数のネットワーク ラベルを使用するデスクトップ プールのデプロイ](#)を参照してください。

複数のネットワーク ラベルを使用するデスクトップ プールのデプロイ

View PowerCLI コマンドレットは、複数のネットワーク ラベルを使用する、自動化された完全クローンまたはリンク クローン デスクトップ プールのデプロイに使用できます。

前提条件

- ネットワーク ラベル構成ファイルを生成します。[NIC およびネットワーク ラベル情報の取得およびエクスポート](#)を参照してください。
- ネットワーク ラベル構成ファイルを確認および編集します。[ネットワーク ラベル構成ファイルの確認および編集](#)を参照してください。

手順

- ◆ View PowerCLI コマンドレットを使用してデスクトップ プールをデプロイします。

オプション	アクション
リンク クローン プールをデプロイする	Add-AutomaticLinkedClonePool コマンドレットを実行し、 NetworkLabelConfigFile パラメータを使用してネットワーク ラベル構成ファイルへのパスを指定します。
完全クローン デスクトップ プールをデプロイする	Add-AutomaticPool コマンドレットを実行し、 -NetworkLabelConfigFile パラメータを使用してネットワーク ラベル構成ファイルへのパスを指定します。

例：リンク クローン デスクトップ プールのデプロイ

この例では、Add-AutomaticLinkedClonePool コマンドレットは、POOL_NAME という名前のリンク クローン プールを作成し、label.txt ファイルというネットワーク ラベル構成ファイルでネットワーク ラベルを割り当てます。

```
Add-AutomaticLinkedClonePool -Pool_id POOL_NAME -NamePrefix NAME_PREFIX -Vc_id
2162aa44-e99c-4f1a-875d-dd295681d2ca -Persistence Persistent
-VmFolderPath "/resourcepool/vm/Discovered virtual machine"
-ResourcePoolPath "/resourcepool/host/Cluster1/Resources/Cluster1_pool1"
-ParentVmPath "/resourcepool/vm/Win7-Parent" -ParentSnapshotPath
"/780936_agent/noServiceRestart/updatedVPListener" -DatastoreSpecs
"[Conservative,replica]/resourcepool/host/Cluster1/Cluster1_Replica1;[Moderate,OS,data]/resourcepool/host/Cluster1/Desktop_FC_9;[Moderate,OS,data]/resourcepool/host/Cluster1/Desktop_FC_8;[Moderate,OS,data]/resourcepool/
```



```
host/Cluster1/Desktop_FC_7" -Composer_ad_id
1a2b3c4d-5d6e-7f-1234-1234abcd -UseUserDataDisk $false -UseTempDisk
$false -MinimumCount 2000 -MaximumCount 2000 -HeadroomCount 1500
-PowerPolicy AlwaysOn -SuspendProvisioningOnError $false
-NetworkLabelConfigFile "C:/label.txt"
```

ネットワーク ラベルの割り当て

View は、プール内の仮想マシンをプロビジョニングするときに、仮想マシンの NIC にネットワーク ラベルを割り当てます。特定のネットワーク ラベルを割り当てる仮想マシンが最大数に達すると、View は、次のネットワーク ラベルからプロビジョニングを開始します。

View は、仮想マシンにネットワーク ラベルを割り当てた後、その割り当てを変更しません。

プール内の仮想マシンが削除されると、関連付けられているネットワーク ラベルの割り当ては解放され、新たにプロビジョニングされたプール内の別の仮想マシンに割り当てることができます。

View Composer の更新操作は、ネットワーク ラベルの割り当てには影響しません。仮想マシンは、最初にプロビジョニングされたときに割り当てられたネットワーク ラベルを引き続き保有します。

再構成処理および再調整処理中のネットワーク ラベルの保持

View Composer の再構成処理および再調整処理中、リンク クローンが新しい NIC を新しい基本イメージから継承するときに、View は各リンク クローン デスクトップに接続された各 NIC のネットワーク ラベルが確実に保持されるようにしようとします。同じタイプのネットワーク スイッチを使用して構成された使用可能な NIC が新しい基本イメージにある限り、再構成処理および再調整処理の前に View は、設定された NIC のネットワーク ラベルを保持します。標準ネットワーク スイッチまたは分散仮想ネットワーク スイッチを使用して、NIC を構成できます。

次の例に、再構成処理および再調整処理中のネットワーク ラベルの保持を制御するルールを示します。

- 元のリンク クローン デスクトップと新しい基本イメージの両方に、標準ネットワーク スイッチを使用して構成された 1 つの NIC がある場合、そのネットワーク ラベルと MAC アドレスは保持されます。
- 元のリンク クローン デスクトップと新しい基本イメージの両方に、分散仮想ネットワーク スイッチを使用して構成された 1 つの NIC がある場合、そのネットワーク ラベルと MAC アドレスは保持されます。
- 元のリンク クローン デスクトップに標準ネットワーク スイッチを使用して構成された 1 つの NIC があり、新しい基本イメージに分散仮想ネットワーク スイッチを使用して構成された 1 つの NIC がある場合、そのネットワーク ラベルは保持されません。MAC アドレスは保持されます。
- 元のリンク クローン デスクトップに 2 つの NIC があり、それらの両方が標準ネットワーク スイッチを使用して構成されており、新しい基本イメージに標準ネットワーク スイッチを使用して構成された 1 つの NIC がある場合、元の NIC のうちの 1 つのネットワーク ラベルは保持されますが、元のもう 1 つの NIC に関連付けられたすべてのネットワーク プロパティは保持されません。

プールに対するネットワーク ラベル割り当ての表示

Get-Pool コマンドレットは、プールに対するネットワーク ラベル割り当ての表示に使用できます。

networkLabelSpecs 出力パラメータは、プールに割り当てられたネットワーク ラベルを表示します。この情報を表示するためにコマンドラインにパラメータを追加する必要はありません。

次の表は、networkLabelSpecs の出力形式を示します。

表 3-24. networkLabelSpecs の出力形式

値	説明
nl	ネットワーク ラベルの名前。
nic	NIC 名。
enabled	値 1 は、ラベルが有効であることを示します。値 0 は無効であることを示します。
max	ネットワーク ラベルを割り当てることのできる仮想マシンの最大数。
usage	ネットワーク ラベルに現在割り当てられている仮想マシンの数。 usage 値が max 値と同一の場合、View はネットワーク ラベルの割り当てを停止し、使用可能な次のラベルから割り当てを開始します。

次の Get-Pool コマンドレットの例は、プール Pool2 に対するネットワーク ラベル割り当てを示しています。

```
> get-pool -pool_id Pool2
...
networkLabelSpecs : [nl=desktop-auto01-230;nic=Network adapter 1;enable
                    d=1;max=239;usage=239];[nl=desktop-auto02-240;nic=N
                    etwork adapter 1;enabled=1;max=239;usage=239];[nl=vie
                    wscale-auto03-250;nic=Network adapter 1;enabled=1;max
                    =239;usage=239];[nl=desktop-auto04-260;nic=Network
                    adapter 1;enabled=1;max=239;usage=239];[nl=desktopauto05-
                    270;nic=Network adapter 1;enabled=1;max=239;us
                    age=239];[nl=desktop-auto06-280;nic=Network adapter
                    1;enabled=1;max=239;usage=239];[nl=desktop-auto07-
                    290;nic=Network adapter 1;enabled=1;max=239;usage=239
                    ];[nl=desktop-auto08-300;nic=Network adapter 1;enab
                    led=1;max=239;usage=239];[nl=desktop-auto09-310;nic
                    =Network adapter 1;enabled=1;max=239;usage=88] ...
```

仮想マシンに対するネットワーク ラベル割り当ての表示

Get-DesktopVM コマンドレットは、仮想マシンに対するネットワーク ラベル割り当ての表示に使用できます。

netLabelAutoAssigns 出力パラメータは、View が仮想マシンに割り当てようとした NIC 名とネットワーク ラベルを表示します。この情報を表示するためにコマンドラインにパラメータを追加する必要はありません。

ネットワーク ラベル構成ファイルの enabled フラグが 0 に設定されている場合、netLabelAutoAssigns の出力にはこの機能が無効として表示されます。

netLabelAutoAssigns の出力には、View 接続サーバが仮想マシン用に予約しているネットワーク ラベル割り当てが表示されます。vCenter Server の仮想マシンに割り当てられたネットワーク ラベルを表示するには、`-getNetworkLabel` パラメータを Get-DesktopVM コマンドレットで使用します。詳細については、[仮想マシンに対する vCenter Server のネットワーク ラベル割り当ての表示](#)を参照してください。

次の Get-DesktopVM コマンドレットの例は、プール pool2 の仮想マシン 918 に対するネットワーク ラベル割り当てを示しています。

```
> get-desktopvm -pool_id pool2
...
vm : 918
```

```

ps_object_type : vc_vm
id : VirtualMachine-vm-47878
vc_id : 2162aa44-e99c-4f1a-875d-dd295681d2ca
Name : pool2-1811
UnescapedName : pool2-1811
Path : /resource/vm/Discovered virtual machine/pool2/pool2-1811
GuestFullName : Microsoft Windows 7 (32-bit)
GuestID : windows7Guest
HostName : POOL2-1811.vdi3.net
IPAddress : 10.143.30.205
machine_id : 56496104-bf91-4d69-8bae-fb4493608542
user_sid :
user_displayname :
isInPool : true
pool_id : pool2
isLinkedClone : true
composerTask : refresh
netLabelAutoAssigns : {Network adapter 1=desktop-auto08-300} ...

```

仮想マシンに対する vCenter Server のネットワーク ラベル割り当ての表示

vCenter Server によって、仮想マシンにネットワーク ラベルをさらに割り当てすることもできます。これらの割り当ては View の管理の範囲外です。

vCenter Server の仮想マシンに割り当てられたネットワーク ラベルを表示するには、`-getNetworkLabel` パラメータを `Get-DesktopVM` コマンドレットで使用します。`-getNetworkLabel` パラメータを有効にするには、プール値の `$true` をコマンドラインに入力する必要があります。`Get-DesktopVM` コマンドレットの出力には、`networkLabels` パラメータが表示されます。これは、仮想マシンに対して行われた NIC とネットワーク ラベル割り当てを示します。

次の `Get-DesktopVM` コマンドレットの例は、プール `pool2` の仮想マシン 1849 に対する、vCenter Server で行われたネットワーク ラベル割り当てを示しています。

```

> get-desktopvm -pool_id pool2 -getnetworklabel $true
...
vm : 1849
ps_object_type : vc_vm
id : VirtualMachine-vm-46148
vc_id : 2162aa44-e99c-4f1a-875d-dd295681d2ca
Name : pool2-85
UnescapedName : pool2-85
Path : /resource/vm/Discovered virtual machine/pool2/pool2-85
GuestFullName : Microsoft Windows 7 (32-bit)
GuestID : windows7Guest
HostName : POOL2-85.vdi3.net
IPAddress : 192.168.1.10
networkLabels : {Network adapter 1=desktop-auto01-230}
machine_id : be14deda-ec1b-4dd1-834a-915fcc7d51a0
user_sid :
user_displayname :
isInPool : true
pool_id : pool2

```

```
isLinkedClone : true  
composerTask :  
netLabelAutoAssigns : {Network adapter 1=desktop-auto01-230} ...
```

注: `-getNetworkLabel` パラメータは長時間継続するパラメータであるため、vSphere の使用におけるオフピーク時間帯に、`-getNetworkLabel` パラメータを使用して `Get-DesktopVM` コマンドレットを実行してください。

ネットワーク ラベルの自動割り当ての無効化

既存のプールで使用しているネットワーク ラベルの自動割り当ては無効にすることができます。

手順

- 1 テキスト エディタで、ネットワーク ラベル構成ファイルを開きます。
- 2 `enabled` フラグを `false` にします。
例 : `enabled=false`
- 3 変更を保存します。
- 4 `Update-AutomaticLinkedClonePool` または `Update-AutomaticPool` コマンドレットを実行し、`-NetworkLabelConfigFile` パラメータを使用して、更新したネットワーク ラベル構成ファイルへのパスを指定します。

View は、プール内で新しい仮想マシンをプロビジョニングする際に、親仮想マシンまたはテンプレートのネットワーク ラベルを使用します。

LDAP データのカスタマイズ

VMware と Microsoft のコマンドライン ツールを使用すると、View に対して LDAP 構成データをインポートおよびエクスポートできます。これらのコマンドライン ツールは、LDAP Data Interchange Format (LDIF) 構成ファイル内の LDAP 構成データをインポートおよびエクスポートします。

この機能は、自動一括構成処理を実行する上級管理者向けです。View 構成を更新するスクリプトを作成するには、View PowerCLI を使用してください。

この章には、次のトピックが含まれています。

- LDAP 構成データの概要
- LDAP 構成データの変更

LDAP 構成データの概要

View 構成データはすべて LDAP ディレクトリに格納されます。View 接続サーバのスタンダード インスタンスまたはレプリカ インスタンスにはそれぞれ、ローカル LDAP 構成リポジトリ、および View 接続サーバ インスタンス間のレプリケーション関係が含まれます。この構成により、あるリポジトリに加えられた変更が他のすべてのリポジトリに自動的に複製されます。

View Administrator を使用して View の構成を変更すると、リポジトリ内の対応する LDAP データが更新されます。たとえば、デスクトップ プールが追加されると、View はユーザー、ユーザー グループ、および資格に関する情報を LDAP に格納します。View 接続サーバ インスタンスは、他の LDAP 構成データを自動的に管理し、リポジトリ内の情報を使用して View の操作を制御します。

LDIF 構成ファイルを使用すると、さまざまなタスクを実行できます。たとえば、View 接続サーバ インスタンス間で構成データを転送したり、View 構成のバックアップを作成して View 接続サーバ インスタンスの状態をリストアできます。

LDIF 構成ファイルを使用して、大量の View オブジェクト（デスクトップ プールなど）を定義したり、それらのオブジェクトを、View Administrator を使用してタスクを手動で実行することなく、View 接続サーバ インスタンスに追加することもできます。

View 3.1 以降のリリースでは、View は LDAP リポジトリの定期的なバックアップを実行します。

LDAP 構成データは、ASCII 形式のプレーン テキストとして転送され、Internet Engineering Task Force (IETF) RFC 2849 標準に準拠しています。

LDAP 構成データの変更

View 接続サーバインスタンス上の LDAP 構成データを LDIF 構成ファイルにエクスポートし、LDIF 構成ファイルを変更し、変更した LDIF 構成ファイルを他の View 接続サーバインスタンスにインポートすることで、自動一括構成処理を実行できます。

エクスポートした LDIF 構成ファイルの内容を調べると、View 内の LDAP 構成データの任意の項目に関する LDIF 構文の例を理解できます。たとえば、デスクトップ プールのデータを抽出し、多数のデスクトップ プールを作成するためにテンプレートとしてそのデータを使用できます。

LDAP 構成データのエクスポート

vdmexport コマンドライン ユーティリティを使用すると、スタンダードまたはレプリカの View 接続サーバインスタンスから LDIF 構成ファイルに構成データをエクスポートできます。

デフォルトでは、vdmexport コマンドライン ユーティリティは C:\Program Files\VMware\VMware View\Server\tools\bin ディレクトリにインストールされます。

手順

- 1 スタンダードまたはレプリカの View 接続サーバインスタンスにログインします。

オプション	アクション
View 3.1 以前	管理者としてログインし、[ローカル管理者] ユーザー グループのメンバーとなります。
View 4.5 以降	[管理者] または [管理者 (読み取り専用)] ロールのユーザーとしてログインします。 注: View 構成リポジトリから構成データをエクスポートするには、[管理者] または [管理者 (読み取り専用)] ロールのユーザーとしてログインする必要があります。

- 2 コマンド プロンプトで vdmexport コマンドを入力し、-f オプションを使用して、エクスポートする LDIF 構成ファイルの名前を指定します。

例: vdmexport -f myexport.LDF

または、-f オプションを使用する代わりに出力をリダイレクトすることもできます。

例: vdmexport > myexport.LDF

vdmexport コマンドは、指定されたファイルに View 接続サーバインスタンスの構成を書き込みます。このコマンドは、構成リポジトリのデータ表示に必要な権限がロールにない場合、エラーを表示します。

LDIF 構成ファイルでのデスクトップ プールの定義

LDIF 構成ファイルでデスクトップ プールを定義し、カスタマイズした LDIF 構成ファイルをインポートして、大量のデスクトップ プールを作成できます。

注: LDAP リポジトリで定義されたオブジェクト（たとえば、グローバル設定、特定の View 接続サーバインスタンスまたはセキュリティ サーバ向けの設定、特定のユーザー向けの設定など）用に、カスタマイズした LDIF 構成ファイルを作成することもできます。

LDIF 構成ファイルでデスクトップ プールを定義するには、次のエントリをファイルに追加する必要があります。

- デスクトップ プールに含まれる各仮想デスクトップの Virtual Desktop VM エントリ
- 各デスクトップ プールの VM Pool エントリ
- デスクトップ プールの資格を定義する Desktop Application エントリ

各 VM Pool エントリは 1 つの Desktop Application エントリに 1 対 1 で関連付けます。Desktop Application エントリを複数の VM Pool エントリ間で共有することはできません。また、VM Pool エントリは、1 つの Desktop Application エントリとのみ関連付けることができます。

次の表は、LDIF 構成ファイルでデスクトップ プール定義を変更するときに指定する必要のある属性を示します。

表 4-1. デスクトップ プールの定義で重要な属性

エントリ	属性	説明
Virtual Desktop VM VM Pool Desktop Application	cn	エントリの共通名。名前を自動的に生成する必要がある場合は、グローバル一意識別子 (GUID) 文字列を指定します。.NET が提供するメカニズム（たとえば、Visual Basic で System.Guid.NewGuid().ToString() を呼び出す）など、信頼性のある GUID ジェネレータであればどれを使用してもかまいません。
Desktop Application	member	デスクトップ プールにアクセスする資格を持つ、Active Directory (AD) のユーザーおよびグループのリスト。この属性は、Windows Security Identifier (SID) リファレンスの形式で指定されます。メンバー値の <SID=S-1-2-3-4> は、SID 値が S-1-2-3-4 の Active Directory ユーザーまたはグループを表します。 LDIF 形式では、左山括弧 (<) 文字は予約されているため、属性名の後にコロンを 2 つ (:) 追加し、SID 値をベース 64 形式（例：PFNJRD1TLTtMi0zLTQ+IA==）で指定する必要があります。この属性は複数値なので、複数行にわたって使用し、各エントリを SID のリストで表すことができます。

LDIF 構成ファイルのデスクトップ プール エントリのサンプル

次の例は、LDIF 構成ファイルから抜粋されたものです。このエントリ例は Pool1 というデスクトップ プールのものであり、このプールには VM1 および VM2 の 2 つの仮想デスクトップが格納されています。デスクトップ プール エントリは、デスクトップ アプリケーション エントリと対になっており、このアプリケーションの名前も Pool1 です。

```
#
# Virtual Desktop VM entry VM1
#
DN: CN=vm1,OU=Servers,DC=vdi,DC=vmware,DC=int
changetype: add
objectClass: top
objectClass: pae-Server
objectClass: pae-WinServer
objectClass: pae-ThinWinServer
objectClass: pae-VM
cn: vm1
description: sample virtual desktop entry
pae-VmSuspended:: IA==
pae-OptIgnoreProcessList: 0
pae-MOID: vm-1
pae-VmState: READY
```

```

pae-ServerManaged: 1
pae-SSOEnabled: 1
pae-DisplayName: virtual desktop 1
pae-TunneledConnection: 1
pae-pwdEncryption: KERB5
ipHostNumber: vm1
pae-ClientProtVersion: 1
pae-WinDomain: NULL
pae-thinProto: XP_RDP
pae-Services: SESSION |, HEARTBEAT |, EVENTS |, USED |
pae-VmPath: /New Datacenter/vm/vm-1
pae-OptSuspendTimeout: 0
pae-OptDisconnectLimitTimeout: 0
pae-OptMaximumSessions: 0
pae-Disabled: 0

#
# Virtual Desktop VM entry VM2
#
DN: CN=vm2,OU=Servers,DC=vdi,DC=vmware,DC=int
changetype: add
objectClass: top
objectClass: pae-Server
objectClass: pae-WinServer
objectClass: pae-ThinWinServer
objectClass: pae-VM
cn: vm2
description: sample virtual desktop entry
pae-VmSuspended:: IA==
pae-OptIgnoreProcessList: 0
pae-MOID: vm-2
pae-VmState: READY
pae-ServerManaged: 1
pae-SSOEnabled: 1
pae-DisplayName: virtual desktop 2
pae-TunneledConnection: 1
pae-pwdEncryption: KERB5
ipHostNumber: vm2
pae-ClientProtVersion: 1
pae-WinDomain: NULL
pae-thinProto: XP_RDP
pae-Services: SESSION |, HEARTBEAT |, EVENTS |, USED |
pae-VmPath: /New Datacenter/vm/vm-2
pae-OptSuspendTimeout: 0
pae-OptDisconnectLimitTimeout: 0
pae-OptMaximumSessions: 0
pae-Disabled: 0
#
# Further Virtual Desktop VM entries as required
#
#
# VM Pool entry Pool1
#
DN: CN=Pool1,OU=Server Groups,DC=vdi,DC=vmware,DC=int
changetype: add

```



```

objectClass: top
objectClass: pae-ServerPool
cn: Pool1
pae-VCDN: CN=b180b93b-2dd3-4b58-8a81-b8534a4b7565,OU=VirtualCenter,OU=Properties,DC=vdi,
DC=vmware,DC=int
pae-MemberDN: CN=vm1,OU=Servers,DC=vdi,DC=vmware,DC=int
pae-MemberDN: CN=vm2,OU=Servers,DC=vdi,DC=vmware,DC=int
pae-VmPowerPolicy: remainon
pae-VmProvEnabled: 1
pae-VmProvSuspendOnError: 1
pae-VmStartClone: 1
pae-VmPoolCalculatedValues: 1
pae-ServerPoolType: 0
pae-VmMinimumCount: 0
pae-VmHeadroomCount: 0
pae-VmMaximumCount: 0
pae-Disabled: 0

#
# Desktop Application entry Pool1 -- one entry is required for each VM Pool
#
DN: CN=Pool1,OU=Applications,DC=vdi,DC=vmware,DC=int
changetype: add
objectClass: top
objectClass: pae-Entity
objectClass: pae-App
objectClass: pae-WinApp
objectClass: pae-ThinWinApp
objectClass: pae-DesktopApplication
cn: Pool1
member:: PFNJRD1TLTEtMi0zLTQ+IA==
pae-Icon: /thinapp/icons/desktop.gif
pae-URL: \
pae-Servers: CN=Pool1,OU=Server Groups,DC=vdi,DC=vmware,DC=int
pae-ServerProtocolLevel: OSX_NETOP
pae-ServerProtocolLevel: OS2_NETOP
pae-ServerProtocolLevel: NT4_NETOP
pae-ServerProtocolLevel: WIN2K_NETOP
pae-ServerProtocolLevel: NT4_RDP
pae-ServerProtocolLevel: WIN2K_RDP
pae-ServerProtocolLevel: XP_RDP
pae-Disabled: 0

```

vdmimport コマンドを使用した LDAP 構成データのインポート

View 4.5 以降のリリースでは、vdmimport コマンドを使用して、構成データを LDIF 構成ファイルからスタンダードまたはレプリカの View 接続サーバ インスタンスにインポートできます。

デフォルトでは、vdmimport コマンドライン ユーティリティは C:\Program Files\VMware\VMware View\Server\tools\bin ディレクトリにインストールされます。

前提条件

- View 4.5 以降であることを確認します。View より前のリリースを使用している場合は、[LDIFDE コマンドを使用した LDAP 構成データのインポート](#)を参照してください。
- LDAP 構成データを LDIF 構成ファイルにエクスポートします。[LDAP 構成データのエクスポート](#)を参照してください。

手順

- 1 管理者ロールのユーザーとして View 接続サーバ インスタンスにログインします。

View 構成リポジトリに構成データをインポートするには、管理者ロール内のユーザーとしてログインする必要があります。

- 2 コマンド プロンプトで `vdmimport` コマンドを入力し、`-f` オプションを使用してインポートする LDIF 構成ファイルを指定します。

例 : `vdmimport -f myexport.LDF`

`vdmimport` コマンドの実行後、このファイルからのデータで View 接続サーバ インスタンスの構成が更新され、正常に更新されたレコード数が表示されます。ロールに十分な権限がないためにレコードを更新できなかった場合、エラーが表示されます。

LDIFDE コマンドを使用した LDAP 構成データのインポート

Microsoft LDIFDE コマンドを使用して、構成データを LDIF 構成ファイルからスタンダードまたはレプリカの View 接続サーバ インスタンスにインポートできます。

View 4.5 より前の View リリースでは、LDIF 構成ファイルからの構成データのインポートに Microsoft LDIFDE コマンドを使用する必要があります。`vdmimport` コマンドは、View 4.5 より前の View リリースではサポートされません。

View 4.5 以降を使用している場合、LDIFDE コマンドでなく、`vdmimport` コマンドを使用します。`vdmimport` コマンドでは、LDIFDE コマンドの実行によって生成される多数のエラー メッセージは表示されません。詳細については、[vdmimport コマンドを使用した LDAP 構成データのインポート](#)を参照してください。

LDIFDE コマンドでは、LDIF 構成ファイル内に定義されていない LDAP レコードが更新、作成、削除されることはないため、LDIF 構成ファイルを自分でカスタマイズし、このファイルのインポート時に、選択したレコードのみが対象となるようにできます。LDIFDE コマンドの使用方法的詳細については、<http://support.microsoft.com/kb/237677> を参照してください。

前提条件

LDAP 構成データを LDIF 構成ファイルにエクスポートします。[LDAP 構成データのエクスポート](#)を参照してください。

手順

- 1 View 接続サーバ インスタンスにログインします。

オプション	アクション
View 3.1 以降	管理者としてログインし、[ローカル管理者] ユーザー グループのメンバーとなります。
View 4.5 以降	管理者ロールのユーザーとしてログインします。 注: View 構成リポジトリに構成データをインポートするには、管理者ロール内のユーザーとしてログインする必要があります。

- 2 コマンド プロンプトで LDIFDE コマンドを入力し、-f オプションを使用して既存の LDIF 構成ファイルを指定します。

例: LDIFDE -i -f myexport.LDF -s 127.0.0.1 -z

LDIFDE コマンドの実行後、このファイルからのデータで View 接続サーバ インスタンスの構成が更新され、正常に更新されたレコード数が表示されます。

リポジトリ内の既存のエントリが上書きされるときは、毎回エラー メッセージが表示されます。これらのエラー メッセージは無視してかまいません。エラー メッセージは、ロールに十分な権限がないためにレコードを更新できない場合も表示されます。

View と Microsoft SCOM の連携

Microsoft System Center Operations Manager (SCOM) を使用すると、View 接続サーバ インスタンス、セキュリティ サーバ、および View 接続サーバやセキュリティ サーバ ホストで実行される View サービスなどの View コンポーネントの状態を監視できます。

この章には、次のトピックが含まれています。

- [SCOM との連携の設定](#)
- [Operations Manager コンソール内での View の監視](#)

SCOM との連携の設定

View と SCOM との連携には、View 接続サーバ グループへの名前の割り当て、SCOM サーバでの View 管理パックのインポート、各 View 接続サーバ インスタンスおよびセキュリティ サーバ上でのプロキシ エージェントの有効化、Operations Manager コンソールでの View 検出スクリプトの実行が含まれます。

View 接続サーバ グループへの名前の割り当て

SCOM を使用して View コンポーネントの状態を監視および管理する前に、View 内の View 接続サーバ グループに名前を割り当てる必要があります。この名前は Operations Manager コンソールに表示され、SCOM 内の View 接続サーバ グループを識別するのに役立ちます。

注: View Administrator には、View 接続サーバ グループの名前は表示されません。

前提条件

vdmadmin コマンドライン インターフェイスについて理解しておきます。詳細については、『View 管理』を参照してください。

手順

- 1 View 接続サーバ グループ内のいずれかの View 接続サーバ ホストにログインします。
- 2 コマンド プロンプトで、vdmadmin コマンドを -C オプションと -c オプションを指定して入力します。

例 : `vdmadmin -C -c group_name`

-c オプションは、View 接続サーバ グループに割り当てる名前を指定します。

例：View 接続サーバ グループ名の割り当て

この例では、vdmadmin コマンドは、View 接続サーバ グループの名前を VCSG01 に設定します。

```
vdmadmin -C -c VCSG01
```

次のステップ

SCOM サーバへの View 管理パックのインポートに説明されている手順を実行します。

View 管理パック

View 管理パックを導入すると、View コンポーネントの状態の監視と管理に SCOM を使用できます。

表 5-1. View 管理パック

View 管理パック	説明
VMware.View.Discovery.mp	View がインストールされたサーバのインスタンスを検出するエージェントが含まれます。
VMware.View.Monitoring.mp	Operations Manager コンソールで View と一緒に使用できるビューとモニターが含まれます。
VMware.View.Library.mp	View 内の管理対象オブジェクトのクラスおよび関係の定義が含まれます。
VMware.View.Image.Library.mp	VMware.View.Library.mp で定義されるクラスを表すグラフィックが含まれます。

View 管理パックは、View 接続サーバ ソフトウェアのインストール時に、View 接続サーバ インスタンスまたはセキュリティ サーバ上の C:\Program Files\VMware\VMware View\Server\extras\ManagementPacks ディレクトリにインストールされます。

View 管理パックには、SCOM と一緒にインストールされるデフォルトのシステム管理パックと、Microsoft Windows Server ベースの OS System Center Operations Manager 2007 用の管理パックが必要です。

SCOM サーバへの View 管理パックのインポート

SCOM を使用して View コンポーネントの状態を監視および管理するには、View 管理パックを SCOM サーバにインポートする必要があります。

重要: McAfee VirusScan Enterprise 8.0i は、SCOM が使用する Visual Basic スクリプトの操作をブロックします。使用可能なパッチの詳細については、<http://support.microsoft.com/kb/890736/en-us> を参照してください。

前提条件

- View 接続サーバ グループへの名前割り当てに説明されている手順を実行します。
- View 管理パックについて理解しておきます。View 管理パックを参照してください。

手順

- 1 View 接続サーバ インスタンスまたはセキュリティ サーバから SCOM サーバに View 管理パックをコピーします。

View 管理パックは、View 接続サーバ ホストまたはセキュリティ サーバの C:\Program Files\VMware\VMware View\Server\extras\ManagementPacks ディレクトリにあります。

- 2 Operations Manager コンソールで、[管理\管理パック] に移動し、[管理パックのインポート] を選択します。
- 3 管理パックのインポート ウィザードを使用して、View 管理パックをインポートします。

次のステップ

View 接続サーバ ホストまたはセキュリティ サーバでのプロキシ エージェントの有効化に説明されている手順を実行します。

View 接続サーバ ホストまたはセキュリティ サーバでのプロキシ エージェントの有効化

SCOM を使用して監視する各 View 接続サーバ ホストまたはセキュリティ サーバで、プロキシ エージェントを有効にするには、Operations Manager コンソールを使用する必要があります。検出スクリプトで Windows サーバを検出できるのは、そのサーバのプロキシ エージェントを有効にした場合のみです。

前提条件

SCOM サーバへの View 管理パックのインポートに説明されている手順を実行します。

手順

- 1 Operations Manager コンソールで、[管理\管理対象エージェント] に移動し、サーバを選択して [プロパティ] をクリックします。
- 2 [セキュリティ] タブで [このエージェントがプロキシとして動作し、他のコンピュータの管理対象オブジェクトを検出することを許可する] オプションを選択します。
- 3 [OK] をクリックして変更を保存します。

Operations Manager コンソール内での検出スクリプトの実行

検出スクリプトは、View server がインストールされているシステムを検出します。Windows サーバのレジストリを検査し、View ソフトウェアのバージョン、サーバのタイプ、View 接続サーバ グループの ID を示すエントリを探します。

注: 検出スクリプトの手動実行はオプションです。検出スクリプトは、1 時間に 1 回自動的に実行されるようにスケジュール設定されます。

前提条件

- SCOM サーバへの View 管理パックのインポートに説明されている手順を実行します。

- [View 接続サーバ ホストまたはセキュリティ サーバでのプロキシ エージェントの有効化](#)に説明されている手順を実行します。検出スクリプトは、プロキシ エージェントを Windows サーバに対して有効にするために Operations Manager コンソールを使用する場合にのみ、Windows サーバを検出できます。

手順

- 1 Operations Manager コンソールで、[監視\Windows コンピュータ] に移動します。
- 2 コンピュータ システムを選択し、[VMware View 検出プローブの実行] アクションをクリックします。

View server がコンピュータ上にインストールされていることが検出スクリプトによって検出された場合、VMware.View.Library 管理パック内で定義された View オブジェクト クラスのインスタンスが作成され、これらの管理対象オブジェクト間の関係が確立されます。

View 接続サーバ インスタンスおよびセキュリティ サーバ用の管理対象オブジェクトのリストについては、[View 接続サーバ およびセキュリティ サーバの管理対象オブジェクト](#)を参照してください。View オブジェクト クラスおよびそれらの関係の詳細については、[View のオブジェクト クラスおよび関係](#)を参照してください。

次のステップ

(オプション) Operations Manager コンソール内でオブジェクトを表示し、検出スクリプトがサーバのために作成するオブジェクトを確認します。[検出された管理対象 View オブジェクトの表示](#)を参照してください。

View 接続サーバ およびセキュリティ サーバの管理対象オブジェクト

検出スクリプトでは、View 接続サーバ インスタンスおよびセキュリティ サーバ用の管理対象オブジェクトが検出されます。

表 5-2. VMware 接続サーバ インスタンスおよびセキュリティ サーバの管理対象オブジェクト

オブジェクト	View 接続サーバ インスタンス	セキュリティ サーバ
VMware.View.Cluster	X	X
VMware.View.Cluster.Node.Item	X	X
VMware.View.ConnectionServerRole.Item	X	X
VMware.View.Component.ConnectionServer.Item	X	X
VMware.View.Component.Framework.Item	X	X
VMware.View.Component.Web.Item	X	
VMware.View.Component.Directory.Item	X	
VMware.View.Component.SecureGateway.Item	X	X
VMware.View.Component.MessageBus.Item	X	
VMware.View.Component.SecurityServer.Item		X

View のオブジェクト クラスおよび関係

VMware.View.Library 管理パックには、View 管理パック用のクラスおよび関係の定義が含まれます。1 つのクラスには、名前や ID などの複数のプロパティがあります。クラス間の関係は、それらのクラスの階層を表します。

たとえば、関係 `contains` が `VMware.View.Clusters` と `VMware.View.Cluster` の間にあり、`VMware.View.Cluster` と `VMware.View.Cluster.Node` の間にあります。

`VMware.View.Library` 管理パックには、クラスおよびプロパティ用のフレンドリ名の文字列も含まれます。SCOM コンソールには、クラス名およびプロパティ名の代わりに、フレンドリ名が表示されます。

View 接続サーバ グループ クラス

`VMware.View.Library` 管理パックには、View 接続サーバ グループ クラス定義が含まれます。

表 5-3. View ライブラリ View 接続サーバ グループ クラス

クラス名	説明
<code>VMware.View.Cluster</code>	View 接続サーバ グループを表します。このクラスには、 <code>ClusterID</code> プロパティおよび <code>DisplayName</code> （グループ名）プロパティがあります。
<code>VMware.View.Clusters</code>	<code>VMware.View.Cluster</code> のインスタンスが格納される 1 つのクラスを表します。

基本クラス

`VMware.View.Library` 管理パックには、抽象基本クラス定義が含まれます。

注: これらの基本クラスから導出される現在サポートされているインスタンスは、View 5.1.x 以降のリリースである必要があります。

表 5-4. View ライブラリ基本クラス

クラス名	説明
<code>VMware.View.Cluster.Node</code>	View 接続サーバ グループのメンバーを表します。このクラスには、 <code>ClusterID</code> 、 <code>ClusterName</code> 、 <code>ProductVersion</code> 、 <code>InstallPath</code> の各プロパティがあります。
<code>VMware.View.Component</code>	View 接続サーバ グループのメンバーにインストールされている View コンポーネントを表します。このクラスには <code>Name</code> プロパティがあります。
<code>VMware.View.Component.ConnectionServer</code>	View 接続サーバ グループのメンバーにインストールされている 接続サーバ コンポーネントを表します。このクラスは、 <code>VMware.View.Component</code> からプロパティを継承します。
<code>VMware.View.Component.Directory</code>	View 接続サーバ グループのメンバーにインストールされているディレクトリ コンポーネントを表します。このクラスは、 <code>VMware.View.Component</code> からプロパティを継承します。
<code>VMware.View.Component.Framework</code>	View 接続サーバ グループのメンバーにインストールされているフレームワーク コンポーネントを表します。このクラスは、 <code>VMware.View.Component</code> からプロパティを継承します。
<code>VMware.View.Component.MessageBus</code>	View 接続サーバ グループのメンバーにインストールされているメッセージ バス コンポーネントを表します。このクラスは、 <code>VMware.View.Component</code> からプロパティを継承します。
<code>VMware.View.Component.SecurityGateway</code>	View 接続サーバ グループのメンバーにインストールされているセキュリティ ゲートウェイ コンポーネントを表します。このクラスは、 <code>VMware.View.Component</code> からプロパティを継承します。
<code>VMware.View.Component.SecurityServer</code>	View 接続サーバ グループのメンバーにインストールされているセキュリティ サーバ コンポーネントを表します。このクラスは、 <code>VMware.View.Component</code> からプロパティを継承します。

クラス名	説明
VMware.View.Component.Web	View 接続サーバ グループのメンバーにインストールされている Web コンポーネントを表します。このクラスは、VMware.View.Component からプロパティを継承します。
VMware.View.ConnectionServerRole	接続サーバ が一緒にインストールされている View 接続サーバ グループのメンバーを表します。このクラスは、VMware.View.NodeRole からプロパティを継承します。
VMware.View.NodeRole	View 接続サーバ グループのメンバーのロールを表します。
VMware.View.SecurityServerRole	セキュリティ サーバと一緒にインストールされている View 接続サーバ グループのメンバーを表します。このクラスは、VMware.View.NodeRole からプロパティを継承します。

具象クラス

VMware.View.Library 管理パックには、具象クラス定義が含まれます。

注: これらの具象クラスは最新バージョンであり、View 5.1.x 以降のリリースでサポートされます。

表 5-5. View ライブラリ具象クラス

クラス名	説明
VMware.View.Cluster.Node.Item	バージョン 5.1.x 以降の View リリースがインストールされた View 接続サーバ グループ メンバーを表します。このクラスは、VMware.View.Cluster.Node からプロパティを継承します。
VMware.View.Component.ConnectionServer.Item	View 接続サーバ グループのメンバーにインストールされているバージョン 5.1.x 以降のリリースの 接続サーバ コンポーネントを表します。このクラスは、VMware.View.Component.ConnectionServer からプロパティを継承します。
VMware.View.Component.Directory.Item	View 接続サーバ グループのメンバーにインストールされているバージョン 5.1.x 以降のリリースのディレクトリ コンポーネントを表します。このクラスは、VMware.View.Component.Directory からプロパティを継承します。
VMware.View.Component.Framework.Item	View 接続サーバ グループのメンバーにインストールされているバージョン 5.1.x 以降のリリースのフレームワーク コンポーネントを表します。このクラスは、VMware.View.Component.Framework からプロパティを継承します。
VMware.View.Component.MessageBus.Item	View 接続サーバ グループのメンバーにインストールされているバージョン 5.1.x 以降のリリースのメッセージ バス コンポーネントを表します。このクラスは、VMware.View.Component.MessageBus からプロパティを継承します。
VMware.View.Component.SecurityGateway.Item	View 接続サーバ グループのメンバーにインストールされているゲートウェイ コンポーネントを表します。このクラスは、VMware.View.Component.SecureGateway からプロパティを継承します。
VMware.View.Component.SecurityServer.Item	View 接続サーバ グループのメンバーにインストールされているバージョン 5.1.x 以降のリリースのセキュリティ サーバ コンポーネントを表します。このクラスは、VMware.View.Component.SecurityServer からプロパティを継承します。
VMware.View.Component.Web.Item	View 接続サーバ グループのメンバーにインストールされているバージョン 5.1.x 以降のリリースの Web コンポーネントを表します。このクラスは、VMware.View.Component.Web からプロパティを継承します。

クラス名	説明
VMware.View.ConnectionServerRole.Item	バージョン 5.1.x 以降のリリースの 接続サーバと一緒にインストールされている View 接続サーバ グループのメンバーを表します。このクラスは、VMware.View.NodeRole からプロパティを継承します。
VMware.View.SecurityServerRole.Item	バージョン 5.1.x 以降のリリースのセキュリティ サーバと一緒にインストールされている View 接続サーバ グループのメンバーを表します。このクラスは、VMware.View.NodeRole からプロパティを継承します。

Operations Manager コンソール内での View の監視

View が SCOM と連携された場合、Operations Manager コンソールを使用して View コンポーネントを監視および管理できます。

View で使用するビューおよびモニター

VMware.View.Monitoring 管理パックには、Operations Manager コンソールで View コンポーネントの監視および管理に使用できるビューとモニターが含まれます。

View オブジェクトに利用可能なビュー

VMware.View.Monitoring 管理パックで定義されたビューは、検出された View オブジェクトの確認に使用できます。

表 5-6. View オブジェクトに対して使用できるビュー

View	説明
アクティブ アラート	重要な View アラートを表示します。
ノード状態	すべての View 接続サーバ グループで検出されたすべてのメンバーの状態を表示します。
グループ状態	検出された View 接続サーバ グループの状態を表示します。
グループ	検出されたすべての View 接続サーバ グループ、メンバー、ロール、およびコンポーネントの図を表示します。アイコンとコネクタをクリックすることで、オブジェクトとオブジェクト同士の関係の詳細を取得できます。
接続サーバ ロールのパフォーマンス データ	次のデータ セットが表示されます。 <ul style="list-style-type: none"> ■ すべてのセッション ■ すべてのセッション高 ■ SVI セッション ■ SVI セッション高
Secure Gateway ロールのパフォーマンス データ	次のデータ セットが表示されます。 <ul style="list-style-type: none"> ■ Secure Gateway セッション ■ Secure Gateway セッション高

View オブジェクトに使用できるモニター タイプ

VMware.View.Monitoring 管理パックには、次のモニター タイプが用意されています。

パフォーマンス モニター	システム データを収集し、このデータを SCOM パフォーマンス データベースおよびデータ ウェアハウスに返します。このデータは、接続サーバ ロールのパフォーマンス データまたは Secure Gateway ロールのパフォーマンス データのグラフィカルなビューで確認できます。
サービス コンポーネント モニター	View コンポーネント サービスの状態に関する情報を収集します。監視対象のサービスが実行中でない場合、SCOM はその状態をエラーとして設定し、アラートを生成します。コンポーネントがエラー状態にある場合、影響を受ける View 接続サーバ グループとそのメンバーもエラー状態になります。
ドメイン接続モニター	View 接続サーバ インスタンスが、メンバーとして属するすべてのドメインにバインドできることを確認します。モニターは、View 接続サーバ インスタンスの Web コンポーネントの状態を 3 分おきにクエリします。View 接続サーバ インスタンスがドメインにバインドできない場合、SCOM はその状態をエラーとして設定し、アラートを生成します。
イベント データベース接続 モニター	イベント データベースが構成されており、イベントがデータベースに書き込み可能であることを確認します。モニターは Web コンポーネントを 3 分おきにクエリし、イベント データベースが接続されていない場合はアラートが発生します。
Virtual Center (vCenter) Server 接続モニター	View 接続サーバ インスタンスが、構成された vCenter Server インスタンスに接続できることを確認します。モニターは 3 分おきに Web コンポーネントをクエリし、vCenter Server インスタンスが使用可能でない場合はアラートが発生します。

View 接続サーバ インスタンス用のサービス コンポーネント モニター

次の表は、VMware.View.Monitoring 管理パックが提供する View 接続サーバ インスタンス用サービス コンポーネント モニターの一覧です。

表 5-7. View 接続サーバ インスタンス用の View サービス コンポーネント モニター

モニター	表示名	監視対象サービス
ConnectionServerServiceCheck	View 接続サーバ サービスの健全性	VMware View 接続サーバ
FrameworkServiceCheck	基本的なフレームワーク サービスの健全性	VMware View Framework コンポーネント
MessageBusServiceCheck	Message Bus サービスの健全性	VMware View Message Bus コンポーネント
SecureGatewayCheck	セキュリティ ゲートウェイ サービスの健全性	VMware View セキュリティ ゲートウェイ コンポーネント
WebServiceCheck	Web サービスの健全性	VMware View Web コンポーネント
DirectoryServiceCheck	ディレクトリ サービスの健全性	VMwareVDMDS

セキュリティ サーバ用のサービス コンポーネント モニター

次の表は、VMware.View.Monitoring 管理パックが提供するセキュリティ サーバ用サービス コンポーネント モニターの一覧です。

表 5-8. セキュリティ サーバ用の View Server コンポーネント モニター

モニター	表示名	監視対象サービス
SecureGatewayServerServiceCheck	セキュリティ サーバ サービスの健全性	VMware View セキュリティ サーバ
FrameworkServiceCheck	基本的なフレームワーク サービスの健全性	VMware View Framework のコンポーネント
SecureGatewayCheck	セキュリティ ゲートウェイ サービスの健全性	VMware View セキュリティ ゲートウェイ コンポーネント

検出された管理対象 View オブジェクトの表示

検出された管理対象 View オブジェクトは Operations Manager コンソールで表示できます。

前提条件

View を SCOM と連携させます。[SCOM との連携の設定](#)を参照してください。

手順

- ◆ 検出スクリプトによってサーバ用に作成された View オブジェクトを表示するには、Operations Manager コンソールで [監視\検出インベントリ] に移動します。
- ◆ SCOM が管理する View オブジェクトと、それらのオブジェクト間の関係を表示するには、Operations Manager コンソールで [監視\VMware View] に移動し、必要なビューを選択します。

パフォーマンス情報の表示

Operations Manager コンソールでは、View 接続サーバ インスタンスまたはセキュリティ サーバのパフォーマンス データをグラフィカルに表示できます。

前提条件

View を SCOM と連携させます。[SCOM との連携の設定](#)を参照してください。

手順

- 1 Operations Manager コンソールで [監視\VMware View\パフォーマンス] に移動します。
- 2 [接続サーバ ロールのパフォーマンス データ] または [Secure Gateway ロールのパフォーマンス データ] ビューを選択します。
- 3 必要なデータ セットを選択します。

View 接続サーバ グループのアラートの表示

Operations Manager コンソールの Health Explorer を使用すると、健全性モニターが検出した View 接続サーバ グループに関するアラートの情報を表示できます。

前提条件

View を SCOM と連携させます。[SCOM との連携の設定](#)を参照してください。

手順

- 1 Operations Manager コンソールで [監視\VMware View] に移動し、[アクティブ アラート] ビューを選択します。
- 2 アラートを選択して、そのアラートのナレッジベース記事を表示します。

アラートのクローズ

アクションなしで Operations Manager コンソール内のアラートを閉じることができます。

注: この方法を実行しても、根本原因がなくなる限り、アラートは再び表示されます。

前提条件

View を SCOM と連携させます。[SCOM との連携の設定](#)を参照してください。

手順

- 1 Operations Manager コンソールで [監視\VMware View] に移動し、[アクティブ アラート] ビューを選択します。
- 2 アラートを選択し、[アラートのクローズ] アクションをクリックします。

View コンポーネント サービスの再起動

Operations Manager コンソール内の Health Explorer からサービスを再起動できます。このサービス コンポーネント監視は、View コンポーネント サービスが動作を停止した場合にアラートを表示します。

前提条件

View を SCOM と連携させます。[SCOM との連携の設定](#)を参照してください。

手順

- 1 Operations Manager コンソールで [監視\VMware View] に移動し、[グループ状態] ビューまたは [グループ ノード状態] ビューを選択します。
- 2 View 接続サーバ グループまたはアラート状態にあるメンバーを右クリックし、[開く] - [Health Explorer] の順にクリックします。
- 3 Health Explorer でアラートを選択し、ナレッジ記事の [Restart the service] をクリックします。

接続監視からのドメインの除外

Domain Connectivity Health モニターは、View 接続サーバ ホストのドメインと信頼されるドメインとの間の接続をチェックします。ドメインのアラートが表示されないようにするには、そのドメインを接続監視から除外します。

前提条件

View を SCOM と連携させます。[SCOM との連携の設定](#)を参照してください。

手順

- 1 Operations Manager コンソールで [監視\VMware View] に移動し、[グループ状態] ビューまたは [グループノード状態] ビューを選択します。
- 2 View 接続サーバ インスタンスを右クリックし、[開く] - [Health Explorer] を選択します。
- 3 Health Explorer で View 接続サーバ インスタンスの [ドメイン接続の健全性] エントリを右クリックし、[プロパティの監視] を選択します。
- 4 [上書き] タブで [上書き] をクリックし、同じクラスのすべてのオブジェクトを対象としたオプションを選択します。
- 5 [プロパティの上書き] ウィンドウで、DomainExcludeList パラメータの [上書き] チェック ボックスを選択し、除外したドメインの名前を [上書き設定] テキスト ボックスに入力して、[適用] チェック ボックスを選択します。
複数のドメインを除外するには、ドメイン名を空白で区切って指定します。
- 6 [適用] をクリックした後、[OK] をクリックして変更内容を保存します。

WMI を使用した PColP セッション統計情報の確認

6

Windows Management Instrumentation (WMI) を使用すると、PColP セッションのパフォーマンス統計情報を確認できます。これは、サポートされるプログラミング インターフェイス (C#、C++、PowerShell、VBScript、VB.NET、Windows Management Instrumentation Command-line (WMIC) など) を使用して実行できます。

Microsoft WMI Code Creator ツールを使用して、PColP パフォーマンス カウンタにアクセスする VBScript、C#、および VB.NET コードを生成することもできます。WMI、WMIC、および WMI Code Creator ツールの詳細については、<http://technet.microsoft.com/en-us/library/bb742610.aspx> と <http://www.microsoft.com/downloads/en/details.aspx?familyid=2cc30a64-ea15-4661-8da4-55bbc145c30e&displaylang=en> を参照してください。

この章には、次のトピックが含まれています。

- PColP セッション統計情報の使用
- 一般的な PColP セッション統計情報
- PColP オーディオ統計情報
- PColP イメージング統計情報
- PColP ネットワーク統計情報
- PColP USB 統計情報
- PColP 統計情報を表示する PowerShell コマンドレットの使用例

PColP セッション統計情報の使用

PColP セッション統計情報の WMI 名前空間は、`root\CIMV2` です。この統計情報の名前には、PColP Server と PColP クライアントのどちらで統計情報が記録されるかに応じて、(Server) または (Client) というサフィックスが付きます。

Windows パフォーマンス モニター (PerfMon) とカウンタを使用して、指定したサンプル期間中の平均を算出できます。リモートでパフォーマンス カウンタにアクセスするには、管理者権限がある必要があります。

すべての統計情報は、PColP セッションが閉じられるときに 0 にリセットされます。WMI

`SessionDurationSeconds` プロパティがゼロ以外の値であり、一定に保たれる場合、PColP Server は強制的に終了されるかクラッシュします。`SessionDurationSeconds` プロパティがゼロ以外の値から 0 に変更された場合、PColP セッションは閉じられます。

ゼロ除算エラーを回避するには、帯域幅を計算するための式の分母またはパケット損失率の計算結果が 0 にならないことを確認します。

USB 統計情報はゼロ クライアントに関して記録されますが、シン クライアントまたはソフトウェア クライアントに関しては記録されません。

一般的な PColP セッション統計情報

一般的な PColP セッション統計情報の WMI クラス名は Win32_PerfRawData_TeradiciPerf_PCoIPSessionGeneralStatistics です。

表 6-1. 一般的なセッション統計情報

WMI プロパティ名	説明
BytesReceived	PColP セッションの開始後に受信された PColP データの合計バイト数。
BytesSent	PColP セッションの開始後に送信された PColP データの合計バイト数。
PacketsReceived	PColP セッションの開始後に正常に受信された合計パケット数。すべてのパケットが同じサイズとは限りません。
PacketsSent	PColP セッションの開始後に送信された合計パケット数。すべてのパケットが同じサイズとは限りません。
RXPacketsLost	PColP セッションの開始後に失われた合計受信パケット数。
SessionDurationSeconds	PColP セッションが開かれている合計秒数。
TXPacketsLost	PColP セッションの開始後に失われた合計送信パケット数。

受信 PColP データのバンド幅の計算

時間 t1 から時間 t2 の期間に受信された PColP データのバンド幅を kbps 単位で計算するには、次の計算式を使用します。

$$(\text{BytesReceived}[t2] - \text{BytesReceived}[t1]) * 8 / (1024 * (t2 - t1))$$

送信 PColP データのバンド幅の計算

時間 t1 から時間 t2 の期間に送信された PColP データのバンド幅をキロビット/秒単位で計算するには、次の計算式を使用します。

$$(\text{BytesSent}[t2] - \text{BytesSent}[t1]) * 8 / (1024 * (t2 - t1))$$

受信 PColP データのパケット損失の計算

失われた受信パケットの割合を計算するには、次の計算式を使用します。

$$100 / (1 + ((\text{PacketsReceived}[t2] - \text{PacketsReceived}[t1]) / (\text{RXPacketsLost}[t2] - \text{RXPacketsLost}[t1])))$$

送信 PColP データのパケット損失の計算

失われた送信パケットの割合を計算するには、次の計算式を使用します。

$$100 * (TXPacketsLost[t2] - TXPacketsLost[t1]) / (PacketsSent[t2] - PacketsSent[t1])$$

PCoIP オーディオ統計情報

PCoIP オーディオ統計情報の WMI クラス名は、Win32_PerfRawData_TeradiciPerf_PCoIPSessionAudioStatistics です。

注: オーディオ統計情報には、USB データ内で伝送されるオーディオ データは含まれません。

表 6-2. PCoIP オーディオ統計情報

WMI プロパティ名	説明
AudioBytesReceived	PCoIP セッションの開始後に受信されたオーディオ データの合計バイト数を示します。
AudioBytesSent	PCoIP セッションの開始後に送信されたオーディオ データの合計バイト数を示します。
AudioRXBkbitPersec	サンプリング期間中に平均が算出された入力オーディオ パケットのバンド幅を秒単位で示します。
AudioRXBkbitPersec	サンプリング期間中に平均が算出された出力オーディオ パケットのバンド幅を秒単位で示します。
AudioTXBWLimitkbitPersec	出力オーディオ パケットの転送バンド幅制限 (kbps) を示します。この制限は、GPO 設定によって定義されます。

受信オーディオ データのバンド幅の計算

時間 t1 から時間 t2 の期間に受信されたオーディオ データのバンド幅を kbps 単位で計算するには、次の計算式を使用します。

$$(\text{AudioBytesReceived}[t2] - \text{AudioBytesReceived}[t1]) * 8 / (1024 * (t2 - t1))$$

この計算に AudioRXBkbitPersec を使用しないでください。

送信オーディオ データのバンド幅の計算

時間 t1 から時間 t2 の期間に送信されたオーディオ データのバンド幅を kbps 単位で計算するには、次の計算式を使用します。

$$(\text{AudioBytesSent}[t2] - \text{AudioBytesSent}[t1]) * 8 / (1024 * (t2 - t1))$$

この計算に AudioRXBkbitPersec を使用しないでください。

PCoIP イメージング統計情報

PCoIP イメージング統計情報の WMI クラス名は、
Win32_PerfRawData_TeradiciPerf_PCoIPSessionImagingStatistics です。

表 6-3. PCoIP イメージング統計情報

WMI プロパティ名	説明
ImagingBytesReceived	PCoIP セッションの開始後に受信されたイメージング データの合計バイト数を示します。
ImagingBytesSent	PCoIP セッションの開始後に送信されたイメージング データの合計バイト数を示します。
ImagingDecoderCapabilitykbitPersec	イメージング デコーダの推定処理能力 (kbps) を示します。この統計情報は、1 秒に 1 回更新されます。
ImagingEncodedFramesPersec	1 秒間のサンプリング期間中にエンコードされたイメージング フレーム数を示します。
ImagingActiveMinimumQuality	0～100 の等級のエンコードされた品質の最低値です。この統計情報は、1 秒に 1 回更新されます。このカウンタは、最低品質の GPO 設定とは対応していません。
ImagingRXBkbitPersec	サンプリング期間中に平均が算出された受信イメージング パケットの帯域幅を秒単位で示します。
ImagingTXBkbitPersec	サンプリング期間中に平均が算出された送信イメージング パケットの帯域幅を秒単位で示します。

受信イメージング データの帯域幅の計算

時間 t1 から時間 t2 の期間に受信されたイメージング データの帯域幅を kbps 単位で計算するには、次の計算式を使用します。

$$(\text{ImagingBytesReceived}[t2] - \text{ImagingBytesReceived}[t1]) * 8 / (1024 * (t2 - t1))$$

この計算に ImagingRXBkbitPersec を使用しないでください。

送信イメージング データの帯域幅の計算

時間 t1 から時間 t2 の期間に送信されたイメージング データの帯域幅を kbps 単位で計算するには、次の計算式を使用します。

$$(\text{ImagingBytesSent}[t2] - \text{ImagingBytesSent}[t1]) * 8 / (1024 * (t2 - t1))$$

この計算に ImagingTXBkbitPersec を使用しないでください。

PCoIP ネットワーク統計情報

PCoIP ネットワーク統計情報の WMI クラス名は、
Win32_PerfRawData_TeradiciPerf_PCoIPSessionNetworkStatistics です。

表 6-4. PColP ネットワーク統計情報

WMI プロパティ名	説明
RoundTripLatencyms	PCoIP Server と PCoIP クライアントとの間のラウンド トリップ遅延をミリ秒単位で示します。
RXBWkbitPersec	サンプリング期間中に平均が算出された受信 PCoIP パケットの全体帯域幅を秒単位で示します。
RXBWPeakkbitPersec	1 秒間のサンプリング期間中の受信 PCoIP パケットのピーク帯域幅 (kbps) を示します。
RXPacketLossPercent	サンプリング期間中に失われた受信パケットの割合を示します。
TXBWkbitPersec	サンプリング期間中に平均が算出された送信 PCoIP パケットの全体帯域幅を秒単位で示します。
TXBWActiveLimitkbitPersec	使用可能な推定ネットワーク帯域幅 (kbps) を示します。この統計情報は、1 秒に 1 回更新されます。
TXBWLimitkbitPersec	出力パケットの転送帯域幅制限 (kbps) を示します。この制限は、次の値のうちの最小値です。 <ul style="list-style-type: none"> ■ PCoIP クライアントの GPO 帯域幅制限 ■ PCoIP Server の GPO 帯域幅制限 ■ ローカル ネットワーク接続の帯域幅制限 ■ 暗号化制限に基づく、ゼロ クライアント ファームウェア用のネゴシエートされた帯域幅制限
TXPacketLossPercent	サンプリング期間中に失われた送信パケットの割合を示します。

受信ネットワーク データの帯域幅の計算

時間 t1 から時間 t2 の期間に受信されたデータの帯域幅を kbps 単位で計算するには、次の計算式を使用します。

$$(\text{BytesReceived}[t2] - \text{BytesReceived}[t1]) * 8 / (1024 * (t2 - t1))$$

この計算に RXBWkbitPersec を使用しないでください。

送信ネットワーク データの帯域幅の計算

時間 t1 から時間 t2 の期間に送信されたデータの帯域幅を kbps 単位で計算するには、次の計算式を使用します。

$$(\text{BytesSent}[t2] - \text{BytesSent}[t1]) * 8 / (1024 * (t2 - t1))$$

この計算に TXBWkbitPersec を使用しないでください。

受信ネットワーク データのパケット損失の計算

時間 t1 から時間 t2 の期間に受信されたデータのパケット損失をパーセントで計算するには、次の計算式を使用します。

$$\text{PacketsReceived during interval} = (\text{PacketsReceived}[t2] - \text{PacketsReceived}[t1])$$

$$\text{RXPacketsLost during interval} = (\text{RXPacketsLost}[t2] - \text{RXPacketsLost}[t1])$$

```
RXPacketsLost % = RXPacketsLost during interval /
(RXPacketsLost during interval + PacketsReceived during interval) * 100
```

この計算に RXPacketLostPercent または RXPacketLostPercent_Base を使用しないでください。

送信ネットワーク データのパケット損失の計算

時間 t1 から時間 t2 の期間に送信されたデータのパケット損失をパーセントで計算するには、次の計算式を使用します。

```
PacketsSent during interval = (PacketsSent[t2]-PacketsSent[t1])

TXPacketsLost during interval = (TXPacketsLost[t2]-TXPacketsLost[t1])

TXPacketsLost % = TXPacketsLost during interval /
(TXPacketsLost during interval + PacketsSent during interval) * 100
```

この計算に TXPacketLostPercent または TXPacketLostPercent_Base を使用しないでください。

この計算式は、パケット損失割合が 100% を超えないようにするために使用します。PacketsLost および PacketsSent は同期していないため、この計算が必要です。

PCoIP USB 統計情報

PCoIP USB 統計情報の WMI クラス名は、Win32_PerfRawData_TeradiciPerf_PCoIPSessionUSBStatistics です。

表 6-5. PCoIP USB 統計情報

WMI プロパティ名	説明
USBBytesReceived	PCoIP セッションの開始後に受信された USB データの合計バイト数を示します。
USBBytesSent	PCoIP セッションの開始後に送信された USB データの合計バイト数を示します。
USBRXBkbitPersec	サンプリング期間中に平均が算出された受信 USB パケットの帯域幅を秒単位で示します。
USBTXBkbitPersec	サンプリング期間中に平均が算出された送信 USB パケットの帯域幅を秒単位で示します。

受信 USB データの帯域幅の計算

時間 t1 から時間 t2 の期間に受信された USB データの帯域幅を kbps 単位で計算するには、次の計算式を使用します。

```
(USBBytesReceived[t2]-USBBytesReceived[t1]) * 8 / (1024 * (t2-t1))
```

この計算に USBRXBkbitPersec を使用しないでください。

送信 USB データの帯域幅の計算

時間 t_1 から時間 t_2 の期間に送信された USB データの帯域幅を kbps 単位で計算するには、次の計算式を使用します。

$$(\text{USBBytesSent}[t_2] - \text{USBBytesSent}[t_1]) * 8 / (1024 * (t_2 - t_1))$$

この計算に USBTXBWkbitPersec を使用しないでください。

PCoIP 統計情報を表示する PowerShell コマンドレットの使用例

PowerShell コマンドレットを使用して、PCoIP 統計情報を表示できます。

次の例では、Get-WmiObject コマンドレットを使用して、クライアント cm-02 の PCoIP ネットワーク統計情報を取得します。

```
Get-WmiObject -namespace "root\cimv2" -computername cm-02 -class
Win32_PerfRawData_TeradiciPerf_PCoIPSessionNetworkStatistics
```

次の例では、Get-WmiObject コマンドレットを使用して、送信済みパケットが失われた場合にデスクトップ dt-03 の PCoIP 一般セッション統計情報を取得します。

```
Get-WmiObject -namespace "root\cimv2" -computername desktop-03 -query "select * from
Win32_PerfRawData_TeradiciPerf_PCoIPSessionGeneralStatistics where TXPacketsLost > 0"
```

セッション開始スクリプトを使用した デスクトップポリシーの設定

7

セッション開始スクリプトを使用すると、Horizon Client および View 接続サーバから受信した情報に基づいてデスクトップセッションが開始される前に、特定の View デスクトップ設定を構成できます。

たとえば、異なるデスクトップポリシーを持つ複数のデスクトッププールを設定しなくても、セッション開始スクリプトを使用することで、クライアント デバイスおよびユーザーの場所に基づいてデスクトップポリシーを構成できます。セッション開始スクリプトによって、組織の内部ドメインに属する IP アドレスを持つユーザーに対してマッピングされたドライブ、クリップボード リダイレクトなどのデスクトップ機能を有効にしつつ、外部ドメイン内の IP アドレスを持つユーザーに対してはこれらの機能を無効にできます。

この章には、次のトピックが含まれています。

- セッション開始スクリプトの入力データの取得
- セッション開始スクリプト使用のベスト プラクティス
- セッション開始スクリプトを使用するための View デスクトップの準備
- セッション開始スクリプトのサンプル

セッション開始スクリプトの入力データの取得

セッション開始スクリプトはインタラクティブに実行することはできません。セッション開始スクリプトは、View が作成する環境内で実行され、このスクリプトの入力データをその環境から取得する必要があります。

セッション開始スクリプトは、クライアント コンピュータ上の環境変数から入力データを収集します。セッション開始環境変数には、VDM_StartSession_ というプリフィックスが付けられます。たとえば、クライアント システムの IP アドレスが格納されたセッション開始環境変数は VDM_StartSession_IP_Address です。セッション開始スクリプトが使用する任意の環境変数が存在するかどうかを、そのスクリプト自体が検証できることを確認する必要があります。

セッション開始環境変数に類似する変数のリストは、『Horizon 7 でのリモート デスクトップ機能の構成』ドキュメントの View デスクトップに送信されるクライアント システム情報に関する項を参照してください。

セッション開始スクリプト使用のベスト プラクティス

セッション開始スクリプトを使用する際は、次のベスト プラクティスに従います。

セッション開始スクリプトの使用場面

セッションの開始前にデスクトップ ポリシーを構成する必要がある場合にのみ、セッション開始スクリプトを使用します。

ベスト プラクティスとして、デスクトップ セッションの接続後または再接続後に、Horizon AgentCommandsToRunOnConnect および CommandsToRunOnReconnect グループ ポリシー設定を使用してコマンド スクリプトを実行します。セッション開始スクリプトを使用する代わりにデスクトップ セッション内でスクリプトを実行すると、ほとんどの使用事例に対応できます。

詳細については、『Horizon 7 でのリモート デスクトップ機能の構成』ドキュメントの「View デスクトップ上でのコマンドの実行」を参照してください。

開始セッションのタイムアウトの管理

セッション開始スクリプトの実行が迅速に行われるようにします。

Windows レジストリで WaitScriptsOnStartSession 値を設定した場合は、Horizon Agent が View 接続サーバから送信される StartSession メッセージに応答する前に、セッション開始スクリプトの実行が完了している必要があります。スクリプトの実行が長時間継続すると、StartSession 要求がタイムアウトすることがあります。

タイムアウトが発生し、プールが流動割り当てを使用する場合、View 接続サーバ はユーザーを別の仮想マシンに接続しようとします。タイムアウトが発生し、使用可能な仮想マシンがない場合、View 接続サーバ はユーザーの接続要求を拒否します。

ベスト プラクティスとして、スクリプト ホスト操作のハード タイムアウトを設定し、スクリプトの実行が長時間に続く場合に特定のエラーが返されるようにします。

セッション開始スクリプトにアクセス権を設定する

セッション開始スクリプトを構成するパスにアクセスできるのは、SYSTEM アカウントとローカル管理者のみであることが必要です。これらのアカウントのみにアクセスを許可するようにベース キーの ACL を設定します。

ベスト プラクティスとして、*View_Agent_install_path\scripts* ディレクトリにセッション開始スクリプトを配置します。次はその例です。

```
%ProgramFiles%\VMware\VMware View\Agent\scripts\sample.vbs
```

デフォルトでは、このディレクトリには SYSTEM アカウントと管理者アカウントのみがアクセスできます。

セッション開始スクリプトを使用するための View デスクトップの準備

セッション開始スクリプトを使用するように View デスクトップを準備するには、VMware View スクリプト ホスト サービスを有効にし、Windows レジストリ内にエントリを追加する必要があります。

セッション開始スクリプトを実行する必要があるすべての View デスクトップを構成する必要があります。View では、レジストリの変更内容、VMware View スクリプト ホスト サービス構成の変更内容、セッション開始スクリプトを複数の View デスクトップ仮想マシンに伝達するメカニズムは提供されません。

VMware View スクリプト ホスト サービスの有効化

View によるセッション開始スクリプトの実行を行う各 View デスクトップ仮想マシンで、VMware View スクリプト ホスト サービスを有効にする必要があります。デフォルトでは、VMware View スクリプト ホスト サービスは無効になっています。

VMware View スクリプト ホスト サービスを構成する際は、オプションで、セッション開始スクリプトを実行するユーザー アカウントを指定できます。セッション開始スクリプトは、VMware View スクリプト ホスト サービスのコンテキストで実行されます。デフォルトでは、VMware View ホスト スクリプト サービスは SYSTEM ユーザーとして実行するように構成されています。

重要: セッション開始スクリプトは、デスクトップ ユーザー セッション外で実行され、デスクトップ ユーザー アカウントとしては実行されません。情報は、SYSTEM ユーザーとして実行しているスクリプト内で、クライアント コンピュータから直接送信されます。

手順

- 1 View デスクトップ仮想マシンにログインします。
- 2 コマンド プロンプトで `services.msc` と入力し、Windows サービス ツールを起動します。
- 3 詳細ペインで VMware View スクリプト ホスト サービスのエントリを右クリックし、[プロパティ] を選択します。
- 4 [全般] タブで、[スタートアップの種類] ドロップダウン メニューから [自動] を選択します。
- 5 (オプション) ローカル システム アカウントによるセッション開始スクリプトの実行を許可しない場合は、[ログイン] タブで [アカウント] を選択し、セッション開始スクリプトを実行するアカウントのユーザー名とパスワードを入力します。
- 6 [OK] をクリックして Windows サービス ツールを終了します。

セッション開始スクリプト用の Windows レジストリ エントリの追加

View がセッション開始スクリプトを実行する各 View デスクトップ仮想マシンでは、Windows レジストリ エントリを追加する必要があります。

前提条件

- セッション開始スクリプトを構成したパスには、SYSTEM アカウントとローカル管理者のみがアクセスできることを確認します。詳細については、[セッション開始スクリプトにアクセス権を設定する](#)を参照してください。
- セッション開始スクリプトの実行が迅速に行われるようにします。Windows レジストリで `WaitScriptsOnStartSession` 値を設定した場合は、Horizon Agent が View 接続サーバから送信される `StartSession` メッセージに応答する前に、セッション開始スクリプトの実行が完了している必要があります。詳細については、[開始セッションのタイムアウトの管理](#)を参照してください。

手順

- 1 View デスクトップ仮想マシンにログインします。
- 2 コマンド プロンプトで `regedit` と入力し、Windows レジストリ エディタを起動します。

3 レジストリで HKLM\SOFTWARE\VMware, Inc.\VMware VDM\ScriptEvents に移動します。

4 セッション開始スクリプトへのパスをレジストリに追加します。

- a ナビゲーション領域で ScriptEvents を右クリックし、[新規] - [キー] を選択して、StartSession という名前のキーを作成します。
- b ナビゲーション領域で StartSession を右クリックし、[新規] - [文字列値] を選択して、実行するセッション開始スクリプトを識別する文字列値（SampleScript など）を作成します。

複数のセッション開始スクリプトを実行するには、StartSession キーの下でスクリプトごとに文字列値エントリを作成します。これらのスクリプトの実行順序は指定できません。特定の順序でスクリプトを実行する必要がある場合は、それらを単一の制御スクリプトから呼び出します。

- c トピック領域で、新しい文字列値のエントリを右クリックして [変更] を選択します。
- d [値のデータ] テキスト ボックスにセッション開始スクリプトを呼び出すコマンド ラインを入力し、[OK] をクリックします。

セッション開始スクリプトのフルパスと、必要なファイルを入力します。

5 レジストリにセッション開始値を追加して有効にします。

- a HKLM\SOFTWARE\VMware, Inc.\VMware VDM\Agent\Configuration に移動します。
- b （オプション） Configuration キーがない場合は、[Agent] を右クリックして [新規] - [キー] を選択し、キーを作成します。
- c ナビゲーション領域で Configuration を右クリックし、[新規] - [DWORD (32 ビット) 値] を選択して RunScriptsOnStartSession と入力します。
- d トピック領域で、新しい DWORD 値のエントリを右クリックして [変更] を選択します。
- e [値のデータ] テキスト ボックスに 1 と入力してセッション開始スクリプトを有効にし、[OK] をクリックします。

この機能を無効にするには、0 と入力します。デフォルト値は 0 です。

- f （オプション） Horizon Agent による StartSession 応答を遅らせるには、WaitScriptsOnStartSession という 2 つ目の DWORD 値を Configuration キーに追加します。

WaitScriptsOnStartSession データ値を 1 にすると、Horizon Agent による StartSession 応答が遅れて送信され、スクリプトが完了しない場合は失敗します。値を 0 にすると、Horizon Agent は、スクリプトの完了を待機しない、または StartSession 応答を送信する前にスクリプトの終了コードを確認します。デフォルト値は 0 です。

- 6 スクリプトがタイムアウトになるのを避けるため、タイムアウト値を（分単位ではなく）秒単位で指定するためのレジストリ値を設定します。

このタイムアウト値を秒単位で設定すると、VMware View スクリプト ホスト サービスのタイムアウト値を秒単位で構成できます。たとえば、VMware View スクリプト ホスト サービスのタイムアウト値を 30 秒に設定すると、View 接続サーバがタイムアウトになる前に、セッション開始スクリプトの実行を終了するか、タイムアウトにすることができます。

- a HKLM\SOFTWARE\VMware, Inc.\VMware VDM\ScriptEvents に移動します。
- b TimeoutsInMinutes という DWORD 値を追加します。
- c データ値を 0 に設定します。

- 7 （オプション）VMware View スクリプト ホスト サービスによるセッション開始スクリプトのタイムアウトを有効にするには、タイムアウト値を設定します。

- a HKLM\SOFTWARE\VMware, Inc.\VMware VDM\ScriptEvents\StartSession に移動します。
- b トピック領域で Default (@) キーを右クリックし、[変更] を選択します。
- c [値のデータ] テキスト ボックスにタイムアウト値を入力し、[OK] をクリックします。

値 0 は、タイムアウトを設定しないことを意味します。

- 8 レジストリ エディタを終了し、システムを再起動します。

セッション開始スクリプトのサンプル

これらのセッション開始スクリプトのサンプルは、環境変数のファイルへの書き込み方法、タイムアウト機能のテスト方法、ゼロ以外の終了コードのテスト方法を示したものです。

次の Visual Basic スクリプト例では、スクリプトに提供されるすべての環境変数がファイルに書き込まれます。このサンプル スクリプトは、自分の環境内での例のデータを確認する目的で使用できます。このスクリプトは、C:\sample.vbs として保存するのが適している場合があります。

```
Option Explicit
Dim WshShell, FSO, outFile, strOutputFile, objUserEnv, strEnv

strOutputFile = "c:\setvars.txt"

Set FSO = CreateObject("Scripting.FileSystemObject")
Set outFile = FSO.CreateTextFile(strOutputFile, TRUE)
outFile.WriteLine("Script was called at (" & Now & ")")

Set WshShell = CreateObject( "WScript.Shell" )
Set objUserEnv = WshShell.Environment("PROCESS")
For Each strEnv In objUserEnv
    outFile.WriteLine(strEnv)
Next

outFile.Close
```

次のサンプル スクリプトでは、タイムアウト機能がテストされます。

```
Option Explicit  
WScript.Sleep 60000
```

次のサンプル スクリプトでは、ゼロ以外の終了コードがテストされます。

```
Option Explicit  
WScript.Quit 2
```